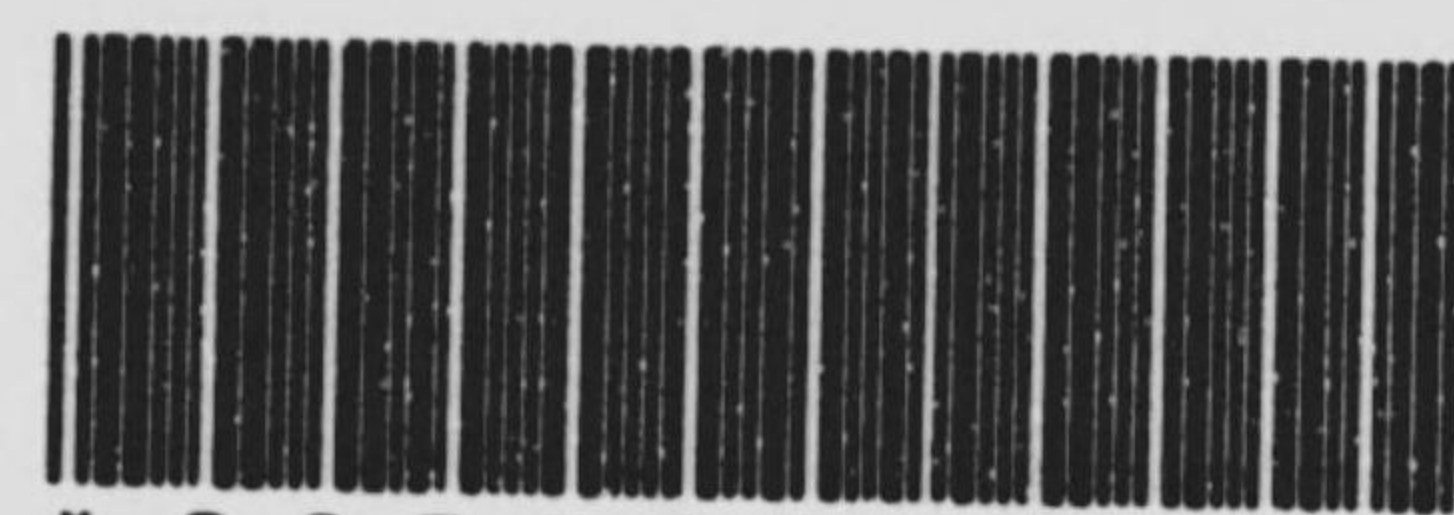


GA79
19



* 0056658000 *

0056658-000

GA79-19

世界大戦ノ戦術的観察

偕行社編集部・編

偕行社

第2巻

1927. 5

AJD

GA79
19

歐洲戰爭叢書特第二十號

世界大戰ノ戰術的觀察 (第二卷)

緒言

一、本叢書ハ當部職員中歐洲戰爭ヲ研究セル者ノ作業ヲ編纂シ我軍事界ノ參考ニ供スルヲ目的トナス之カ爲メ叙事ト評論トヲ問ハス苟モ研究ノ資トナスヘキモノハ得ルニ隨テ之ヲ録ス而シテ其叙事ハ現時材料ノ關係上確實ヲ期シ難キモノアリ又其評論ハ作業者ノ私見ニ過キササルヲ以テ正鵠ヲ失スルモノナキヲ保セス

二、本叢書ノ記事ハ主トシテ「歐洲戰爭概要」(偕行社刊行)ヲ基礎トナシ之ニ最近ニ得タル材料ヲ參取セルモノナリ故ニ「歐洲戰爭概要」ノ記事ト一致セサル點アルトキハ本叢書ノ記事ヲ以テ比較的正確ニ近キモノトナスヘシ

三、「歐洲戰爭概要」ノ冒頭ニ掲ケタル凡例ハ本叢書ニモ亦之ヲ適用ス

參 謀 本 部



85W35819

歐洲戰爭叢書特號總目次

特第一號 千九百十四年「リエージュ」及「ナムール」要塞ノ攻略
 特第二號 英國埃及遠征軍ノ作戰
 特第三號 千九百十四年「フランドル」會戰
 特第四號 千九百十四年「ロツヅ」附近ノ會戰
 特第五號 大局ヨリ見タル世界戰史(千九百十四年)
 特第六號 同 (千九百十五年)
 特第七號 同 (千九百十六年)
 特第八號 同 (千九百十七年)
 特第九號 同 (千九百十八年)
 特第十號 千九百十七年 西方戰場ニ於ケル統帥ノ真相
 特第十一號 殲滅戰
 特第十二號 開戰前ニ於ケル佛軍ノ作戰計畫及「マルヌ」會戰ニ至ル研究 (其一)
 特第十三號 同 (其二)
 特第十四號 同 (其三)
 特第十五號 同 (其四)
 特第十六號 千九百十四年 露埃第一會戰ニ於ケル埃軍總司令部及第四軍ノ行動
 特第十七號 千九百二十一年 希土戰爭經過ノ概要
 特第十八號 熱キ地ニ戰スルノ概念
 特第十九號 世界大戰ノ戰術的觀察 (第一卷)

世界大戰ノ戰術的觀察 (第二卷)

目次

第二篇 第二期(強襲戰法時代) (自千九百十六年 至千九百十七年)
 第一章 概説 一
 第二章 「ベルダン」ノ攻防戰 三
 第一節 「ベルダン」戰ノ特性 三
 第二節 「ベルダン」戰迄ノ佛軍築城ノ變遷 四
 戰前ノ防禦方式、原則ノ適用、滯陣初期ノ防禦陣地、連續陣地
 ノ發生、「シャンパーニュ」冬季戰ノ經驗ニ基ク改造、「アラス」戰
 ノ經驗ニ基ク指示、「シャンパーニュ」秋季戰ノ教訓、教令ト實
 際、舊據點式ノ價值
 第三節 佛軍ノ防禦陣地及兵備ノ大要 一八

要塞無價値論、防禦陣地ノ概要、兵備

第四節 攻撃ノ成果ニ關スル根本思想ノ一變化……………二二

消耗戰、「ベタン」將軍ノ意見、「ファルケンハイン」ノ意見、消耗

戰ト戰法

第五節 突破作戰ニ關スル獨軍ノ觀察……………二五

突破ト攻撃兵力ノ大小、突破ノ能否ト軍隊ノ價値

第六節 獨軍ノ攻撃(附圖第四、第五參照)……………二八

攻撃ノ一特徴、理想ト實施、精密射擊ヨリ地帶射擊へ、歩兵ノ攻

撃法、突撃陣地過近ノ爲メ失敗セシ戰例、制限目標ノ攻撃前進、

歩兵戰法變遷上ノ一紀元、蠶食的攻撃、佛軍ノ防戰、「ベタン」將

軍、佛軍ノ回復、「ベルダン」戰ノ終期、成績

第七節 佛軍ノ防禦戰鬪法……………四三

初期ノ防禦、愛動的防禦戰鬪、防禦戰鬪鞏強ナラサリシ一例、

「ベタン」將軍ノ改善セシ事項、自動車ノ利用、自動車ト専用道

路、師團ノ交代、「ニヴェール」、「マンチャン」ノ攻勢的防禦、攻勢的

防禦ノ利害、攻撃ハ防禦ノ最良手段

第八節 「ベルダン」戰ニ於ケル砲兵……………五三

砲兵技術ノ競争、解決スヘキ砲兵問題、右諸問題ト「ベルダン」

戰、試射時間ノ短縮、歩砲ノ連繫、右方法ノ採用カ歩兵戰法ニ及

ホシタル影響、因襲的歩兵戰法、豫備隊ノ新用途、固定彈幕射擊、

巨砲ノ使用、巨砲ノ適否、佛軍ノ砲兵並使用法、砲兵ノ情報勤

務、相互支援ノ原則、移動彈幕射擊ノ發案、移動彈幕射擊ノ試驗

的戰例、平時演習ノ價値、彈幕射擊ノ缺陷、戰法ノ急襲

第三章 「ソンム」會戰(自十六年七月一日至同年十月下旬)……………六九

第一節 會戰前一般ノ情況……………七〇

協同作戰ノ困難、「ソンム」戰ノ發端、「ソンム」攻撃ノ方針、「フォッ

シュ「將軍、ベルダン」戰ノ影響、攻撃計畫ノ一變、陣地戰ト先制權

第二節 「ソナム」戰ニ於ケル獨軍(附圖第六及第七參照) 七四

獨軍ノ配備、防禦陣地、防禦戰鬪方式、細部ノ防禦配備、逆襲、逆襲ノ變遷、線狀配置ト逆襲、平行陣地ト逆襲、逆襲ノ困難、歩兵兵力ノ配備要領

第三節 攻勢會戰法ノ根本方針 八二

岐路ニ立チタル佛軍、愈々強襲的トナリタル所以、藥ノ利キ過キ、徹底的ナル逐次攻撃、攻撃戰法ノ變遷、會戰ノ永續、逐次攻撃ニヨル突破戰ノ利害、突破戰ト消耗戰

第四節 攻撃戰法 九一

第一款 敵砲兵ノ破壊ニ就テ 九一
砲兵戰ノ變遷、飛行機ノ發達ト砲兵、「ソナム」戰ニ於ケル飛行機

第二款 佛軍砲兵ノ戰鬪區分 九七

一師團地區内ノ砲兵數、砲兵ノ指揮系統ノ利害

第三款 歩砲ノ協同 一〇〇

歩砲ノ協同方法ノ沿革、「ソナム」戰ニ於ケル方法、砲兵ノ連絡者前遣

第四款 歩兵小部隊ノ戰術 一〇三

歩兵戰術變遷ノ經路、戰前ノ原則ノ由來、大戰當初、射擊單位ノ低下、突擊單位ノ變遷、突擊隊形、指揮單位低下ノ傾向、歩兵ノ分業化、輕機關銃ノ援用、輕機關銃初期ノ使用法、小隊ハ基本單位

第五節 第二陣地ノ攻撃 一一三

軍團及師團ノ任務、攻撃ノ制限、第二陣地ノ攻撃準備、第二線師團ノ交代要領

第六節 攻撃兵力及攻撃經過ノ概要 一二七

佛軍ノ攻撃兵力、英軍ノ攻撃兵力、攻撃前進開始、英軍ノ攻撃方針一變、攻撃第五日ノ成績、成績ノ比較、獨軍兵力増加、第二次攻撃、獨軍ノ抵抗、第三次ノ攻撃、獨軍ノ窮乏、「ソナム」戦ノ終熄

第七節 獨軍ノ防禦戰鬪法ノ推移 一二六

防禦戰法ノ一變轉期、防者ノ進退兩難、防禦ノ一新方法、因襲的戰法ヨリ蟬脱、戰法上ノ奇襲、砲撃地區ノ退避、陣地ノ死守、守兵ハ前方ニ潛進、頑強ナル防戦、聯合作戦ノ困難、作戦地境ニ近キ地點、大規模ノ逆襲、恢復攻撃ノ方法、恢復攻撃ノ利益、防禦兵力部署、指揮機關ノ固定

第八節 航空隊ノ顯著ナル發達 一四五

初期ニ於ケル攻防兩軍ノ航空勢力、劣勢ナル航空隊ノ使用

第九節 英佛軍ノ攻撃ニ關スル觀察 一四九

英佛軍攻勢ノ好機、過度ニ限定セシ攻撃ノ不利ナル戦例、同第二戦例、逐次攻撃ノ非難、攻撃砲兵ノ配屬數、「過キタルハ猶及ハサルカ如シ」

世界大戰ノ戰術的觀察

(第二卷)

第二篇 第二期(強襲戰法時代)(自千九百十六年
至千九百十七年)

第一章 概説

西方戰場ニ於テハ佛軍ヲ中樞トスル聯合軍ハ十六年ニ入ルモ從來ノ如ク概ネ攻勢ヲ維持シ遂ニ露國ノ崩壞シテ東方戰場ニアリシ獨軍其兵力ヲ西方戰場ニ轉用シ得ルニ至ル迄攻勢ヲ維持シ十七年ヲ終レリ

本期間ノ初期ニ於テハ聯合軍ハ西方戰場ニ於テ徹底的攻勢ヲ「ソナム」方面ニ指向セント準備シアリシカ此時迄西方戰場ニ守勢ノミヲ維持セシ獨軍ハ機先ヲ制シ十六年二月「ベルダン」ニ對シ突發的ニ攻撃ヲ開始セリ是レ獨軍ニトリテハ西方戰場ニ於ケル陣地戰第一回ノ攻勢會戰トス然レトモ之ヲ聯合軍從來ノ攻勢ニ比スレハ其規模小ニシテ而モ其作戰目的稍異ルモノアリ而モ全般ノ形勢ハ永ク獨軍ノ攻勢ヲ維持スルヲ許ササリシヲ以テ本期間モ亦概シテ聯

合軍ノ攻勢獨壇時期トナレリ

十六、十七ノ兩年間、西方戰場ニ於テ多ク用ヒラレタル攻撃戦法ノ根本主義ハ從來ノ諸會戰ト同一主義トス

從テ此二年間英佛軍カ實施セシ諸會戰ハ其大規模ニシテ而モ慎重ナル點ニ關シテハ改善ノ跡ヲ見ルモ其根本主義ニ至リテハ前記「シャンプーニユ」秋季戦ト其軌ヲ一ニセル強襲的戦法ナリ本來此主義ハ戰術上ノ見地ヨリセハ「シャンプーニユ」戦後我從軍武官カ「ベタン」將軍ニ質シタルカ如キ缺陷アリ(既述)即チ攻撃準備砲撃過度ニ徹底的ナルカ爲急襲的效果ヲ失フコト是ナリ此缺陷ヲ醫シ急襲的成果ヲ獲得スヘキ道自ラ多々アルヘキモ其最モ重要ナルヲ砲兵技術ノ改善トシ之ニ次クモノハ歩兵ノ裝備、戰術ノ改良ニアリトス而シテ前者ニアリテハ砲撃時間ノ短縮ヲ計リ急襲的成果ヲ大ナラシムルヲ要シ後者ニアリテハ砲撃ノ成果ヲ迅速ニ利用セシムルノ要アルコト是ナリ然レトモ此兩種ノ改善ハ一朝一夕ニ其目的ヲ達シ得ヘキモノニアラスシテ多クノ考案ト

實驗トヲ要ス本期ハ實ニ此改善ノ實驗時期ニシテ實際ニ於テモ亦幾多ノ改善ヲ見タリ此改善ニ依リ搖籃時代ニ哺マレタル新時代ノ諸戦法ハ本期ニ入りテ漸次完全ナル發達ヲ遂クルニ至レリ是ニ於テ十八年ニ於ケル攻撃戦ハ戰術上合理的ナル戦法ニヨリ指導シ得ルノ準備ヲ得タルナリ故ニ之ヲ換言セハ前期ハ實ニ新戦法ノ少年時代ニシテ本期ハ其壯年時代ニ當ルモノト謂フヲ得ヘシ

第二章 「ベルダン」ノ攻防戦

第一節 「ベルダン」戦ノ特性

「ベルダン」戦ハ獨軍攻勢ノ目的カ突破ヲ企圖セシモノニアラサルヲ以テ其本質上ヨリ云ヘハ十五年ニ行ハレ「アラス」會戰及「シャンプーニユ」秋季戦ノ如キ突破戦ト同日ニ論スヘキ範圍ニアラスト雖本「ベルダン」戦ハ獨軍ニ於ケル第一回ノ攻勢戦ナルト本會戰カ戰術ノ變遷上ニ多大ナル關係ヲ及ホシタルトニヨリ之ヲ研究スルノ價值甚大ナリ

「ベルダン」ニ於ケル獨軍ノ攻撃方法ハ前年五月露軍ニ對シ「ゴルリッツ」ニ於テ行ヘルト同一ノ方法ナリトス即チ數時間ノ砲撃後歩兵ノ攻撃前進ヲ起シタル點ニ於テ英佛軍ノ爲セシモノト大ニ趣ヲ異ニシ急襲的色彩甚タ濃厚ナルモノアリ從テ十五年秋季ヨリ十七年末迄續キタル西方戰場ノ陣地戰—觀ルモノヲシテ陰慘ニシテ活氣ナキ感ノミヲ與ヘシムル—ニ一服ノ清涼劑ヲ投シタルノ感アリ

一方佛軍ニ於テハ本會戰ハ陣地戰ニ於ケル最初ノ防禦會戰ニシテ佛人ハ歴史的二十六年ヲ「ベルダン」戰年ト云フ程此防禦會戰ヲ重要視セリ從テ佛軍ノ防禦戰法及築城ニ重要ナル變遷ヲ齎セリ之ヲ要スルニ本「ベルダン」戰ハ攻撃防禦ノ兩戰法ニ大ナル教訓ヲ殘シ爲ニ「ベルダン」戰ハ戰法ノ變遷ヲ研究スル上ニ於テ重要ナル一紀元ヲナセリ

第二節 「ベルダン」戰迄ノ佛軍築城ノ變遷

佛軍ハ前篇ノ冒頭ニ述ヘタル如ク本來數線陣地主義ナリシヲ以テ主トシテ攻

勢ヲ保持セシ前期搖籃時代ニ於テハ獨軍ノ如ク陣地編成法ニ大ナル變遷ナキカ如ク想像セララルモ實際ニ於テハ否ラス寧ろ獨軍ノ變遷ノ經過ノ單純ナルニ比セハ甚タ錯雜ナル經路ヲ履メルハ奇ナル現象ニシテ机上ノ學說ト實戰ノ經驗トノ矛盾ヲ指摘スルモノ甚タ多シ故ニ以下「ベルダン」戰ニ於ケル佛軍ノ防禦法ヲ述フルニ先チ當時迄ニ於ケル佛軍築城ノ變遷ヲ左ニ述ヘントス

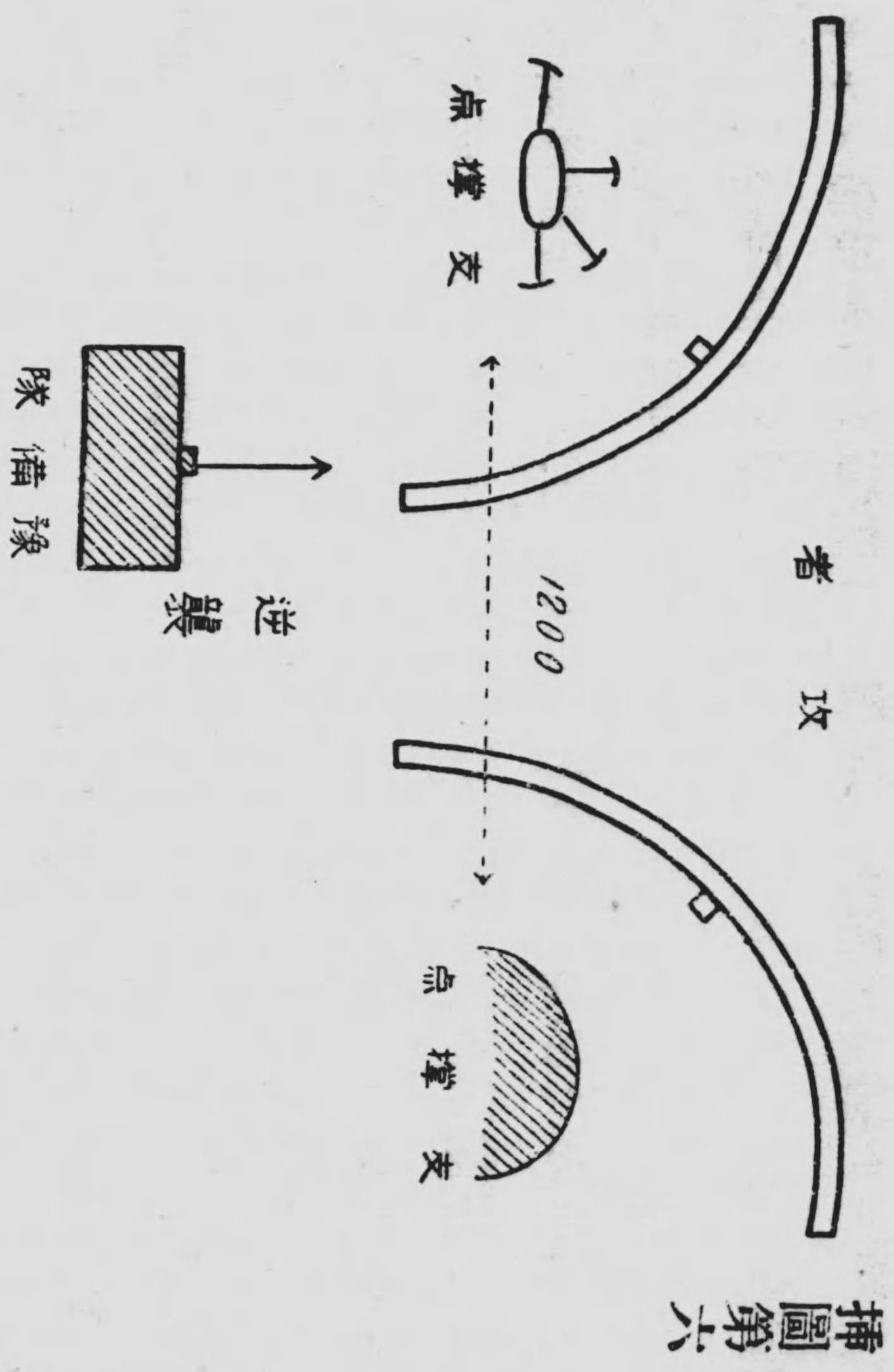
戰前ノ防禦方式

佛軍ニ於テハ戰前防禦ヲ輕視セシ爲カ戰前ノ典範令ニ於テハ之ヲ示ス所甚タ少キモ是等ヲ綜合スル時ハ戰前ニ於ケル防禦方式ハ左ニ述フルカ如シ

防禦陣地ハ前進陣地、主要陣地及第二線ノ三線ヨリナル其各線ノ任務左ノ如シ

1. 前進陣地ハ主要陣地ニアル諸隊ニ戰鬪準備ヲ取ルノ時間ヲ與フル爲メ敵ノ前進ヲ遲滯セシムルヲ任トス
2. 主要陣地ハ敵ヲ拒止スヘキ本陣地タリ
3. 第二線ノ陣地ハ敵ノ侵入ヲ制限スル豫備陣地タリ

右(1)ハ陣地戰初期ニ於テハ採用セラレサリシモ漸次其必要ヲ認メ結局第一陣地ヲ前進陣地トナスニ至リ戰後ニ於テハ各國共ニ之ヲ設クルコトトナレリ所謂前哨陣地下云フモノ即チ是ナリ(前哨陣地成立ノ經過ニ關シテハ後述ス)而シテ本章ニ於テ特ニ研究スヘキハ主要陣地ノ編成法トス戰前ニ於ケル佛軍ノ防禦陣地編成法ハ大體ニ於テ據點式防禦法ナリ即チ陣地ハ相互ノ間隔最大限千二百米ヨリナル集團工事式支撐點ヲ併列シタルモノニシテ一支撐點ハ一個又ハ二個中隊ヲ充テ小隊又ハ半小隊ヲ入ルル若干ノ塹壕ヲ以テ閉鎖堡ヲ構成シ支撐點ノ複廊トナス斯ノ如キ陣地ニヨリテ防禦スル其要領ヲ圖示セハ左圖ノ如シ



即チ佛軍ハ『敵ヲ拒止スル爲メニ最モ緊要ナルハ防禦軍隊ヲ迅速ニ後方ニ集結シ峻烈ナル攻撃ヲ開始ス』ルヲ要訣トセリ換言セハ火力ト運動力ヲ併用シテ防禦ノ目的ヲ達成センカ爲據點式ニ設ケタル防禦支撐點ヲ其逆襲ノ據點タ

ラシメントスルニアリ

原則ノ適用 戰爭開始當初ヨリ佛軍ハ右原則ヲ適用シ何レモ千米内外ノ間隔ヲ有セル地物

ヲ據點トシテ軍隊ヲ配置セリ然レトモ過度ニ攻撃精神ヲ鼓吹セラレタル佛軍ハ防禦工事ヲ構築スルヲ好マサリシト其兵力ヲ右ノ如キ主義ニ基キ各小地區ニ集團セシメテ據點タラシメントセシ爲メ直ニ獨軍砲兵ノ目標トナリシノミナラス各據點ハ忽ニシテ獨軍歩兵ノ包圍ヲ受ケ佛軍豫備隊ノ攻勢ニ轉スルニ先チ攻略セララルルヲ常トセリ

佛國「ポット」大尉ハ右ノ情況ニ就キ「以上八千九百十四年八月末ノ諸戰闘ニ參加セシモノハ何人モ直ニ推論セシ所ナリ」ト、此據點式防禦法ハ斯ノ如キ弊害アリタル爲メ爾後軍隊ハ此方則ヲ適用スルヲ大ニ嫌忌シ次テ起リシ陣地戰闘ニ於テハ此防禦限地占領法ヲ忌避セリ

即チ滯陣初期ノ防禦陣地ハ戰前ノ原則ニ拘ハルコトナク而シテ又何等ノ教令ニヨルコトモナク佛軍歩兵ハ連續セル陣地ヲ占領セリ素ヨリ此ノ如キ連續陣地ノ防禦初期ノ發生

連續陣地ノ發生 地ノ生シタル一方ノ原因ハ陣地構成ノ動機カ攻撃的見地ニ發セルコトモ亦看過スル能ハス即チ佛軍カ「マルヌ」河畔ヨリ獨軍ヲ追尾シタル後攻撃戰闘交綏シタル爲ニ一方ニ於テ常ニ攻撃再興ノ機ヲ窺ヒツツアルト同時ニ他方ニ於テ防禦工事ノ必要ヲ感シ漸次攻撃陣地ヲ構成セリ此陣地ハ即チ連續陣地タリ而シテ守備部隊ハ時日ノ經過ト共ニ防禦的見地ニ基キ之ヲ改造スルニ方リ佛軍軍隊ハ戰前ノ原則ニ基キ之ヲ據點式ニ改變スルヲ肯セサリキ是レ此種連續陣地ハ相互ノ連絡ヲ容易ニスルノミナラス此連絡ニヨリ警戒モ亦容易トナリ各人又孤立ヲ感スルコトナク從テ敵ノ迂回ヲ顧慮スルヲ要セサレハナリ即チ佛軍

（獨軍モ亦

然）ハ戰前學理上ヨリ排斥セラレタル線狀陣地ヲ自然ノ必要ニ基キ構成スルニ至レルナリ而シテ斯ノ如キ防禦法ヲ採用シタルカ爲メ獨軍ノ小企圖ノ攻撃ニ對シテモ有利ニ抵抗シ得タルノミナラス此種防禦法ハ敵ノ潛入ヲ防遏スルニ便ニシテ守兵ノ不安ヲ輕減セリ加之守兵カ一支撐點ニ集團セルニ比シ敵ヲシテ其砲彈ヲ浪費セシムルコトノ大ナルヲ發見セリ

之ヲ要スルニ右ノ如キ防禦法ハ學理上大ナル兵員ヲ要スルノ不利アルモノナルモ前述ノ如キ佛軍カ十四年ノ運動戰ニ於テ獨軍ヨリ包圍セラレタルヲ忘レサル結果斯ノ如ク占領法ヲ取ルニ至レルナリ而シテ此方法ハ攻撃ニヨリテ獲得セル土地ヲ寸土モ失ハサランコトヲ期シタル心理狀態ト攻撃後防勢ニ立チタル場合ニ生スル心理狀態(成ルヘク工事等ヲ簡單ニナサントスル慾望及沈靜狀態ニ復歸スルト共ニ發生スル恐怖的心理)ヨリ考フルモ自然ナル經路ナリト謂ハサルヘカラス

「アラス」戰ノ經驗ニ基ク指
(詳細ハ歐洲戰爭叢書特號第一陣地戰「一頁參照」)

佛軍下級部隊ノ實情右ノ如シ然ルニモ拘ラス佛軍統帥部ニ於テハ「ジャンパー」冬季戰ノ經驗ニ基キ十五年一月三日及同三月六日竝七日ニ教令ヲ出シ連續陣地ヲ廢シ陣地ヲ據點式ニ改造セシメントセリ此教令ノ要旨ヲ述フレハ「成ルヘク據點式ニナスヲ可トスルコト、據點相互ノ間隔中ニハ障礙物ヲ設ケ障礙物ノ前方ニハ監視所ヲ設クヘキコト、第一線散兵壕ノ後方ニ支援散兵壕ヲ設クヘキコト、第二陣地ヲ構築スヘキコト及洞窟掩蔽部ノ價值大ナルコト」等ノ如シ

然レトモ佛軍「ボット」大尉ノ述フル所ニヨレハ右ノ教令ニ基キ直ニ其工事ヲ改造セシハ二、三ノ軍ノミニ止リ「ボット」大尉自身ノ如キハ右教令中ニ於テ記憶ニ存セル事項ハ洞窟掩蔽部ノ事ノミナリシト云フ、以テ右據點式防禦ノ主義カ佛國軍隊ニ嫌疑セラレタルヤヲ知ルヲ得ヘシ斯ノ如ク此教令ノ權威ヲ認めラレサルハ此教令ニ於テハ多クハ戰前ノ原則ヲ再說セルニ止マリ現ニ大部分ノ佛軍歩兵カ實際ノ情況ニ最モ適應シ便利ナル防禦法ト自信セル連續陣地ノ可否ニ關シ明確ナル說述ヲナササリシカ爲ナリ

「アラス」戰ノ經驗ニ基ク指
(詳細ハ歐洲戰爭叢書特號第一陣地戰「一頁參照」)

佛軍總司令部ハ「アラス」戰ノ經驗ニ基キ十五年五月及六月教令ヲ發布セリ此教令ニ於テハ村落其他ノ據點ハ其全周ニ互リ防禦編成スルヲ獎勵シ交通壕ニモ防禦編成ヲナスヘキコト、「ペトン」製掩蔽部ヲ構築スヘキコト、第一線散兵壕ノ後方ニ最強度ノ散兵壕ヲ構築スヘキコト及第二陣地ノ構築ハ從來輕視セラレアルヲ以テ特ニ其勵行ヲ獎勵セルコト等是ナリ

此教令ニ述ヘアルカ如ク第二陣地ノ構成ヲ再ヒ督勵セルハ注目スヘキ事項ト

ス本來第二陣地ヲ設ケントスルハ佛軍戰前ノ原則ニシテ敢テ大戰ニ於テ始メテ學ヒタル所ニアラサルニ拘ラス斯ノ如キ教令カ再ヒ發布セララルル所以ノモノハ一ハ佛軍カ獨軍ヨリ激シキ攻撃ヲ受ケサリシカ爲メニシテ他ノ一理由ハ第一線塹壕内ノ歩兵將校ノ見地ト總軍司令部ノ見地トニ相違アルニヨル「ボット」大尉ハ其論文ニ述ヘテ曰ク『予ハ第一線ノ後方ニ設クヘキ主要散兵壕ヲ利用スルコトヲ歩兵ニ採用セシムルニハ決シテ容易ナラサリシコトヲ記憶ス』ト蓋シ第一線歩兵將校カ之ヲ肯セサリシハ『巧妙ナル攻撃ヲ受クルニ方リ吾人ノ大部カ後方ニ退カンカ第一線ニ殘置スル若干ノ部下ハ敵ニ捕獲セララルルト明ナリ』斯ノ如キハ情ニ於テ忍ヒストノ理由ニ基クナリ

附言

右ノ如キ例ハ吾人ノ日常ニモ多ク見得ル所ナリ即チ自己ノ直接ニ受ケサル體驗ハ其緊要ナルニ拘ラス之ヲ輕視シ易ク其結果トシテ豫メ警告ヲ受ケタル如ク甚大ナル損害ヲ受ケ茲ニ始メテ其非ヲ悟ルカ如キ類是ナリ

又佛軍ニ於テハ次期作戰ノ爲メノ機動豫備ヲ多カラシメンカ爲ニ七月八日教令ヲ下シ『不可侵ト思惟スル正面ニ規定ノ全人員ヲ配置スルハ無益ナルヲ以テ兵員ノ大部ヲ機動用トシテ貯存』スヘキヲ命シタリ右教令ニヨリ控置セラレタル部隊ハ「シャンパーニュ」秋季戰ニ使用セラレタル兵員ナリ

「シャンパーニュ」秋季戰ノ教訓ニ基キ佛軍ハ十五年十二月教令ヲ發布セリ、其主要ナル事項ハ左ノ如シ

- (1) 陣地ハ前後ニ重疊セル三個ノ陣地帯ヨリ成ル
- (2) 第一陣地ハ據點ヲ一線ニ配置シテ編成ス
- (3) 據點ハ更ニ數多ノ小據點ヨリ成リ之ヲ縱橫兩方面ニ配置ス從テ據點ハ小據點ノ數線ヨリ成ル
- (4) 據點及小據點ノ中間地ハ若干ノ工事ヲ施ス
- (5) 第二陣地ハ第一陣地ト同要領ニ依リ構築ス第三陣地ハ情況ニ依リ多少

「シャンパーニュ」秋季戰ノ教訓ニ基キ佛軍ハ十五年十二月教令ヲ發布セリ、其
（詳細ハ「歐洲戰史」第一卷一頁以下參照）

此教令ニ於テ再ヒ陣地ヲ據點式ニ編成スルヲ獎勵セルコトハ注意スヘキ現象ナリ恐ラクハ佛軍ノ下級部隊カ先ニ發布サレシ「シャンパーニユ」冬季戦後ノ教令ヲ猶未タ實施セサリシモノアリシカ爲ナリト想像セラル然レトモ本教令ノ謂フ所ノ據點式編成法ハ戦前ノモノト其形式ヲ異ニシ軍隊側ノ主張ト漸次接近シ來レリ即チ戦前ノモノハ歩兵一大隊(又ハ其以下)集團シテ一狹小地區ヲ占領シ其各中間地區ヲ開放スル意ナリシカ本教令ニ示スモノハ之ニ比シ廣正面且縱深大ナルノミナラス據點相互間ハ戦前ノ如ク單ニ側防火ノミニヨルコトナシ即チ『各據點(小據點間モ同シ)ノ中間地ハ防禦線中ニ於ケル空虚ナル地區ニハアラス縱ヒ野戦ニ於テモ之ヲ占領セスシテ單ニ側防火及後方ヨリスル火力ニノミ依頼スルハ例外ノ場合トス塹壕戦ニ於テハ強大ナル火力ヲ以テ中間地ヲ制壓スルヲ必要トスルヲ以テ中間地モ亦占領スルコト必要ナリ然レトモ此工事及占領部隊ハ素ヨリ據點ノ如ク強大ナラス殊ニ障碍物ヲ鞏固ニシ爲シ得ル限り敵ノ

中間地突破ヲ不可能ナラシムルモノトス而シテ此障碍物ノ後方ニハ警戒ノ爲散兵壕ヲ構築シ壕内ニハ處々ニ部隊ヲ配置シ直接防禦ノ任ニ當ラシム」ト之ヲ要スルニ本教令ニ於テ云フ所ノ據點式トハ戦前ノ據點式防禦ノ主義ヲ擴大シ(據點内ニモ小據點アリ)此等ヲ連續セル塹壕ニヨリテ連絡セルモノナリ(挿第圖七參照)

教令ト實際而シテ尙本教令ニ於テハ此中間地ハ敵ヲシテ支撐點ト區別セシムルコト困難ナラシムル爲遮蔽ヲ施シ偽工事ヲ施スヘキ條項ヲ附記セラレアリ此遮蔽工事ハ甚タ重要ニシテ當時ノ佛軍トシテハ最新ノ教訓ナルニ拘ラス軍隊ノ注意ヲ喚起スルコト甚タ少カリシカ如シ「ポット」大尉ハ其論文ニ述ヘテ曰ク「此教令ニハ有益ナル條項アリ然ルニ此條項ハ主要ナルニ拘ラス第二位ノ感アリキ眞ノ支撐點ノ構築ニ既ニ多大ノ作業力ヲ要スルヲ以テ陣地ノ遮蔽上必要ナル模擬作業ヲ實施シ得ヘシト信スルカ如キハ空想ナリキ且又此等ノ工事ヲナシ得タリトスルモノ之カ爲ニハ教令上ニモ單ニ第二位的ニ示スニ代ヘ明白ニ之ヲ要求スルノ要アリタルヘシ」此當時ニ於テ唯一ノ重要ナル第一陣地ノミニ就テ云

ハハ到底明確ニ中間地ト眞陣地トヲ區別シ得ラレサル如クスルコトハ不能ナル
 ヘシト以上ノ如キヲ以テ緊要ナル新原則タル遮蔽工事ハ實際ニ於テ甚シク輕
 視セラレタリ而シテ其他ノ原則モ「ベルダン」戰當時ハ未タ實現ノ運ニ至ラサリ
 キ其原因ニアリ其一ハ從來ノ防禦線内ニ遮蔽部（深遮蔽部ニシテ之カ移轉ニハ多大ノ作業力ヲ要ス）アリシヲ
 以テ之ヲ放棄スルニ忍ヒサリシコト、其二ハ當時ニ於テ歩兵カ始メテ戰前ノ
 防禦編成上ノ原則ヲ了解シ之ヲ應用シ始メ工兵ハ右ノ教令アルニ拘ラス大ニ
 戰前ノ據點式編成法ヲ推賞セシニヨルト

舊據點式ノ價值

右ノ如ク總司令官ノ意圖特ニ遮蔽ノ觀念十分徹底シアラサリシカハ「ベルダ
 ン」ニ於ケル佛軍陣地ノ支撐點ハ「未曾有ノ密度ヲ有セル砲擊ニヨリ粉碎セラ
 レ側防機關ハ全壞シ廣大ナル破墻口ハ中間地ヲ防禦セル鐵條網内ニ開カレ敵
 ハ此間隔内ニ侵入シ以テ迂回シ尙維持シアリシ支撐點ヲ包圍シ得タリ斯クテ千
 九百十四年八月ニ於ケル（運動戰間ノ防禦）ト同一ナル不利ヲ見タリト實ニ是レ佛軍下
 級部隊ト上司ノ意志トノ間ニ疎隔アリシト上司ノ示ス所亦眞ニ適確ナラサリ



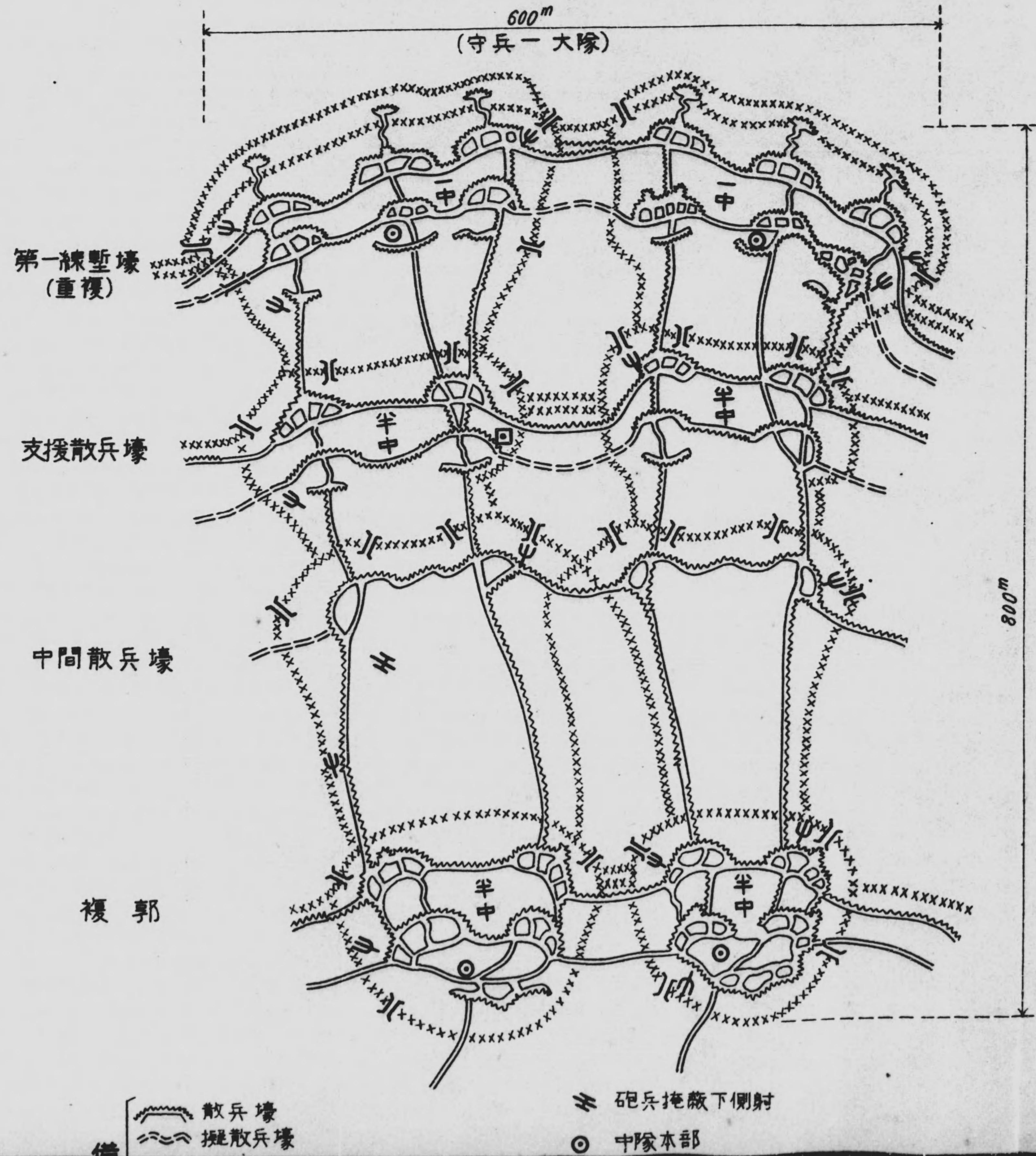
中間散兵壕

覆郭

- 備考
- 散兵壕
 - 擬散兵壕
 - 交通路
 - 一側火線ヲ有
 - 兩側ニ火線ヲ
 - 機關銃

佛軍支撐點ノ一例

插圖第七



第一線塹壕
(重複)

支援散兵壕

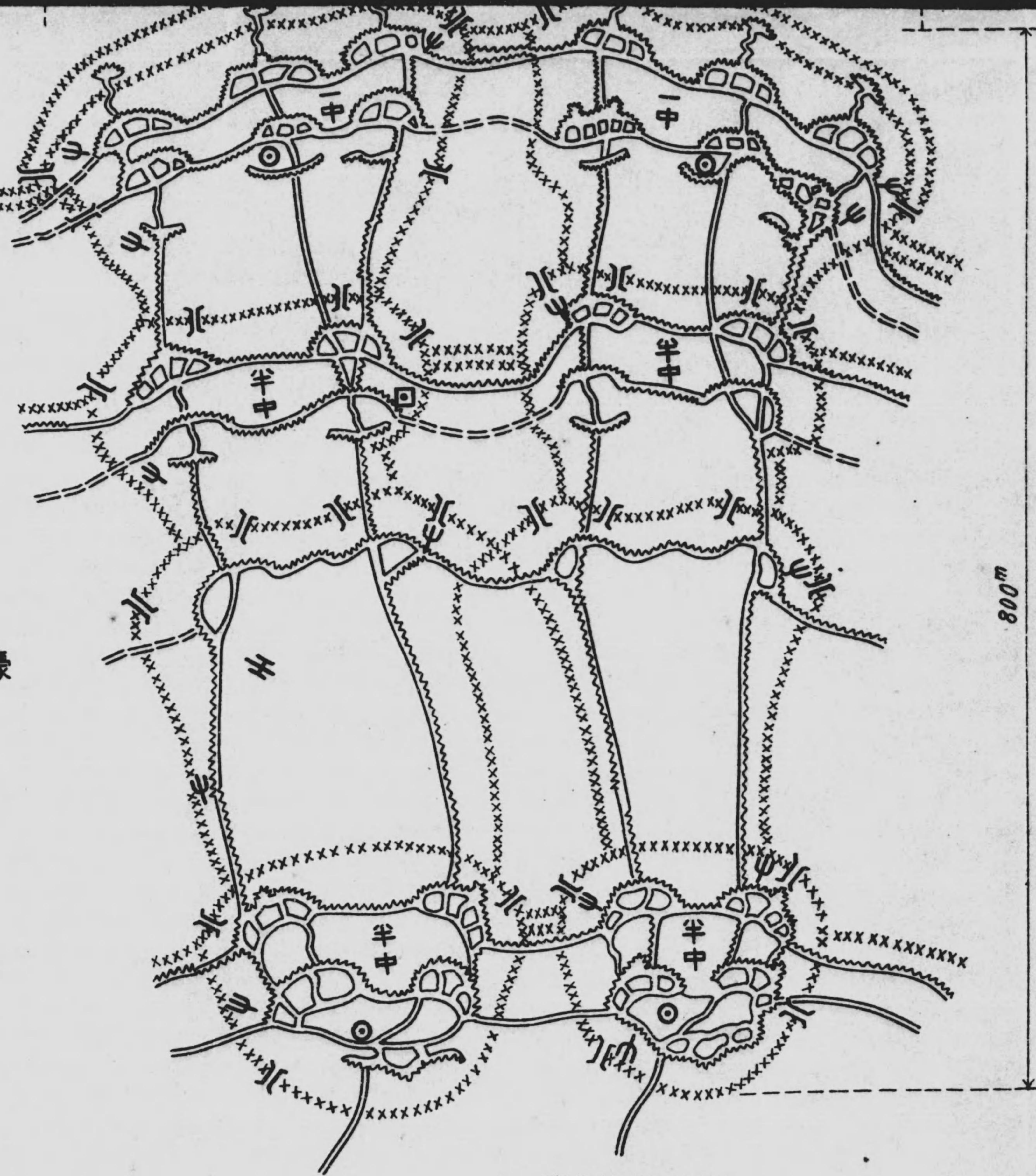
中間散兵壕

複郭

- 備考
- 散兵壕
 - 擬散兵壕
 - 交通路
 - 一側火線ヲ有スル散兵壕
 - 両側ニ火線ヲ有スル散兵壕
 - 機関銃

- 砲兵掩蔽下側射
- 中隊本部
- 大隊本部
- 鐵條網
- 出入口
- 聽音哨

800m



シ爲メニ受ケタル一痛棒ト謂ハサルヘカラス是亦吾人ノ爲メニ他山ノ石トス
ヘキコトニ屬ス

真相以上ノ如シ而シテ佛軍ノ陣地編成法カ眞ニ分散ノ配置ヲ採ルニ至リタル
ハ實ニ此後ニシテ「ベルダン」ニ於テ砲彈ノ洗禮ヲ受ケ上下始メテ長夜ノ夢覺
メタルナリ

尙此教令ニハ陣地ヲ重疊梯次スヘキ原則ヲ示セリ其支撐點ノ詳細ハ挿圖第七
ノ如ク是等ヲ横接セル第一陣地ト其後方二、三吉米ニアル中間陣地トヲ併セテ
第一線師團之ヲ占領シ第一陣地ノ後方五、六吉米ニアル第二陣地ハ軍團又ハ軍
ノ豫備タル師團之ヲ防守スルモノトセリ第三陣地ハ第二陣地ノ後方五、六吉米
ニ設ケ其防禦ハ軍又ハ方面軍ノ豫備隊之ヲ擔任ス

而シテ當時ニ於ケル防禦ノ根本觀念ハ第一陣地ヲ固守セントスルニアリタリ
故ニ全努力ハ悉ク前方陣地ニ集中セリ從テ「兵卒^(佛軍)ハ第二陣地及其後方ノ諸
陣地ヲ呼ンテ「臆病陣地」ト稱セリ」ト

以テ當時ノ陣地守備ノ根本觀念ヲ知ルヲ得之ヲ要スルニ以上述ヘタル如ク佛軍ノ防禦築城ハ「ベルダン」戰ヲ以テ巖然タル一限界ヲナセリ即チ爾後ニ於テハ其基礎觀念ヲ異ニスル主義—砲彈ノ威力ヲ分散スル主義—ノ許ニ著大ナル變遷ヲナシ今日ニ至リシナリ以テ實戰ノ結果カ如何ニ戰法ニ劃然タル變革ヲ促スカヲ知ルニ足ラン（之ニ關シテハ更ニ後述ス）

第三節 佛軍ノ防禦陣地及兵備ノ大要

要塞無價
值論

大戰當初ニ於テ「リエージュ」、「ナミュール」其他ノ要塞カ新式火砲ノ威力ノ爲メ意外ニモ速ニ陷落セシコトニヨリ要塞無價値論ハ一時兵學界ヲ風靡セリ從テ「ベルダン」ノ如キ要塞モ之ヲ孤立セシメスシテ他正面ノ野戰陣地ト連絡シ一般戰線内ノ一據點トハナシ得ヘシト雖永久堡壘ハ「榴彈ノ巢」トナルモノナルヲ以テ之ニ信賴スルハ不可ナリトハ「ベルダン」戰前ニ於ケル佛兵學界ノ輿論ナリキ從テ此突出セル「ベルダン」地區ヲ守備スヘキヤ放棄スヘキヤノ議論ヲ生シ結局之ヲ守備スルコトニ決定スルニ方リ該地區ハ要塞ナルカ故ニ防

守スルニアラスシテ此歴史的地點ヲ保持スルノ意味ニ於テ守備スルモノナリト考ヘアリタリ殊ニ「ベルダン」北側地區ノ防備不十分ナルヲ知レル佛軍總司令部ハ「ベルダン」ハ到底陷落ヲ免レ難シトノ考ヲ有シタルコトアリ之ヲ要スルニ戰前ハ金城鐵壁ト思惟セシ「ベルダン」ノ要塞モ開戰後十六年迄ハ以上ノ理由ニヨリ却テ甚シク之ヲ輕視スルニ至レリ從テ其兵備ハ他戰線ニ比シ薄弱ニシテ陣地ノ設備亦軟弱ナリキ然ルニ「ベルダン」ノ防備薄弱ナリトノ輿論同地出身ノ代議士等ニヨリ唱導セラレアリタル時ニ方リ獨軍カ近ク「ベルダン」ヲ攻撃スルナラントノ風評アリシカ爲メニ「ベルダン」ヲ守備スヘシトノ輿論勃然トシテ擡頭セリ是ニ於テカ佛軍總司令部ハ十五年末ヨリ漸次之カ防備ニ注意シ始メ特ニ獨軍攻勢ノ徵候顯著トナルヤ（十六年一月二十三日）總司令官ハ當時參謀總長タリシ「カステルノー」ヲ派遣シテ巡視セシムル所アリタリ

防禦陣地
ノ概要

當時「ムーズ」右岸ニアル佛軍ノ陣地（附圖第四、第五參照）ノ第一陣地ハ要塞本防禦線ノ前

方八—十吉米ノ地區ニ、第二陣地ハ此ノ第一陣地ノ後方二—三百米ノ地點ニア
リタリ而シテ當時防禦指揮官タル「エール」將軍ハ第三陣地ヲ要塞本防禦線上
ニ設計シツツアリタリ

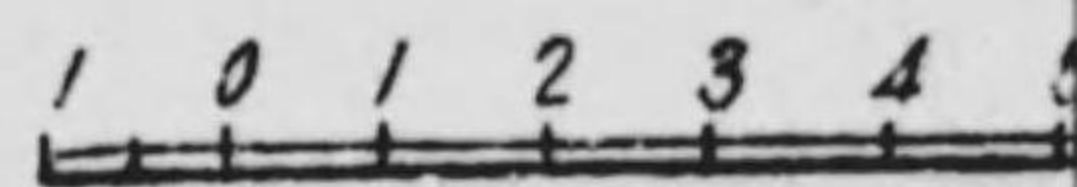
右ノ情況ヲ巡視シタル「カステルノー」將軍ハ報告シテ『第一陣地ハ相當ニ編
成シアルモ第二陣地ハ不十分ニシテ反對斜面ニ設クル必要アリ掩蔽部ハ甚タ
不足セリ第二陣地ニハ後方トノ交通設備不十分ニシテ側防機關亦不足セリ第二
陣地ト第三陣地ノ間ニ尙一線ヲ設クヘシ殊ニ第三陣地ニ至リテハ殆ト著手シ
アラサルヲ以テ急速ニ實施スルヲ要ス』ルコトヲ指摘セリ以テ其防備ノ不十分
ナリシコトヲ察スルニ餘アリ又右陣地間ノ距離ヲ見ルニ前記十五年末ニ下サ
レタル教令指示ノ如クナラサルノミナラス陣地内ノ編成法モ亦舊來ノママニ
シテ據點ノ多クハ森林内ニ群集シテ設ケラレアリタリ(附圖第五參照)
「カステルノー」將軍ノ巡視後其意見ニ基キ「ベルダン」ノ築城地帯ハ大ニ改善
セラレ其兵力モ亦増加セラレタルモ同將軍ノ巡視時期ハ獨軍攻撃ノ一箇月



備考

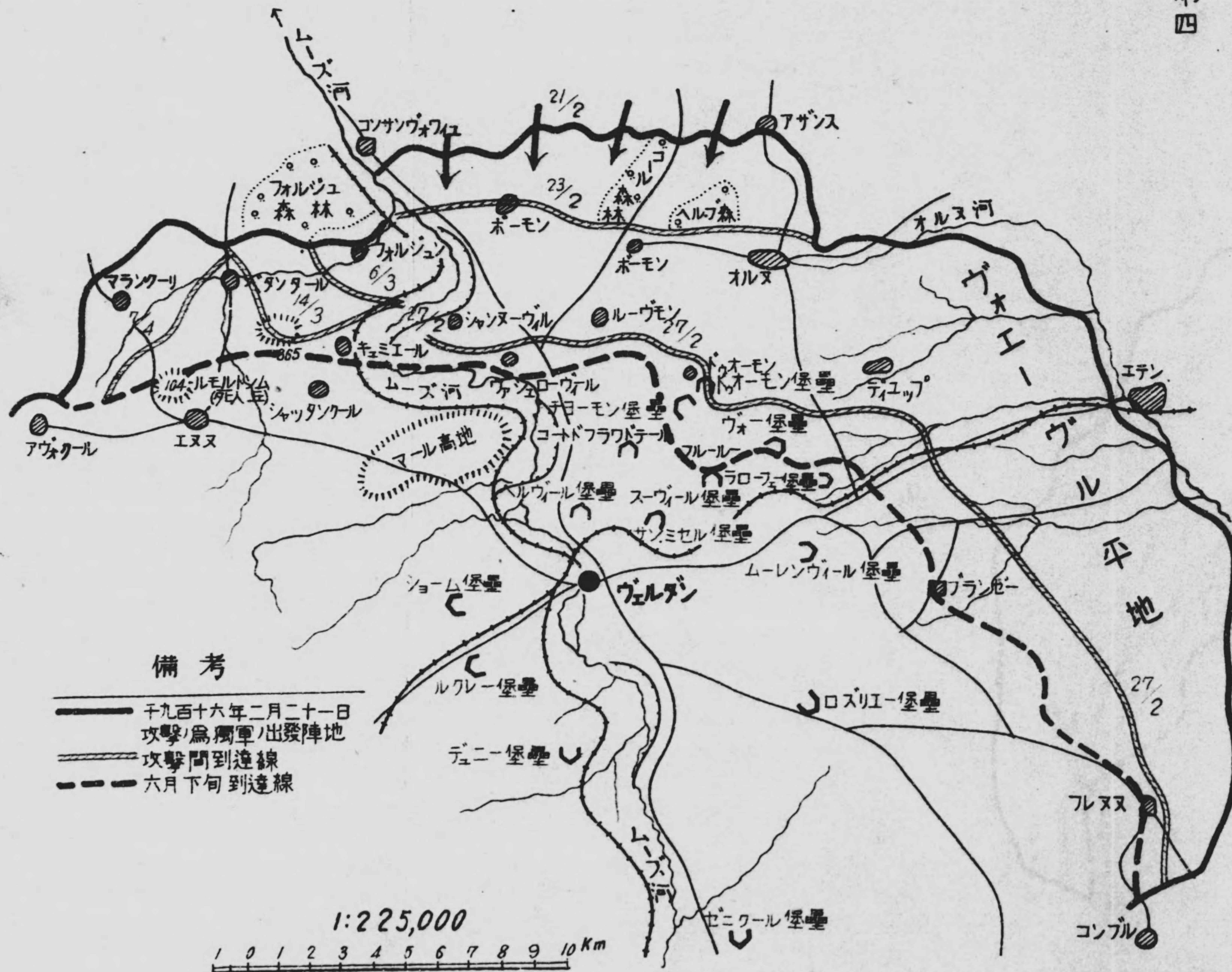
- 千九百十六年二月二十一日
攻撃ノ爲獨軍ノ出發陣地
- 攻撃間到達線
- 六月下旬到達線

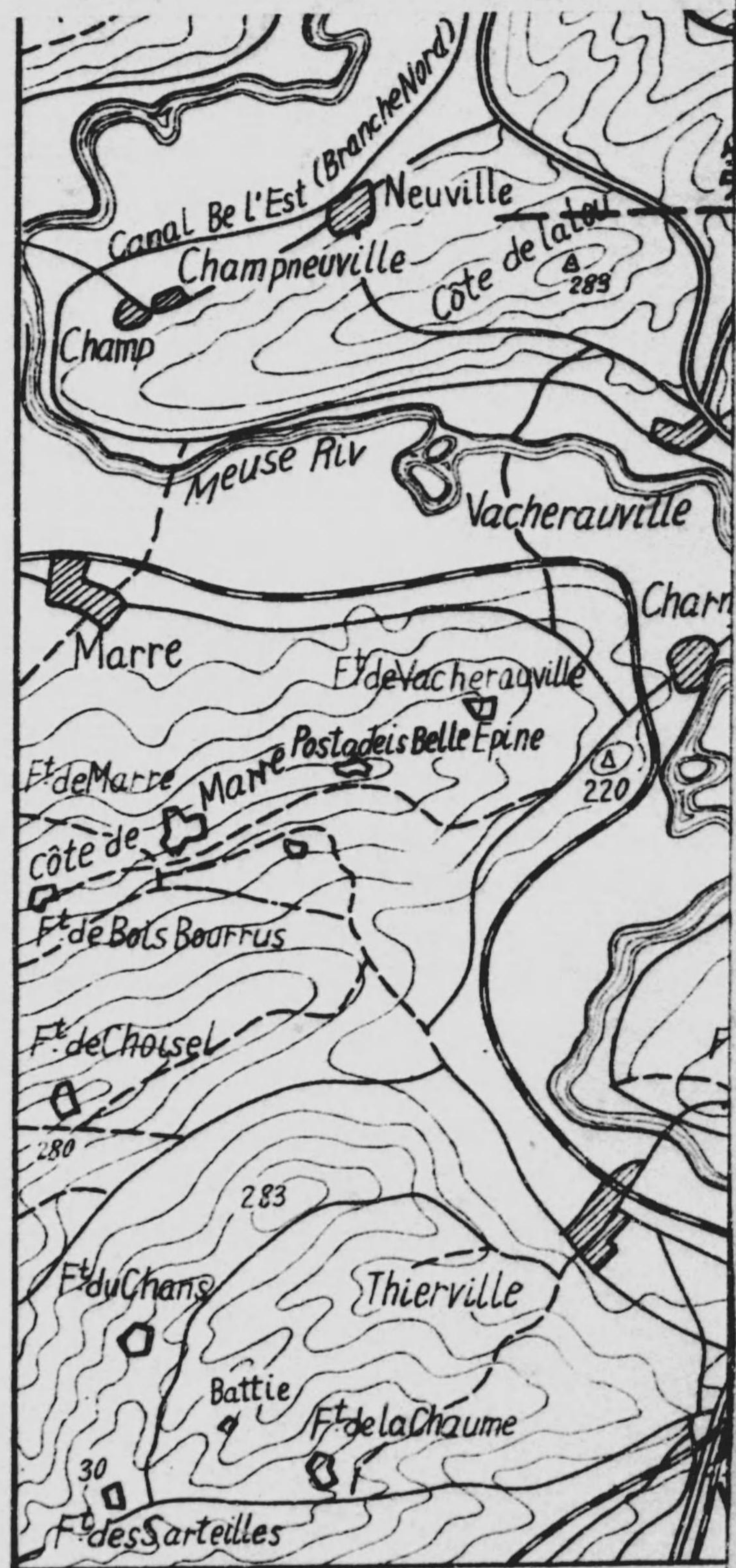
1:225


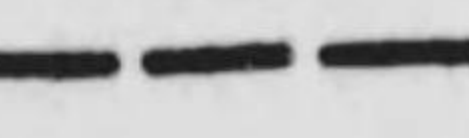


ベルダン會戰一般圖

附圖第四





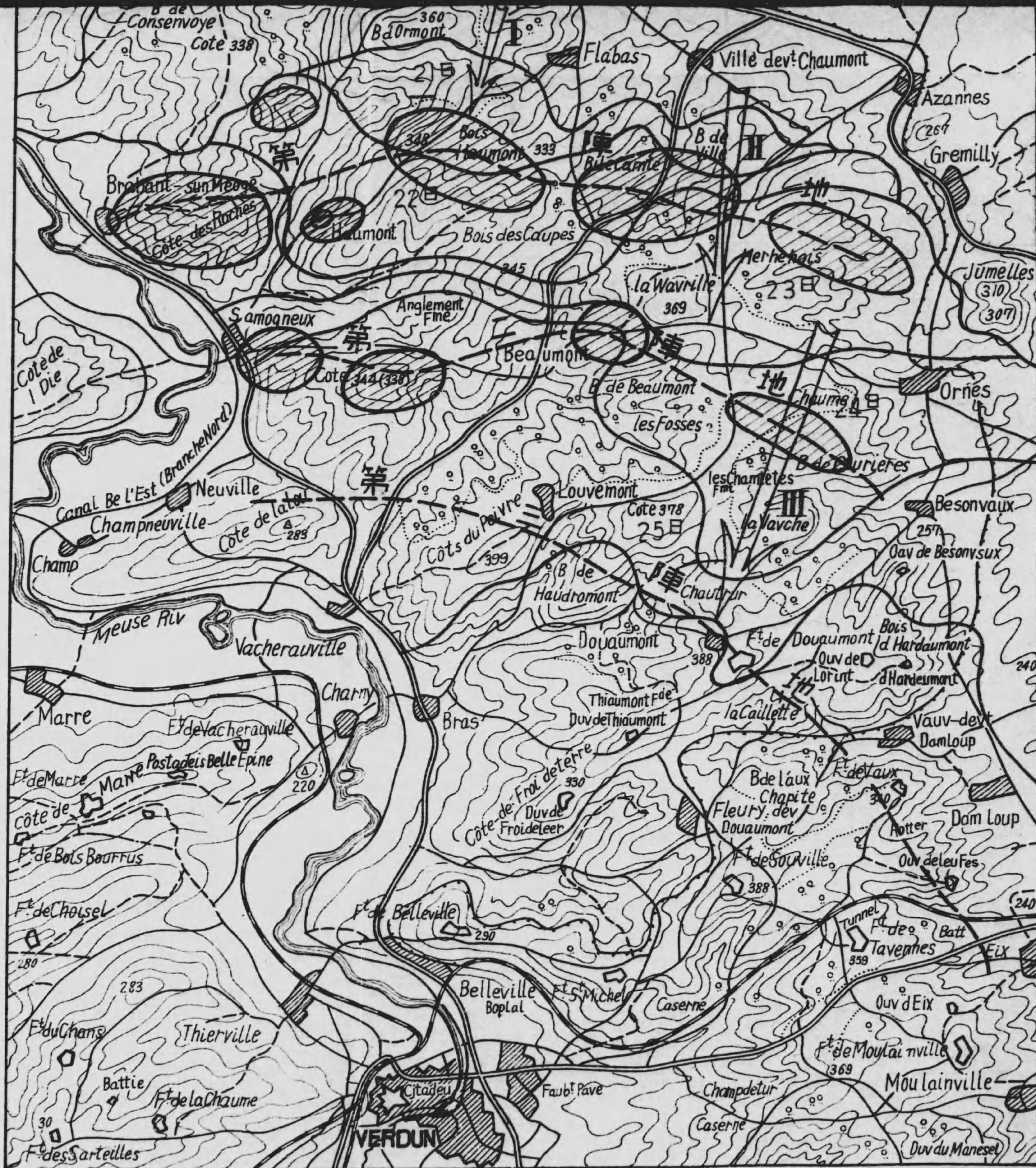
備考 {  佛軍集團工事 / 位置
 {  ハ 佛軍各陣地 / 線ヲ示





「ベルダン」東北地區攻撃經過要圖

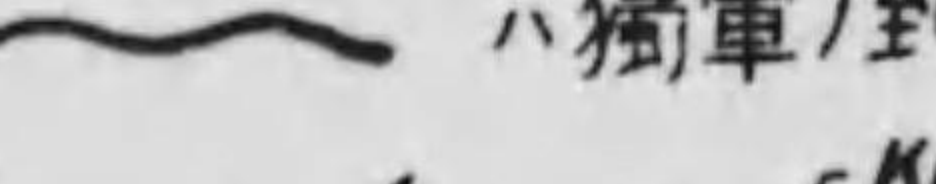


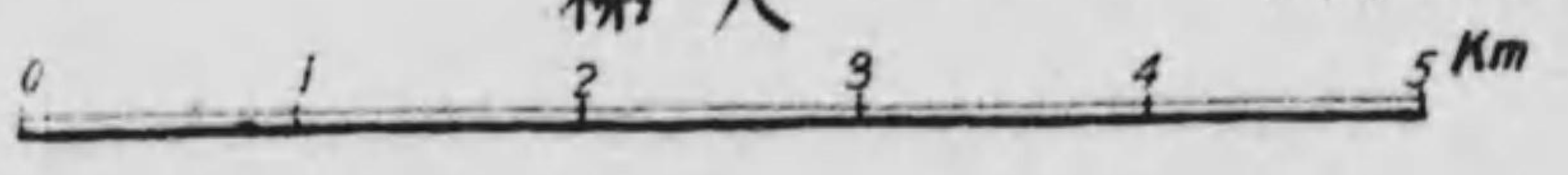
附圖第五



備考 {  佛軍集團工事/位置ヲ示ス
 ハ 佛軍各陣地/線ヲ示ス

21日 ハ 獨軍/攻撃實施日ヲ示ス

梯尺  ハ 獨軍/到達シタル線ヲ示ス



以前ナリシヲ以テ根本的改造ハ困難ナリシカ如シ殊ニ諜報ニヨリ二月上旬
攻撃ヲナスナラン（實際ニ於テ獨軍ハ二月九日攻
撃ヲ開始スヘキヲ延期セリ）ト想像セル佛軍トシテハ此際根本
的改造ハ到底思ヒ及ハサリシコトナリシナラン實ニ「ベルダン」ハ以上ノ如キ
不完全ナル防禦陣地ニ於テ防戦ニ任セシナリ

兵備

「ベルダン」ノ築城地帯殊ニ「ムーズ」右岸地區ノ正面ハ其幅員約六十吉米ニシ
テ之ヲ守備セシ佛軍ハ始メ僅ニ數個師團ナリシカ漸次其數ヲ増シ攻撃前日ニ
於テハ右岸地區ニ九個師團ヲ配置シ砲兵モ亦漸次増加セラレ二月二十一日ニ
ハ野戰砲トシテ左岸上ニ二百二門、右岸最初ノ攻撃正面ニハ野砲百八十六門、
重砲ハ左岸九十八門、右岸百五十二門ニシテ總計野砲三百八十八門、重砲二百
四十四門ナリ但シ攻撃開始數日後ニ於テ砲兵ヲ増加シ總計一千八百十五門ヲ
算シ砲數ニ於テハ獨軍ト相匹敵スルニ至レリ然レトモ其重砲兵ハ多クハ加農
砲ニシテ擲射及曲射砲甚タ少カリキ又當時佛軍ニ於テハ總軍第二線師團トシ
テ總計三十七個師團ヲ有シ其内三―五個師團ハ攻撃前「ベルダン」西方地區ニ

位置セリ

第四節 攻撃ノ成果ニ關スル根本思想ノ一變化

從來ノ戰鬪法ニ於テハ攻者ハ防者ノ陣地ノ一部ヲ奪取スルコトニヨリ全般ノ防禦組織ヲ破壊シ以テ防者ヲ屈服セシムルヲ攻撃一般ノ方法トナセリ其陣地戰間ニ表ハレタル最モ著明ナル現象ハ突破作戰ニシテ其主義トスル所ハ陣地帶ノ一部ヲ突破スルコトニヨリ全般ノ瓦解ヲ來サシメントスルニアリ然ルニ攻防兩者トモ質素、編制、戰法等相近似シ殊ニ陣地ノ韌強性愈々大トナリ突破甚々困難トナルヤ土地若クハ防禦組織其モノニ執著スルコトナク敵ノ兵力ヲ損耗セシメテ之ヲ屈服セシムルヲ有利ナリト考フルニ至レリ是レ實ニ本對峙戰ニ於ケル特種ノ現象ニシテ之カ戰術上ニ及ホシタル影響ハ大ナリト謂ハサルヘカラス今其最モ顯著ナル意見ヲ舉クレハ左ノ如シ

其一ハ「ジャンパーニユ」秋季戰後同方面第二軍司令官タル「ベタン」將軍ノ發表セシ意見是ナリ即チ

「ベタン」
將軍ノ意
見

「現今ノ武裝狀態」(器)現今ノ攻撃準備法及敵カ我等ニ反抗シタル兵力ノ如キ敵兵力ヲ以テスル時ハ敵ノ諸陣地ヲ一舉ニ奪取スルノ不可能ナルコトハ「ジャンパーニユ」會戰ノ例ニ依リテ明ナリ……………逐次ニ施行スル諸攻撃ハ兵卒ノ莫大ナル消耗ト彈藥ノ莫大ナル消費ヲ生セシム敵カ我ニ對抗セシムヘキ新銳軍隊ヲ有スル以上ハ斯ノ如ク多量ノ彈藥ヲ消費スルモ敵ハ結局確定的ノ退却ヲナスモノニアラス

攻撃兵力ト防禦兵トノ比例カ三ト一ニナラサル時ハ敵ノ損害ハ十分大ナラサルカ故ニ最終努力ニ移ルノ時期ハ到著セサルヘシ

故ニ九月ノ攻撃(註「ジャンパーニユ」)ノ如キ損害多キ攻撃ヲ再演スル前ニ適當ナル方法ヲ以テ敵ノ兵力ヲ先ツ損耗セシムルコトヲ考ヘサルヘカラス故ニ

戰鬪計畫ハ敵兵力ノ消耗期ト決勝期トノ二期ヲ含マサルヘカラスト

「フアル」佛軍ニ於テ右ノ意見アルト同時ニ獨軍ニ於テモ亦同様ノ意見アリタリ即チ獨

ケンハイノ意見
軍參謀總長「ファルケンハイン」將軍カ「ベルダン」攻撃前（十五年十二月二十五日）ノ上奏案

中ニ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ

『大兵ヲ以テ突破セントスルモ價值少キヲ以テ敵ヲ屈服セシムルヲ要ス佛國ハ既ニ多大ノ損害ヲ受ケ耐ヘ得ル極限ニ達セリ故ニ佛軍カ是非維持セントセル地點ヲ目標トシテ攻撃セハ佛軍ハ最後ノ一兵迄戰フカ或ハ之ヲ放棄シテ屈服スルニ至ルヘシ目標ヲ攻略スルト否トハ最大ノ問題ニアラス最大ノ目的ハ兵力資源ノ枯渴ニヨリテ屈服セシムルニアリ』ト（「ファルケンハイン」著「最高統帥」）
又同將軍カ「ベルダン」攻撃軍タル第二軍ニ與ヘタル通報ニ曰ク「目下我任務ハ比較的僅少ノ損害ヲ以テ決勝地點ニ於テ敵ニ多大ノ損害ヲ與フルニアリ』ト

右「ファルケンハイン」將軍ノ意見ハ「ベタン」將軍ノ云フ所ニ比シ稍々明確ナラサル點アリテ右ハ單ニ「ベルダン」攻撃ニ關スル附帶理由ニ過キササルモノト觀ラレサルニアラサルモ從來ト其根本思想ニ異ルモノアルヲ發見シ得ヘシ素ヨ

リ此思想ハ本質ニ於テ陣地戰ヲ一大要塞戰ト看做シタル結果ニシテ國家ヲ擧ケテ對峙戰ヲ現出シタル上ハ當然發生スヘキモノニ屬ス而シテ此思想ハ爾後繼續シ兩軍共ニ兵力資源ヲ枯渴スルニ從ヒ愈々一般的トナリ戰法亦從テ之カ影響ヲ受ケタルコト勿論ナリ此點ハ本研究ニ方リ顧慮ヲ拂フヲ要スヘキ一要点タリ

消耗戰ト
戰法

尙獨軍カ以上ノ主義ニヨリ「ベルダン」ヲ攻撃セシコトハ佛軍ニ於テモ會戰間悟ル所アリシカ如シ即チ三月十三日「ジヨッフ」將軍ハ一會議ヲ開催シタル際ニ「獨軍ハ佛軍ノ待命軍隊ヲ磨滅セシメ之ヲシテ一般攻勢ニ參加スルヲ得サラシメ……………我國民ノ士氣ヲ沮喪セシメントスル目的ヲ以テ「ベルダン」ニ對シテ大努力ヲ開始セリ』ト述ヘテ聯合軍カ相策應シテ他方面ヨリ攻勢ニ出ツル必要ヲ提議シタルコトアリ然レトモ當時ニ於テハ此著意ニ基ク防禦戰法上ノ變化ハ大ナラスシテ其大ナル影響ヲ與フルニ至リシハ十六年末以後ナリ

第五節 突破作戰ニ關スル獨軍ノ觀察

當時ニ於ケル獨軍參謀總長「ファルケンハイン」將軍ノ突破作戰ニ對スル觀察
左ノ如シ

突破ト攻
撃兵力ノ
大小

「佛軍ハ「アラス」會戰及「ジャンパーニユ」秋季戰ノ苦キ經驗ヲ嘗メタルニ
拘ラス突破作戰ハ奏功スルモノト恩惟セルカ如シ即チ佛軍ハ兵力優勢ナラ
ンカ假令西方戰場ニ於ケル獨軍ノ如キ軍事上ノ價值大ナル部隊守備スト雖
突撃奏效ノ見込アリトノ確信ヲ有セルカ如シ而シテ我軍カ「ゴルリッツ」
「タルノウ」ノ突破戰ニ奏效シタル際露軍カ此戰鬪ノ爲メニ招致セラレタル
獨軍ヲ目シテ『大集團』ナリト誇張的ニ報告セルノ一事ハ其確信ヲ更ニ強
カラシメタリ而シテ此報告ニハ獨軍ノ「ガリシヤ」ニ於ケル突破ハ「果敢斷
行セハ脆弱ナル部隊ニ對シ成效確實ナリ」トノ所信ニ基キ實施セラレタル
モノナルコトニ言及スル所ナカリキ……………軍事上及志氣上勝レ
ル敵ニ對シテハ突破奏效ハ素ヨリ不可能ナリ既ニ本戰役間ヲ通シ突破ノ成
效セシハ軍事上及志氣上優勢ノ位置ニアルトキノミニ限ラレタレハナリ」

ト「ファルケンハイン」
著「獨軍最高統帥」

而シテ其理由ト認ムヘキモノ左ノ如シ（十五年十二月二十五日ニ於ケル「ファルケ」
將軍ノ上奏案「獨逸最高統帥」）

突破ノ能
否ト軍隊
ノ價值

「敵軍ノ實施セル突破ノ失敗ハ斯ノ如キ戰鬪方式ヲ採用スヘカラサルノ教
訓ヲ與ヘタリ抑、志氣旺盛武裝良好且數上著シク劣勢ナラサル敵ニ對スル
突破ノ企圖ハ縱令夥多ナル人員材料ヲ以テスル場合ニ在テモ尙奏效ノ見込
少ナシ蓋シ防者ハ多クノ場合突入セラレタル戰線ヲ閉鎖シ得ヘク若シ又防
者ニシテ被攻撃正面部隊ヲ自由ニ退却セシムルノ決心ヲ爲セル場合ニハ突
破口ノ閉鎖ハ容易ニシテ之ヲ妨ケントスルハ殆ト不可能ナリ殊ニ熾烈ナル
側面火ニ暴露セル攻者ノ戰線ハ忽チ死屍ヲ以テ埋メラルルノ虞アリ又斯ノ
如キ場合ニ於テ突破口内ニアル大軍ヲ指導シ且之ヲ補給スルハ頗ル困難ト
ナリ殆ト收拾スヘカラサルニ至ルヘシ」ト
「ファルケンハイン」ノ以上ノ意見ハ之ヲ其後ノ經過殊ニ十八年ニ於ケル兩軍
ノ作戰經過ヨリ觀レハ一面ノ眞理ヲ語ルモノアルヲ發見ス

之ヲ要スルニ「ベルダン」ニ對スル攻撃根本方針ハ實ニ上述ノ主義ニ基キタルモノナリ故ニ其戦法タルヤ之ヲ「シャンパーニュ」秋季戦及其以前ノモノニ比スル時ハ大ニ異ル所アルハ勿論トス

第六節 獨軍ノ攻撃(附圖第四、第五參照)

本攻勢作戦ハ千九百十五年十二月二十五日皇太子「ウイルヘルム」中將ニ「ベルダン」東北方「ムーズ」右岸地區ノ攻撃ヲ命セシニ始マリ「ソナム」方面ノ形勢急ナルニ至リテ中止スル迄ノ間約六箇月ノ間繼續セリ十五年末以來聯合軍側ニ於テハ佛、英兩軍合シテ「ソナム」ニ大攻勢ヲナスヘキ準備中ナリシヲ以テ獨軍ハ機先ヲ制センカ爲一方ニ於テ著々「ベルダン」ニ對スル攻撃準備ヲナセリ而シテ之ヲ秘匿スル爲獨軍ハ一月上旬ヨリ一月中旬ニ至ル迄小企圖ノ攻撃ヲ各方面ニ實施シ敵ヲ牽制セント計レリ

攻撃ノ一特徴

「ベルダン」ニ於ケル獨軍ノ攻撃法ノ一特徴ハ比較的歩兵ノ數ヲ少クシテ砲兵ノ數ヲ大ニシ急襲的ニ實施シタルコト是ナリ即チ最初獨軍カ攻撃ノ爲メ「ベル

ダン」附近ニ集メタル兵力ハ西方戰場ニ待命セル第二線師團十八個ノ内僅ニ八個師團ナルニ拘ラス其配屬砲兵數ハ後述スル如ク甚タ多ク佛軍空中觀測者ハ「獨軍砲兵ハ甚タ多數ニシテ其火光ハ恰モ花火ノ如キヲ以テ何レニ我砲兵ノ射彈ヲ標定スヘキヤニ予ハ困惑セリ」ト報告セシ程ナリ加之二十冊以上ノ大口徑砲ヲ多數使用セリ

獨軍カスノ如ク多數ノ砲兵ヲ集メ歩兵師團ヲ比較的少數トシタルコトハ蓋シ十五年度ニ佛軍ヨリ受ケタル教訓ニヨリ「人力ヲ以テ材料ニ抗スル能ハス」トノ結論ニ達シアリタルト「ファルケンハイン」カ謂ヘル消耗戦ヲナサント企圖シタルニヨルコト勿論ナリ然レトモ獨軍カ砲數ヲ増大シタルコトニ尙他ノ一理由アルヲ注意スルヲ要ス

「アラス」戦ニ於ケル佛軍ハ其砲兵ヲ以テ主トシテ鐵條網ヲ破壊セントシ「シャンパーニュ」戦ニ於テハ一步ヲ進メ陣地其者ヲ破壊セント試ミタルニ對シ獨軍

ハ更ニ一步ヲ進メ「シャンバトニユ」ノ佛軍ノ如ク陣地其モノヲ破壊スル時間ヲ更ニ短少ナラシメンカ爲メニ單位正面上ニ於ケル砲數ヲ増加シ尙防者ノ後方部隊ノ協力ヲ不可能ナラシムル爲メニ第一陣地及其後方ヲモ十分ニ破壊セントシテ多數ノ大口徑砲ヲ集メ以テ急襲的成果ヲ擧ケントセシナリ

理想ト實施

爲メ從來ノ方法ヲ以テスルハ砲兵ノ技術上困難ナルコト多シトス何トナレハ火砲ノ數サヘ多ケレハ砲擊時間ヲ短縮シ得ルカ如ク感スルモ火砲ノ數ヲ増加セハ砲擊間射彈ノ混淆ヲ避クヘキ方法ヲ講セサルヘカラス而シテ之カ爲メニハ豫メ試射ヲ完全ニナシ置クコトヲ先決問題トス果シテ然ラハ佛軍カ「シャンバトニユ」ニ於テ行ヒタルカ如ク砲擊數日前ヨリ試射開始ノ要アルハ必然ノ結果ニシテ是レ實ニ急襲的理想ト技術的實施ノ撞著ヲ來ス所ナリ是ニ於テ急襲ヲ旨トスル獨軍ハ多數火砲ノ精密試射ニヨリ攻撃企圖ヲ敵ニ知ラシムルヲ避ケンカ爲メ從來佛軍カ慣用セシ精密射撃ヲ排シ小ナル夾叉ヲ以テ地區内ヲ掃

射スルコトニ満足シ急襲的理想ヲ實現センコトヲ計レリ之ニ關シ「アンリー、ボルド」ハ其著書ニ述ヘテ曰ク

精密射撃
ヨリ地帯
射撃へ

「獨軍砲兵ハ射撃精度ヲ第二位ニ置キ甚タ簡略ナル射撃修正ヲ以テ満足セリ是レ射撃開始前其砲車位置ヲ察知セラレンコトヲ避ケンカ爲メナリ獨軍ハ佛軍諸陣地ニ對シテ一種ノ龍卷射撃ヲ集中セリ獨軍ハ精密射撃ヨリモ寧ロ狹小ナル夾叉ニヨリ地帯射撃ヲ實施セリ」ト

右ノ如ク精密射撃ヨリ地帯射撃ニ移ルコトニヨリ試射時間ヲ短縮シタルコトハ啻ニ陣地戰法上ニ於ケル一進歩ナルノミナラス砲兵射撃術上ニ一新紀元ヲナスノ端緒ヲ開ケリ是レ實ニ曩ニ本時代ハ技術上ノ競争時代ナリト述ヘタル所以ニシテ「ベルダン」戰ハ實ニ佛軍砲兵技術改善ニ對スル第一ノ警鐘ナリト謂ヒ得ヘシ

以上ノ如ク佛軍ノ砲擊法ト異ナル方法ヲ以テ二月二十一日午前七時ヨリ午後四時頃迄砲擊ヲ繼續シ突撃直前ニ於テハ第一線攻略目標上ニ大集中砲火ヲ、其

目標後方ニ墻壁射撃ヲ實施シ步兵ノ突撃ヲ開始セシメタリ

而シテ其砲撃ハ甚タ猛烈ニシテ『千九百十四年以來未曾有ノ最大數及最大威

力ヲ以テ其攻撃正面ニ集メタリ』(十六年四月五日佛軍總司令部ノ教令)

步兵ノ攻
撃法

獨軍ハ斯ノ如ク未曾有ノ猛烈ナル砲撃ヲ以テ佛軍守兵ノ膽ヲ寒カラシメタル

上ニ尙佛軍ヲシテ意外ニ思ハシメ以テ急襲的ノ成果ヲ舉ケタルモノハ步兵ノ
攻撃前進トス

獨軍ハ前述ノ如ク二十一日砲撃ノ後同夕刻佛軍陣地ヲ去ル五、六百米ノ地點ヨ
リ攻撃前進ヲ始メ直ニ佛軍第一陣地ノ一部ヲ奪取セリ獨軍歩兵カスノ如ク遠
方ヨリ攻撃前進ヲ始ムルコトハ佛軍ノ甚タ意外トシタル所ナリ蓋シ佛軍ニ於
テハ突撃ニ際シテハ先ツ敵前百米内外ノ地點ニ突撃陣地ヲ作りタル後前進ス
ルヲ慣用ノ戰法トシ學理上亦之ヲ至當ナリト思惟シ居タルヲ以テ獨軍モ亦突
撃陣地ヲ斯ノ如ク近ク設クルナラント推測シアリタルヲ以テナリ
抑々突撃陣地ヲ敵前近距離ニ設クルハ戰前ニ於ケル堅固ナル陣地攻撃ノ要領

突撃陣地
過近ノ爲
メ失敗セ
シ戰例

ニ基ケルモノニシテ佛軍力從來實施セシ諸攻撃ハ皆此要領ニヨレリ殊ニ不意
ニ且一齊ニ敵陣地ニ突撃ヲ敢行シ戰術的ニ急襲的利益ヲ獲得センカ爲メニハ
近距離ニ接近スルニ從ヒ其價值愈々大ナルヲ以テ佛軍ハ突撃陣地ヲ敵前近ク
設クルヲ一般原則トセリ而シテ陣地殊ニ鐵條網ノ破壊ニ砲兵ヲ用ユルニ至リ
タルヲ以テ此近接スヘキ限度ノ標準ヲ知り得ル戰例ヲ得タリ即チ其戰例ハ十
五年九月ノ「アルトワ」戰ニ於ケル佛第三軍團ノ突撃失敗ノ例トス同軍團ハ突
撃陣地ヲ敵前六、七十米ノ地區ニ設ケシカスノ如ク敵前ニ近接セハ鐵條網ヲ破
壞スル友軍砲彈ノ被害ヲ受クルヲ以テ第一線突撃部隊ハ砲撃間一時後方ニ退
キ砲撃止ミテ突撃ヲ開始セントスル稍々前ニ突撃陣地ニ進入セント計畫シア
リタリ然ルニ此突撃陣地ニ至ルヘキ諸交通壕ハ雨ノ爲ニ泥濘甚シク行進遲滯
セシノミナラス突撃陣地ノ斜面亦我砲彈ノ爲破壊セラレアリタルヲ以テ砲撃
止ムト同時ニ突撃ヲ一齊ニ開始スル能ハス加之其當時迄沈黙ヲ守リアリタル
獨軍砲兵ハ佛軍ノ砲撃ヲ止ムルヤ佛軍歩兵ノ突撃ノ時機至レリトナシ一齊ニ

阻塞射撃ヲナシタルカ爲メ佛軍歩兵ハ啻ニ多大ノ損害ヲ受ケタルノミナラス突撃ノ氣勢ヲ大ニ殺カレ此正面ハ遂ニ突撃中止ノ已ムナキニ至レリ是ニ於テ佛軍ハ右戦例ニヨリ突撃陣地ハ敵前百米ニ近接スルヲ最少限度トナシ且突撃陣地ヲ敵前百米迄近接セシメサレハ突撃效ヲ奏セサルモノト認ムルニ至レリ故ニ獨軍カ上述ノ如ク五、六百米ノ地點ヨリ突撃ヲナスナラントハ夢想タモセサリシモノノ如シ

附言

以上ノ如ク敵前近距離ニアル突撃陣地ハ攻撃準備間之ヲ設クルモノニシテ其設備ノ主ナルモノハ交通、集合、超越並掩護ノ設備トス殊ニ防禦砲兵カ攻者ノ突撃開始前ニ突撃陣地ニ集中射撃ヲ指向スルハ攻者トシテ甚タ不利ナル影響ヲ受クヘキヲ以テ掩護ノ設備ニハ十分ナル注意ヲ拂ヘリ之カ爲メ攻撃準備作業ハ非常ニ長時日ヲ要スルヲ通常トシ「シャンパーニュ」秋季戦ニ於テハ六週間ヲ費セリト謂フ斯ノ如キ長時日ヲ要セハ如何ニ巧

ミナル遮蔽設備ヲナスモ之ヲ敵ニ秘匿スルコトハ困難ナルコト明瞭ニシテ事實獨軍ハ「シャンパーニュ」戦ニ於テハ既ニ數週間前ヨリ佛軍ノ企圖ヲ察知シアリタリ獨軍カ前述ノ如ク五、六百米ノ遠キ地區ヨリ突撃陣地モ設クルコトナク突撃ヲ開始セシ所以ノ一亦茲ニアリ

制限目標
ノ攻撃前
進

二十二日夕以後ヨリ開始セラレタル獨軍ノ攻撃法ハ之ヲ一言ニテ掩ヘハ「歩兵ハ最少限ニ消耗シ砲兵ハ最大限ニ活動セシムル」ニアリ

即チ佛軍カ「シャンパーニュ」戦ニ於テ試ミタル如ク歩兵ハ遮ニ無ニ前進スルコトナク各部隊ハ全然制限セラレタル攻撃目標ヲ有シ此目標ニ達スルヤ直ニ停止シ爾後ノ前進ハ豫備隊ヲ以テ實施シ若シ歩兵部隊敵ノ爲メニ拒止セラレルルニ際シテハ其攻撃ヲ繼續スル前ニ砲兵ノ戰團加入ヲ要求シ逐次斯ノ如クシテ蠶食的ニ防禦陣地ヲ奪取セントスルニアリ之ヲ換言セハ歩兵ノ攻撃法ハ戦前ヨリ慣用セラレタル注入ニ次クニ注入ヲ以テスル方式ノ戦法即チ歩兵ノ強襲的戦法ニアラスシテ歩兵ト砲兵トノ完全ナル協調ニヨリテ戦況ヲ發展セシ

歩兵戦法
變遷上ノ
一紀元

蠶食的攻

メントスルニアリ而シテ從來第一線ニ増加スルヲ主ナル任トセシ後方豫備隊ハ「ベルダン」戰ニ於テハ第一線タル爲メノ控置部隊ニシテ交代部隊ニ外ナラス斯ノ如キハ從來慣用セシ歩兵戰法ト其主義ニ於テ著シク異ルモノニシテ戰後ニ於テハ各國ハ皆此主義トナリタリ故ニ「ベルダン」戰ハ又歩兵戰法變遷上ニ於ケル一紀元ヲナスモノナリ獨軍ノ攻撃法ハ右ノ如ク縱方向ニ逐次蠶食的ニ攻撃部隊ヲ進ムルノミナラス横方向ニ於テモ亦蠶食的ニ攻撃ヲ實施セリ即チ佛軍カ「シャンパーニュ」冬季戰時代ニ行ヒシ蠶食的方法ト同様ナリ

即チ獨軍ハ攻撃ノ爲メ「ベルダン」北方及東北方約三十吉米ノ正面ニ約十個師團ノ兵力ヲ配置セシモ（此正面ニアル佛軍兵力ハ三個師團ニシテ後方ニハ尙第二線師團三個アリタリ）二月二十一日攻撃ヲ開始セシハ正面僅ニ十一吉米（之ニ對スル佛軍兵力ハ二個師團）ニシテ其第一線兵力五個師團ナリ而シテ前記十一吉米ノ正面以外ニアル五個師團ノ兵力ハ佛軍ヲ牽制シ後舊攻撃部隊ト交代スルニアリスノ如ク獨軍ハ廣正面中ノ某一點（附圖第五參照）ニ對シテ急襲ヲ實施シ攻撃第二日（二十）ニハ佛軍第一陣地ノ二據點（佛軍陣地ハ先ニ述ヘタル如ク各據點間ノ中間地ハ未ダ閉塞シアラザリシカハ陣地ハ概シテ大據點式陣地）

ニシテ各據點ハ散兵壕ヲ奪取シ一舉深サ約三吉米半ヲ突進シ佛軍第二陣地前ニ

於テ攻撃中ヲ中止シ其翌日ハ前記三據點ニ隣接セル兩翼ノ二據點ヲ奪取セリ

（但シ其内ノ一據點ハ佛軍カ隨意ニ退却セリ此事ニ關シテハ後ニ述フヘシ）即チ第三日ハ概シテ正面十二吉米深サ三吉米

ノ地區ヲ突破セルナリ而シテ第四日ハ第二陣地ノ一據點ヲ突破シ其翌日即

チ二十五日ハ更ニ前日奪取セル據點ニ隣接スル數據點ヲ占領（此地點ハ佛軍カ隨意ニ退却セシコト）

（前記ト同様ナリ此事ニ關シテモ後述ス）シ且第二陣地ノ一部タル永久堡壘即チ此附近ノ最高所タル

「ヅウォーモン」堡壘ヲ占領セリ

斯ノ如クシテ二十八日迄ニハ深サ七吉米正面實ニ四十五吉米（斯ノ如ク廣正面ヲ奪取シ得シハ獨軍ノ攻撃セシ地

點カ佛軍戰線内ノ要點ヲ急速ニ突破セル爲本來突角ヲ形成セシ隣接正面ハ維持スル能ハスシテ撤退セシナリ）ノ佛軍戰線ヲ奪取シ佛軍第四陣地

（戰間構）ニ對スルニ至レリ

以上ノ如ク著々好成績ヲ以テ佛軍ヲ壓迫シ「ベルダン」市街ヲ去ル七吉米ノ地點ニ達シタリ之レ迄ニ至ル獨軍ノ攻撃法ハ先ニ述ヘタル佛軍ノ「砲兵ハ略奪シ歩兵ハ占領スル」ト同要領ニヨリ而モ陣地ノ全正面ニ攻撃スルコトナク局

所局所ニ甚大ナル砲撃ヲ加ヘ據點ヨリ據點ニ逐次蠶食セリ此間攻撃師團中疲勞大ナルモノハ逐次隣接部隊又ハ豫備隊ト交代セシメ其手ヲ緩ムルコトナク攻撃ヲ指導セリ

佛軍ノ防戰 然ルニ一方佛軍ニ於テハ二十二日以來第二線師團ヲ招致シ是亦逐次第一線師

團ト交代シ常ニ新銳部隊ヲ以テ獨軍ノ攻撃ヲ支ヘタリシカ二十六日頃迄ハ以上ノ如ク其成績甚タ不良ニシテ柔軟性ヲ缺クコト大ナリ是ニ於テ「ジヨッフ」將軍ノ憂慮甚シク爲メニ「ソナム」戰場ニ使用センカ爲メ集結セシ第二線師團

「ベタン」ヲ續々之ニ増援シ大ニ防戰ヲ鼓舞激勵スル所アリタリ然ルニ第二軍司令官「ベ

タン」將軍擧ケラレテ「ベルダン」ノ指揮ヲ取ルニ至ルヤ同將軍ノ用意周到ナル指導ト高潔ナル人格トニヨリ漸ク形勢ノ惡化スルヲ支ヘ「ベルダン」ヲ累卵ノ危キヨリ救フノ基ヲ作レリ

附言

「ベタン」將軍ハ佛國カ本大戰間ニ得タル名將軍ニシテ人格高ク兵卒ヲシ

テ望ンテ泰山ノ安キニアルヲ感セシムルモノアリシト謂フ

故ニ前述「シャンパーニユ」秋季戰ニ於テモ選ハレテ攻撃軍ノ一方ヲ擔任シ大ナル戰功アリ後十七年總司令官トナレリ以テ其有爲ニシテ而モ高潔ナル人格者タルヲ知ルヘシ

大戰間ニ於ケル「ベタン」將軍ハ斯ノ如ク有爲ナル人格者トシテ喧傳セラレタルモ戰前ハ甚タ不遇ナリキ是レ同將軍ハ佛軍ニ於テ流行セシ獵官運動ヲ好マサリシカ爲メニシテ大戰直前ニ於テハ大佐ニテ將ニ讖首セラレントセリ然ルニ大戰勃發スルヤ「ベタン」ノ高潔ナル人格ト卓拔ナル識見ハ佛軍ノ悲境ニ陷ルニ從ヒ愈々光輝ヲ發シ一躍師團長トナリ軍團長トナリ遂ニ總司令官タルニ至レリ

佛軍ノ回復 以上ノ如ク佛軍ハ「ベタン」將軍ヲ得テ頽廢セントセル士氣始メテ回復シ加之

「ジヨッフ」將軍カ其第二線師團ヲ續々「ベルダン」ニ増加シ且各種適切ナル應急施設(後述)ヲナシタル爲トニヨリ漸ク亂レントシタル足並ヲ揃ヘ始メタリ加

之一方獨軍カ攻勢ノ爲メ生シタル損傷及疲勞ヲ醫スル爲メ一時攻撃ノ手ヲ緩メタル等ノ原因ニヨリ爾後攻撃ノ進捗甚タ遅々タリ是ニ於テ獨軍ハ從來「ムーズ」右岸ヨリノミ攻撃セシ方針ヲ改メ同左岸ヨリモ攻撃シ續イテ左右兩岸ヨリ攻撃セリ

「ベルダ
ン」戦ノ
終期

然レトモ佛軍ハ既ニ上ニ良將軍ヲ戴ケルト守兵亦新銳ノ軍隊ヲ以テ交代シアリシ爲メ今ヤ面目ヲ一新セルト獨軍ノ攻撃兵力依然七、八個師團ヲ超エサリシカ爲メニ戦況發展スルニ至ラス是ニ於テ「ムーズ」川ノ左右兩岸地區ニ兩軍トモ執拗ナル爭奪戦ヲ生シ「ヴォー」堡壘及死人丘（「ムーズ」左岸）ヲ以テ歴史上ニ於ケル最モ悽慘ナル爭奪戦ノ一ナル名ヲ留メシムルニ至レリ

成績

以上ノ如ク獨軍ノ攻撃法ハ初期歩武整々、一時佛軍ノ膽ヲ寒カラシメタルモ攻撃一度頓挫スルヤ遂ニ攻城戦ニ變シ其成績見ルヘキモノ少ク單ニ兩軍トモ損傷ヲ大ナラシムルニ過キス彼ノ「ルーデンドルフ」ヲシテ「ベルダン」ハ人命ヲ損シタルカ爲著名トナレリ」ト謂ハシメシ如ク莫大ナル損害ヲ受ケテ中止スルノ

已ムナキニ至レルノミナラス秋季ニ於テハ却テ攻守其所ヲ異ニスルニ至レリ之ヲ要スルニ獨軍ノ初期ノ攻撃法ハ甚タ急襲的ニシテ而モ迅速ニ一局部ニ對シ急襲セシ點ニ於テ特徴アリ之カ爲佛軍カ比較的多クノ兵力殊ニ第二線ニハ莫大ナル豫備隊ヲ有セルニ拘ラス僅二十個師團内外ノ獨軍ノ爲メ稍々翻弄セラレタル感アリ又其攻撃ノ目的カ「ファルケンハイン」ノ述フル如ク敵ノ兵力ヲ消耗セシメントスルモノナリシヲ以テ「砲兵ハ略奪シ歩兵ハ占領ス」ル主義ヲ徹底的ニ實施シテ成功セルコト前述ノ如シ之カ爲メ其影響力佛軍攻撃法ニ及ホセシコトハ勿論ナリ（「ソナム」戦ノ記事
中ニ之ヲ述フヘシ）

而シテ本會戦カ「ファルケンハイン」ノ望ミタル如ク敵ノ兵力ヲ消耗セシヤ否ヤハ之ヲ詳細ナル死傷統計ニ俟タサルヘカラサルモ攻撃初期ニ於テハ其損害佛軍ニ比シ比較的少カリシモノト判定セラル何トナレハ獨軍カ攻撃頓挫後「ヴォー」堡壘等ノ永久堡壘及「ムーズ」西岸ノ死人丘等ニ對シ肉弾的攻撃ヲ實施シ其損害モ亦著シク大ナリシニ拘ラス「ベルダン」全會戦ノ損害ハ防者タル

佛軍ニ比シ比較的少カリシカ如キヲ以テナリ（英軍ノ調査ニヨレハ攻者タル獨軍ノ死傷ハ三〇〇、〇〇〇ニシテ略々相等シ）故ニ若シ獨逸軍ニシテ永久堡壘ニ對スル攻城戰ヲナス以前ニ於テ「ベルダン」戰ヲ中止セシナランニハ或ハ其目的ヲ達シタルヤモ知レサルモ「ヅウオーモン」堡壘カ意外ニ容易ニ陥落セシ（此堡壘ノ意外ニ容易ニ陥落シタルハ當時佛軍カ守備師團ヲ交代セシメアリシ時機ナリシト堡壘ハ榴彈ノ集「ナリトノ説ニヨリ之ヲ重要視セザリシトニ依ル然ルニ爾後ノ攻撃ニ於テハ其他ノ永久堡壘ハ兵學界ニ於テ想像セシ如ク「榴彈ノ集」トナリシモ之ヲ全然無價値ナリトセシ考ハ謬見ナリシコトヲ發見セリ即チ頑強ナル抵抗ヲ持續シ得タリ）ニヨリ「ベルダン」ハ容易ニ陥略セシメ得ヘシト即斷セシト騎虎ノ勢ニ驅ラレタルトニヨリ彼我兩軍トモ惡戰苦闘ヲ繼續スルニ至リタルカ如シ是ニ於テ「ファルケンハイン」ノ所期セシ目的ハ遂ニ達成セラレスシテ敵ニモ大ナル損害ヲ與ヘタルト等シク自軍モ亦前記ノ如ク大ナル損害ヲ受ケテ中止スルノ已ムナキニ至レリ

斯ノ如クシテ十六年迄ハ他ニ比シ靜穩ナル正面ナリシ「ベルダン」地區ハ三月二十一日獨軍ノ投セシ巨砲彈ノ洗禮ヲ受ケテ以來「ソナム」會戰中ハ勿論同會戰後モ終始戰鬪已ムコトナク爾後爭鬪ノ絶エサル一活動正面トナレリ

第七節 佛軍ノ防禦戰鬪法

初期ノ防禦 佛軍カ獨軍ノ「ベルダン」攻撃ヲ察知シタルハ十六年ノ一月中旬ナルモ總司令部ハ獨軍ノ牽制運動ニ欺騙セラレテ主攻擊ハ「シャンパーニユ」ナルヘシト判斷セリ加之前述セシ如ク從來「ベルダン」附近ノ防備不十分ナリシカ爲メ攻撃ヲ受ケタル當初之カ防禦設備、兵力ノ増加等ノ爲メニ甚シク狼狽セシヤノ感アリ殊ニ獨軍ノ攻撃カ急襲的ナリシカ爲メト先ニ「ベルダン」放棄說アリシカ爲メトニヨリ最初ノ數日間ハ防禦戰鬪稍々鞏強ナラサリシヤノ感ヲ與フルモノアリテ總司令部ノ狼狽愈々甚シカリカ如シ幸ニ佛軍ハ「ソナム」會戰ノ爲メ準備セシ三十數個師團ヲ使用シ得タルト西方戰場ニアル英軍ノ兵力漸次増加セシ爲メ佛軍ノ兵力ニ餘裕ヲ生シ漸クニシテ獨軍ヲ拒止スルヲ得タルナリ

然レトモ初期ニ生シタル狼狽ノ結果カ將又將來ノ作戰ヲ顧慮シタル爲メカ（佛軍側ニテ「ソナム」戰ノ爲メナリト云ヘリ）此第二線部隊ノ使用法ハ逐次使用ノ傾向アリタリ之カ爲メ初期ノ防禦戰鬪法ハ全然受動的ナリキ殊ニ佛軍ハ陣地戰開始以來多クハ攻勢ヲ保

持シ軍ニ小規模ノ攻撃ヲ受ケタルニ止マリ強大ナル攻撃ヲ受ケタル經驗ナキヲ以テ「ベルダン」戰初期ニ於テハ各種ノ混雜ヲ生シタリ今其一例ヲ舉クレハ左ノ如シ

防禦戰鬪韌強ナラサリシニ例(附圖第五)

防禦戰鬪
韌強ナラ
サリシニ
例

佛軍第一陣地ハ先ニ述ヘル如ク二十二日其一部、獨軍ノ爲メニ突破セララルヤ「ムーズ」川右岸第一線陣地左翼ノ據點タル「ブラバン、シュウル、ムーズ」地區守備隊ハ自己カ甚シク孤立ノ位置ニアルヲ感シタルヲ以テ師團長「バプスト」ハ守備隊タル第三百五十一旅團ヲ撤退セシメタリ軍團長「クレチアン」及地區兵團長「ラングル」ハ共ニ大ニ遺憾トシ殊ニ「ラングル」ハ命令シテ曰ク「逆襲ノ有無ヲ問ハス死守スルアルノミ蓋シ斯ノ如キ突出部カ生存スルニヨリテ始メテ敵ノ突破ヲ制限シ得レハナリ」ト述ヘ防禦陣地ヲ死守スヘキヲ嚴命セリ然ルニ右ニ劣ラサル一大失策ハ續イテ佛軍戰線内ニ發生セリ即チ二十五日「ムーズ」河岸ニ接近セル唯一ノ第二陣地ノ據點タル「ボーモン」西方三四四高地

第二例

及其南方高地帯ヲ占領セル第三十七師團ハ其正面ニ何等ノ攻撃ヲ受ケサルニ拘ラス獨軍カ其東南方ヲ攻撃シ「ツウオーモン」堡壘ヲ占領セルヲ知ルヤ是亦自己カ孤立セルヲ感シ隨意ニ其陣地ヲ捨て後方ニ退却セリ該師團長ハ他ニ何等ノ情報ヲ受クルコトナク軍ニ「ツウオーモン」堡壘ニ獨軍ノ火箭ヲシキモノ舉カリタリトノ報告ノミニテ情況ヲ悲觀シ有利ナル形勢ヲ放棄シ陣地ヲ撤退セリ斯ノ如ク戰術的ニモ精神的ニモ不祥ナル事件頻出スルニ至リシカハ佛軍總司令部ノ神經ヲ刺戟スルコト甚大ナリシハ勿論ナリ

「ベタン」
將軍ノ改
善事項

以上ノ如クシテ「ベルダン」ハ一時甚タ危殆ナリシカ前ニ述ヘシ如ク「ベタン」將軍ノ防禦總司令官トナルヤ著々諸種ノ改善ヲナシ漸次防禦戰鬪ヲ良好ニ指導スルニ至レリ其主ナル事項左ノ如シ

1. 某地區ノ軍團長及幕僚ヲ一定シ師團ハ交代スルモ軍團長及幕僚ハ交代セシメサル如ク規定セルコト(此方法ハ「ソナム」戰ニ用ヒラレ爾後陣地戰ニ於ケル特種用法トナレリ)
2. 防禦陣地ヲ更ニ三線トシ合理的ニ構築セルコト

3. 砲兵數ヲ増加セリ(前ニ其數ヲ掲ケタル如ク當
初ノ三倍以上ニ増加セリ)
 4. 後方ヲ整理シ輸送ヲ圓滑ナラシメタリ
 5. 右ト同時ニ「ムーズ」川ニ多數ノ橋梁ヲ架設セリ本來「ベルダン」ヨリ「サ
ン、ミエル」間(「ムーズ」
上流)ニ九個アリタル橋梁ヲ四十一個ニ増加シ更ニ百五
十以上ニ増加セシメタリ
 6. 縣營輕便鐵道ヲ擴大シ準軌道ノ線路トナセリ(此鐵道ハ六月十日竣工セシ爲メ
多數ノ自動車ヲ「ソナム」攻勢ノ
爲メニ使用スル
ヲ得セシメタリ)
 7. 其他輕便鐵道ノ敷設、航空勤務並堡壘勤務ノ規定ヲ確定セリ
- 以上ノ如ク著々トシテ適切ナル計畫ヲナシ且之ヲ敏活ニ實施シタル爲メ防禦
ノ各機關ハ漸次圓滑ニ運轉スルニ至レリ
- 「ベタン」將軍カ後方ヲ整理シ輸送ヲ圓滑ナラシメント計リシ事實ヲ尙詳述ス
レハ次ノ如シ

自動車ノ 本來「ベルダン」ノ背後連絡線トシテハ道路ノ外一鐵道アリシノミナリシカ此

利用

鐵道ハ獨軍ノ砲撃ニ依リ使用シ難キニ至リタリ爲メニ貨物自動車ヲ使用シテ
増援部隊ヲ輸送セリ

附言

「ベルダン」ニ於テハ多數ノ貨物自動車ヲ有利ニ使用シ急速且確實ニ増援
部隊及軍需品ヲ輸送シテ之ニ成功セシ最初ノ戰例ヲナセリ「佛國ニ於テ
ハ「ベルダン」戰ニ自動車ナケレハ同會戰ハ失敗セシナラント世人カ言フ
如ク自動車ハ兵員輸送ニ大ナル貢獻ヲナセリ」ト

自動車ト
専用道路

而シテ此自動車輸送ニハ一専用道路(三輛併行シ得ル如ク
幅員ヲ擴大ス)ヲ使用スル如ク規定
シタルカ爲メ大ニ自動車ノ能力ヲ發揮シ得タリト云フ(二月二十三日ヨリ三千四
百輛ノ自動車ヲ使用シ三
月四日迄ノ間ニ於テ百三十二大隊、彈藥二萬七
百噸其他ノ材料五十八萬七千噸ヲ輸送セリト)

佛軍カスノ如ク自動車ニ専用道路ヲ與ヘタルハ實ニ「シャンパーニュ」秋季
戰ノ經驗ニヨリタルナリ同會戰ニ於テハ成ルヘク速ニ豫備隊ヲ突破地點ニ送
ランカ爲メニ多數ノ自動車ヲ準備セシカ實際ニ於テハ交通困難ノ爲メニ

其能力ヲ發揮スル能ハサリキ即チ啻ニ道路不良ニシテ通過地區ハ危險地帯ナリシノミナラス他部隊ト行進交叉ヲ起シタルコト是ナリ而シテ「ベルダン」戦開始前(二月十日)多クノ兵力資材ヲ輸送スル爲メニ如何ニスヘキヤヲ研究シタル際ニ於テ自動車ニ専用道路ヲ與フルハ毎日少クモ二千噸ノ材料及一萬二千ノ人ヲ輸送シ得ヘキコトヲ發見シ遂ニ此方法ヲ採用スルニ至リタルナリ故ニ自動車ノ價值ハ「ベルダン」戦ニ於テ初メテ世上ニ認めラレタルモ斯ノ如ク價值ヲ發揮セシ所以ノモノハ以上ノ如ク前會戰ノ教訓ニヨリ其方法ヲ改善シタルニ依ルナリ

師團ノ交代

又佛軍ハ本會戰ニ參戰セシ師團ヲ終始交代セシメタリ之カ爲メ二月二十一日ヨリ七月一日迄ノ間ニ於テ「ベルダン」ニ於テ參戰セシ師團數ハ六十五個師團トナレリ凡ソ師團ヲ斯ノ如ク頻繁ニ交代スルハ防禦戰鬪ノ本則ヨリ謂ハハ各種不利ナル諸現象ヲ呈スルコト論ヲ俟タス佛國側ノ著書ニハ此交代法ヲ以テ「ジョッフル」ノ手腕ヲ稱揚スルニ足ル一事業トナセルモ斯ノ如ク終始交代セシムル

爲ニ生スル混雜並新ニ戰線ニ入りタル師團ノ地形等ヲ暗熟セサル不利益或ハ平穩正面ヨリ急ニ激烈ナル砲彈下ニ入ル爲メニ生スル驚駭等ニヨリ防禦戰鬪上ニ少カラサル不利ヲ生シタルヲ思ハサルヘカラス而シテ佛軍カ斯克頻繁ニ交代セシメタル理由ハ「ベルダン」參加部隊ヲシテ過大ノ損害ヲ受ケテ永ク使用シ難キニ至ラシメサラントスルノ顧慮ヨリ出テタルモノナリ

佛軍總司令官トシテハ此際曾テ「ペタン」ノ言ヒシ如ク先ツ「ベルダン」戦ニ於テ敵ノ兵力ヲ損耗セシメ然ル後「ソナム」ニ於テ決戦ヲナサントスルヲ可トセシナラン蓋シ「ベルダン」戦ハ此目的ノ爲メニ最良ノ好機ナレハナリ之カ爲メニハ過度ニ多クノ交代ヲ行フコトナク各師團ノ戰鬪力ヲ十分ニ使用スルヲ可トセシナラン然ルニ「ジョッフル」將軍ハ上述ノ如ク「ベルダン」戦ニ於テ徹底的ニ其防禦部隊ヲ使用スルヲ好マサリシ爲メカ各師團カ某程度疲勞セハ之ヲ速ニ交代セシメ逐次新銳ナル兵力ヲ使用セリ其結果各師團ハ單ニ防守ノミヲ事トスルニ至リ防禦戰鬪從テ受動的トナリ其成績モ亦良好ト謂ヒ難カリキ

斯ノ如ク「ベルダン」ノ防禦會戰ニ於テハ佛軍ハ始メヨリ急忙事ニ當リタル爲メ前半期ハ甚シク受動ニ陥リ小兵力ナル獨軍ニ終始翻弄セラレタルカ如キ感アリシカ増援部隊ノ到着、設備ノ完備等ニヨリ漸次沈著性ヲ増大シ來リ殊ニ四月上旬ヨリ「ニヴェール」「マンデヤン」等ノ將軍來ルヤ（ベタンハ始メ「ベルダン」防禦地區ノ總司令官ナリシカ此頃ニハ其職ヲ「ニヴェール」ニ讓リ「ベルダン」及其周圍ノ指揮官即チ中央軍集團司令官ニ昇進セリ）漸次沈著心ヲ増スト共ニ攻勢的ニ防禦スルコトトナレリ即チ四月二日「ニヴェール」「ハムーズ」右岸ノ指揮ヲ取りタル際「敵ノ攻撃ニ對シ猛烈ニ逆襲スルノ意志ヲ示スヘシ」ト命令シ翌二日「マンデヤン」將軍ノ指揮スル一個聯隊ヲ使用シテ先ニ失ヒタル諸塹壕ヲ奪還セリ此逆襲ノ主義トスル所ハ敵ノ砲撃及攻撃ヲ日々受動的ニ受クルヨリハ寧ろ敵ニ先ンシテ計畫的ニ攻撃シ敵ニ大打撃ヲ與ヘ將ニ攻撃セントスル敵ニ對シ先制ノ利ヲ占メントスルモノナリ

從來佛軍ハ獨軍ニ比シ優勢ナル兵力ヲ「ベルダン」ニ集メタルニ拘ラス其成果ヲ舉クル能ハス殊ニ敵ノ奇襲ニ對シ常ニ受動的ナリシヲ以テ至大ノ犠牲ヲ拂ヒア

「ニヴェール」「マンデヤン」
攻勢的防禦

攻勢的防禦ノ利害

リシカ翻然シテト受動的防禦ノ不可ナルニ著眼シタルハ佛軍戰法上ニ於ケル一大進歩ト謂ハサルヘカラス而テシ右戰例ハ此新方針ニ基ク實演ノ序幕ヲナシ爾後佛軍砲兵ノ増大スルニ從ヒ著々此方針ヲ實施シ「ソンム」戰ノ開始ト共ニ遂ニハ元來攻勢ヲ維持セシ獨軍ヲシテ受動的ナラシメ爲メニ獨軍ヲシテ「ベルダン」攻撃ヲ中止セシムルノ一原因ヲナスニ至ラシメタルノミナラス佛軍ノ損害ハ漸次減少スルニ至レリ今參考ノ爲「マンデヤン」將軍ノ言ヲ左ニ引用セン

眞ニ攻撃的ナル防禦ノミヲ採用セサルヲ得サリキ此種防禦戰鬪法ハ是迄ノ通りノ損害ヲ招クコトナク且精神上ニ於テ大ナル利益ヲ有セリ軍隊ノ志氣ハ之カ爲メ昂リ敵ノ意志ハ破レタリ敵ノ配置ヲ知ルニ便ナル捕虜ヲ取り敵ノ最弱點ヲ脅威シ敵ヲ他戰場ニ有セル兵力ヲ此點ニ牽制シタリ（註獨軍ノ「ベルダン」攻撃ノ目的モ亦此意味ニ外ナラス）

「尤モ此攻撃的防禦ノ決心モ亦若干缺點ナキ能ハサリキ即チ防禦陣地ヲ改良シ交通壕ヲ新設シ材料庫ヲ創設シ且兵卒ニ休息ヲ與フル等ノ時間及作業

手ヲ缺キタルコト是ナリ

此缺點ヲ醫スル方法ハ敵カ忍耐シテ編成セシ塹壕——我攻撃ニ對シテハ大丈夫ナリト敵ノ信セル——ヲ奪取スルニアリト

攻撃ハ防禦ノ最良手段

之ヲ要スルニ矢繼早ニ攻撃スル獨軍ニ對シ佛軍ハ大ナル兵力ヲ保持セシニ拘ラス常ニ受動的ニ戰鬪セシカ「ニヴェール」及「マンヂェン」ノ如キ良將軍ヲ得テ始メテ「攻撃ハ防禦ノ最良手段ナリ」ノ原則ノ眞ナルヲ立證セリ而シテ右「マンヂェン」將軍ノ謂フ所ノ攻撃的防禦ノ方法ハ受動的防禦ヲナスニ比シ損害少クシテ有利ナル事實ハ特ニ吾人ノ注意ヲ要スルモノトス此事實ニヨリ吾人ハ左記ノ諸事項ヲ肯定シ得

1. 急襲的ニ攻撃シ來ルモノニ對シ防者カ受動的ニ敵ヲ待ツテ防禦スルハ不可ナリ積極的ニ防禦スルヲ第一義トスルヲ要ス
2. 防者ハ積極的ニ防禦スルコトヲ企圖スルモ其違ナキ場合アリ防者トシテハ斯ノ如キ場合ヲ顧慮シ縱ヒ一時敵ニ主動權ヲ與ヘタル場合ニ於テモ

之ヲ速ニ奪還シ得ル方法ヲ講スルコト必要ナリ之カ爲メニハ攻者ノ急襲的攻撃威力ヲ吸收センカ爲メ防者ハ深長ナル自己陣地内ニ防禦力ヲ貯藏スルノ著意ヲ要ス之ヲ換言セハ緩衝的陣地ノ設置ヲ必要トス

3. 又攻防兩軍相接近セル場合ニ於テハ防者ハ豫メ歩砲火ノ發揚地區ヲ確定シ瞬時ノ記號等ニヨリ自動的ニ其火力ヲ發揚スルヲ要ス

之ヲ要スルニ從來ノ如キ硬固ニシテ彈力性ナキ防禦組織ハ急襲的攻撃ニ對シテハ甚タ不利ナルハ明瞭ナルヲ以テ此著意ハ漸次陣地戰間ニ採用セララルニ至レリ然レトモ右諸著意カ實行ノ上ニ現レタルハ尙後期ニ屬シ此間各種ノ變遷アリタリ

第八節 「ベルダン」戰ニ於ケル砲兵

砲兵技術ノ競争
十六年ヨリ十七年末ニ至ル本期間ハ先ニ述ヘタル如ク砲兵技術ノ競争時代ニシテ「ベルダン」戰ハ實ニ其出發點ヲナセリ前期即チ十四年末ヨリ十五年ニ至ル一年有餘ノ期間ハ之ヲ一言ニシテ謂ハハ數線陣地帯ノ成立セシ時代ニシテ

解決スヘキ砲兵問題

戦法上ニ於テハ戦前ノ諸原則ヲ襲用セシモノ多ク砲兵ニ於テモ亦然リトス殊ニ砲兵ニ關スル多クノ問題ハ主トシテ本強襲戦法時代ニ於テ解決セラレタルカ又ハ解決ノ曙光ヲ放チタルモノニシテ一般戦術ハ從テ之カ衝動ニヨリ幾多ノ變遷ヲナセリ砲兵ニ關スル問題トハ

- (1) 敵砲兵ノ破壊
 - (2) 砲撃時間ノ短縮
 - (3) 歩砲ノ協同動作
- 等是ナリ

右諸問題ト「ベルダン」戦

ハ右ノ諸問題ニ對シテ適確ナル解決法ヲ殘ササリシト雖一ノ指針タルヘキモノヲ殘セリ即チ前述獨軍砲兵カ砲撃ヲ短時間ニナシタルコトハ假令獨軍カ「ゴルリッツ」ニ於テ試験濟トナレル方法ナルモ素質、裝備略々同等ニシテ陣地ノ強度亦大ナル佛軍ニ對シテ行ヒタル點ニ於テ又佛軍カ長時日ノ準備射撃ヲ賞用セル時代ニ行ヒタル點ニ於テ正ニ頂門ノ一針タリ殊ニ試射

試射時間ノ短縮

ヲ單簡ニシテ精密射撃ヨリモ地帯射撃ノ有利ナルヲ示シタル點ニ一新機軸ヲ開ケルモノト謂ハサルヘカラス

歩砲ノ連繫

又攻者歩兵力從來歩砲ノ連繫不十分ニシテ障碍物前ニ停止スルヤ豫備隊ヲ注入二次クニ注入ヲ以テスルヲ一般ノ攻撃方法トナセル際ニ於テ逐次攻撃目標ヲ與ヘ「砲兵ノ破壊シタル後歩兵力前進スル」方法ヲ採用シ且始メテ之ヲ實行セシコトモ亦歩砲連繫ニ關スル新方法ト謂ハサルヘカラス此方法ハ「ソナム」戦ニ於テモ英、佛軍之ヲ採用シ爾後移動彈幕射撃ノ發案ト共ニ此戦法ノ形ヲ變ヘタルモ「ベルダン」戦ニ於ケル此方法ハ歩砲連繫方法カ進化スル迄ノ一階梯トシテ特記スルノ要アルモノナリ

右方法ノ採用カ歩兵戦法ニ及ホシタル影響

而シテ此方法ノ實施ト共ニ步兵戦法ニ一革新ヲ齎セル點ニ於テ更ニ大ナル教訓アルヲ注意スルコト肝要ナリ
從來ノ戦闘殊ニ日露戰爭ニ於ケル我軍ハ砲兵ノ過少ナリシ關係上攻撃前進後ノ攻撃發展手段ハ一ニ步兵ノ火力ト衝力トノミニヨレリ之ヲ今ヨリ考フレハ

因襲的歩
兵戰法

當時ノ戰法ハ全然砲兵ヲ使用スルコトナク歩兵ノミヲ以テ攻撃セシ戰法ニ近キモノト謂ハサルヘカラス即チ第一線歩兵ノ攻撃滯滞スルヤ唯豫備隊ヲ増加シテ歩兵線ヲ濃密ニシ歩兵ノ勢力ト勢力トノ競争一之ヲ例フレハ『棒押シ』遊戯ノ如ク一ヲナシタルナリ防者カ何等ノ掩護物ニヨルコトナキ場合ニハ此種方法ハ意志弱キ一方軍ノ敗退ニヨリ戰鬪ノ終局ヲ告ケタルモ防者カ築城殊ニ障礙物ニヨリ掩護セラレアル時ニ於テ此種ノ方法ヲ用フルハ防者カ意志著シク薄弱ナラサル限り攻者ハ損害ヲ大ナラシムルノミニシテ其不利ナルコト明ナリ此事實ハ常識上既ニ明瞭ナルニ拘ラス此因襲的戰法ハ砲兵ノ數甚シク増大セシ陣地戰ニ於テモ尙二年間襲用セラレタルハ正ニ奇觀ト謂ハサルヘカラス實ニ「シャンパーニュ」秋季戰ノ如キハ其好適例ナリ此歩兵ノ腕力主義ヨリ脱逸シ『機械ニ對シ人力ヲ以テスヘカラス』ノ原則ヲ適確ニ實施シタルハ「ベルダ」ニ於ケル獨軍ヲ以テ嚙矢トス而シテ此主義ヲ實行スル爲メニ獨軍カ『豫備隊ハ第一線ニ注入スル爲メニ控置セルニアラスシテ第一線歩兵カ攻撃頓挫セ

豫備隊ノ
新用途

シ際ニ於テ新ニ砲兵ノ破壞射撃ヲ實施シタル後速ニ第二ノ攻撃ヲ實行センカ爲メニ控置セルモノナリ』トノ主義ヲ確立スルニ至リシハ歩兵戰法トシテハ其根本的一變革ナリ是レ素ヨリ獨軍カ歩兵ノ消耗ヲ避ケンカ爲メニ採用セル所ナルモ此主義ハ大ナル砲兵ヲ有スル軍ノ戰法トシテ當然採用スヘキモノナリ從テ此主義ハ爾後陣地戰ニ於テ變ルコトナク戰後ニ於テモ亦原則トシテ殘ル所ノモノニシテ砲兵ノ増加セシ今日ニ於テハ蓋シ至當ナル戰法ト謂ハサルヘカラス右ノ如ク歩兵ノ前進及其占領セシ陣地ノ確保ヲ掩護スルニハ砲兵ハ攻者歩兵ノ前面及側面ニ集中射撃ヲ行ヒ彈幕トナセリ此射擊幕ハ此後ニ現ハレタル移動彈幕射撃ト異リ一陣地毎ニ火力ヲ集中スルモノニシテ後ニ謂フ固定彈幕射撃ニ當ルモノナリ

固定彈幕
射撃

而シテ此彈幕ノ延伸ハ豫定時刻ニヨルカ或ハ歩兵ヨリノ通報ニ基キ行ヒ歩兵ハ豫メ時計ヲ規正シ指定ノ時刻ニ（若シ奪取目標遠キ時ハ此時刻ヨリ若干時前ニ）前進ヲ開始シ砲火幕ニ觸レツツ突進スルヲ要義トセリ斯ノ如クシテ歩兵ハ先ニ砲兵カ彈幕ヲ以テ掩

ヒタル陣地ニ突入スルヤ砲兵ヲシテ其奪取セシ陣地ノ前面及側面ニ彈幕射撃ヲ施サシメテ敵ノ逆襲ニ對應セリ

巨砲ノ使

「ベルダン」戰ニ於ケル獨軍砲兵ノ他ノ一特徴ハ巨砲ヲ多ク使用セシコトトス獨軍ノ使用セシ巨砲ノ主ナルモノハ二一〇密米臼砲(百中隊)及三〇五密米榴彈砲

(十中隊)ニシテ尙此外ニ三十八珊及四十二珊ノ巨砲ヲ使用セリ

是等巨砲ヲ多ク使用セルハ陣地戰ニ於テモ從來其例ヲ見サルコトニシテ恐ラク一舉ニ佛軍ノ砲兵及梯列セル數線ノ陣地ヲ破壊セント企圖セシ爲ナラン而シテ其結果ヲ見ルニ直接觀測シ得ル場所ニ對シテハ如何ナル點ニ於テモ成績良好ニシテ鐵條網ノ如キハ陣地ニ對スル集中的破壊射撃ニヨリ自然ニ破壊セリ又三十八珊級以上ノ大口徑砲ヲ以テ破壊射撃ヲ實施セラレタル佛軍諸司令部ハ初期ヨリ大ナル損害ヲ受ケ特ニ電話通信ハ不可能トナレリ又佛軍ノ陣地ハ交通路ノ構築不十分ナリシカ爲メニ此巨砲彈ヲ受クルヤ後方トノ交通ヲ著シク困難ナラシメタル等急襲的成果ヲ愈々大ナラシメタリ

巨砲ノ適

否 佛軍ハ開戰以來獨軍カ未曾有ノ大口徑砲ヲ使用シタルニ驚駭セシカ今又「ベル

ダン」ニ於テ眼前之ニ依リテ威嚇セラルルヤ大口徑長射程砲ノ必要ナルコトヲ痛感シ遂ニ開戰二年後ニ於テ始メテ此種巨砲ヲ戰場ニ使用スルニ至レリ十六年ノ「ソナム」及十七年ノ「エーヌ」戰等はナリ之ニ反シ獨軍ハ爾後「ベルダン」戰ノ如ク巨砲ヲ用フルヲ廢シタルハ奇ナル現象ニシテ是レ恐ラクハ斯ノ如キ巨砲ノ消費彈量ニ比シ小口徑火砲ノ方成果多キニヨルナラン是レ敵ノ兵力ヲ殺傷スルニ最モ適セルハ輕砲及半重砲ナルカ爲メナリ之カ爲メカ十八年ニ於テハ是等大口徑砲ハ兩軍ニ於テ共ニ其影ヲ没スルニ至レリ

佛軍ノ砲
兵並使用
法

此當時迄ニ佛軍ノ使用セシ砲種ハ野砲及攻城加農砲ニシテ少數ノ曲射砲ヲ有セシノミ而シテ野砲ハ師團ニ配屬シ攻城砲ハ主トシテ軍團ニ於テ統一セリ而シテ防者タリシ佛軍野砲ハ殆ト大部歩兵ノ正面ニ防禦阻塞射撃ヲ施シ攻撃ヲ阻止スルニ充テ軍團砲兵ハ攻者砲兵ニ對スル制壓射撃ニ使用セリ
斯ノ如ク野砲ヲ阻塞射撃ニノミ使用スルハ獨軍カ十四年末以來採用シテ成功

セル方法ニシテ會戰初期一時劣勢ナル防禦砲兵トシテハ已ムヲ得サル使用方
法ニ屬スルモ砲兵ノ過半数カ軍ニ阻塞射撃ノミニ使用セラルルハ全然受動的
ニシテ適當ナラサルコト勿論ナリ之ニ著意セシ佛軍總司令部ハ十六年四月五
日教令ヲ發シ野砲モ亦砲戰ヲ實施スルヲ要スルコトヲ切言セリ即チ左ノ如
シ

「更メテ切言ス

我野砲ハ射距離五千米迄ハ縱令穹窿内ニアル敵砲ニ對シテモ其命中ノ正確
ナルコトニヨリ砲門ニ對シ射撃效力大ナリ五千米以上ニアリテハ穹窿内ニ
アラサル砲兵ニ對シ有效ナリ

「ベルダン」ニ於テ野砲ヲ阻塞射撃専用トスル傾向ヲ現ハセルモ是レ該砲ノ
能率ヲ充分利用スルノ道ニアラス若干大隊ハ機ニ應シ阻塞射撃ヲナスノ任
務ヲ保留セシメツツ砲戰砲兵ニ用フルヲ得ト

防禦砲兵ノ使用法トシテ注目スヘキ變遷ハ以上ノ如ク何等ノ新機軸ナキモ此

會戰ニ於テ砲兵指揮ニ關シ佛軍ノ得タル教訓數件アリ佛軍ニ於テハ各第一線
師團ノ歩兵力某程度ノ損害ヲ受ケテ交代スルニ際シ砲兵ノミハ陣地ニ殘留セ
シムルヲ通常トセリ之カ爲メ一師團地區ニ於テハ遂ニ數個師團分ノ砲兵聯隊
アルニ至リ某聯隊長カ數個聯隊ヲ併セ指揮スルニ拘ラス軍團砲兵ノ指揮官タ
ル將官又ハ大佐ハ僅ニ數大隊ノ砲兵ヲ指揮スルカ如キ奇觀ヲ呈スルニ至レリ
而シテ斯ノ如キ多數砲兵ノ統一指揮ハ一砲兵聯隊長ニトリテハ甚タ困難トナ
レルコトハ明瞭ナリ故ニ前記四月五日ノ教令ニテ「步兵師團長ハ萬事砲兵ニ
委セ切リニテハ不可ナリ殊ニ増加砲兵ノ區處ノ適否ヲ點檢確認スルノ要アリ」
ト述ヘ步兵師團長カ砲兵ニ關シ我不關焉ノ態度ヲ戒ムル所アリタリ

砲兵ノ情
報勤務

又此會戰ニ於テ佛軍砲兵ニ於テ一進歩ト認ムヘキ事項ハ軍團砲兵ニ情報勤務
ノ制度ヲ創設シタルコト是ナリ砲兵ノ情報勤務トハ地上空中音響其他ノ諸候
察ニヨリ組織的ニ敵ノ砲兵陣地ノ所在ヲ認定シ之ヲ射撃部隊ニ通報スルモノ
ヲ謂フ

斯ノ如キ勤務ノ生シタル所以ハ對者砲兵カ地上及空中ニ對シ十分ニ遮蔽セラレ之ヲ破壊スルコト困難ナリシカ爲メナリ之カ爲メ攻者ハ微細ナル徵候ヲモ遺憾ナク收集シテ敵砲兵ノ位置ヲ確認スルヲ要シ斯ノ如キ制度ヲ創設スルニ至レルナリ

此情報勤務ハ爾後愈々科學的ニ進歩シ殊ニ十六年十二月二十日ノ教令ニヨリ

此組織ヲ更ニ改善シ爾後此方法ハ大ニ進歩シテ今日ニ至レリ(獨軍ニ於テモ亦十六年末ヨリ師團以上ノ

司令部ニ砲兵ノ統轄機關設置セラレ

相互支援ノ原則

防禦砲兵トシテ尙茲ニ留意スヘキ一現象アリ從來相隣接スル部隊ハ比隣部隊

ノ前地ニ對シ側防火ヲ設ケ相互ニ支援スルヲ一般ノ原則トセシカ此方法ハ戰

鬪酣ナルニ際シ實施甚シク不確實ナルコトヲ發見セラレタリ之カ爲メ自己師

團ノ若干砲兵ヲ比隣地區ニ配置シ自己ノ正面ヲ側防セシムル方法ヲ採用スル

ノ已ムナキコトナレリ

右ノ如ク比隣部隊相互支援ノ方法ハ言フ迄モナク戰前ノ一般原則ニシテ演習

其他ニ於テ何等以上ノ如キ缺陷ヲ認識セサリシカ實戰ノ經驗ニヨリ爾後比隣地區ニ自己砲兵ヲ配置スル方法ハ一般の原則トナルニ至レリ獨軍ニ於テモ亦右ノ事實アリシカ如シ即チ十六年九月十八日附ノ教令ニヨレハ「大規模ナル攻撃ニ方リテハ隣接團隊ノ援助ヲ期スヘカラサルヲ顧慮スルヲ要ス」ト

以上ハ佛軍カ「ベルダン」防禦戰間ニ發見セシ教訓ノ主ナルモノナルモ同會戰

間佛軍漸次攻撃ヲ保持スルニ至ルヤ陣地攻撃戰法上ニ一新法ヲ發案セリ即チ

移動彈幕射擊是ナリ

先ニ述フルカ如ク獨軍ハ「ベルダン」戰ノ攻撃ニ固定彈幕ヲ躍進セシムルコト

ニヨリ歩兵ヲ掩護スル方法ヲ用ヒタルモ佛軍ニ於テ發案セシモノハ此方法ノ

更ニ進化シタルモノナリ獨軍ノ方法ハ彈幕ヲ一陣地ヨリ一陣地ニ一舉ニ躍進

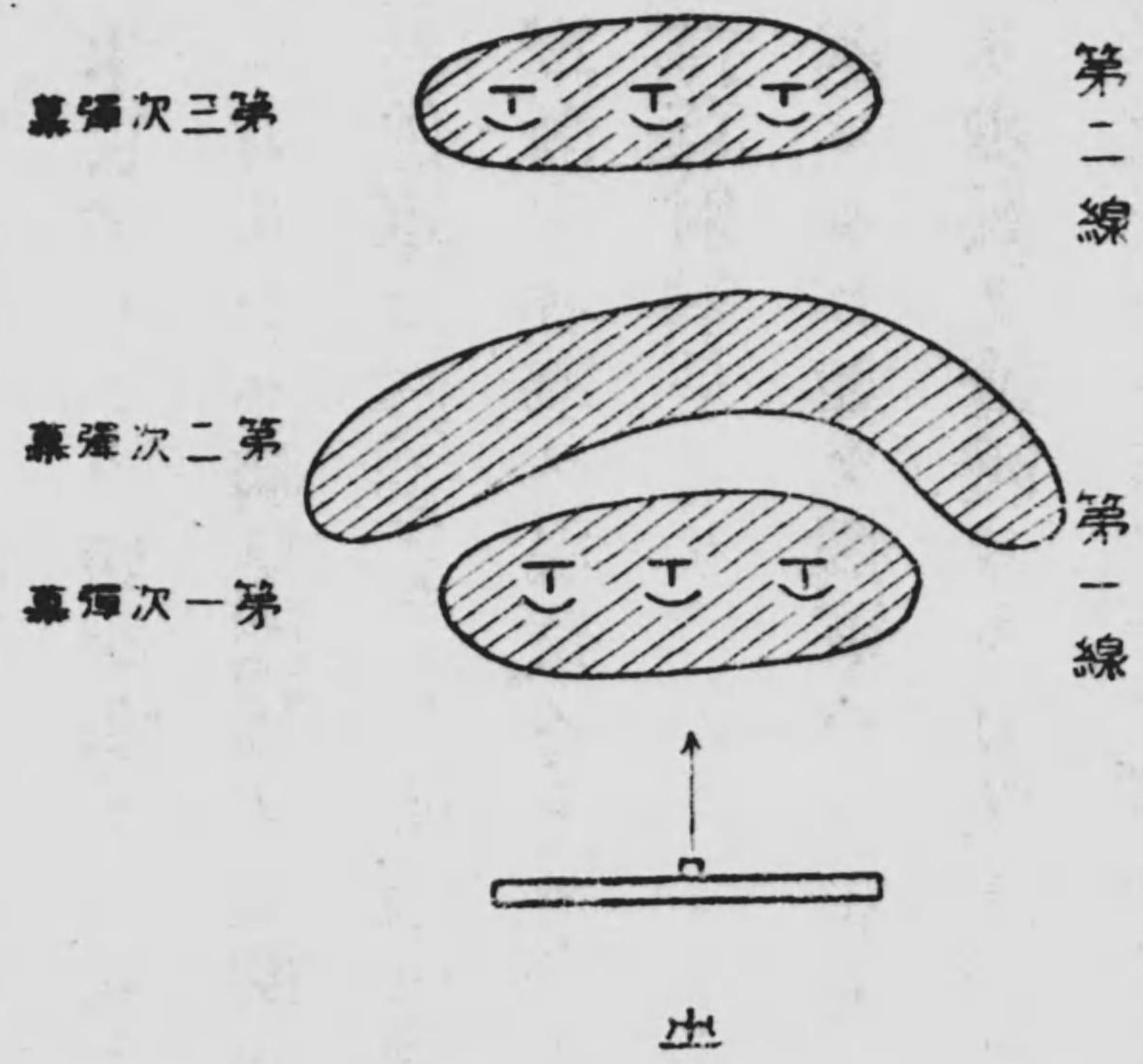
セシムルモノナルモ佛軍ノ移動彈幕射擊ハ歩兵ノ前進間終始其前方ニ射彈幕

ヲ設ケシムルモノニシテ兩者大體ノ差別ハ左圖ノ如シ

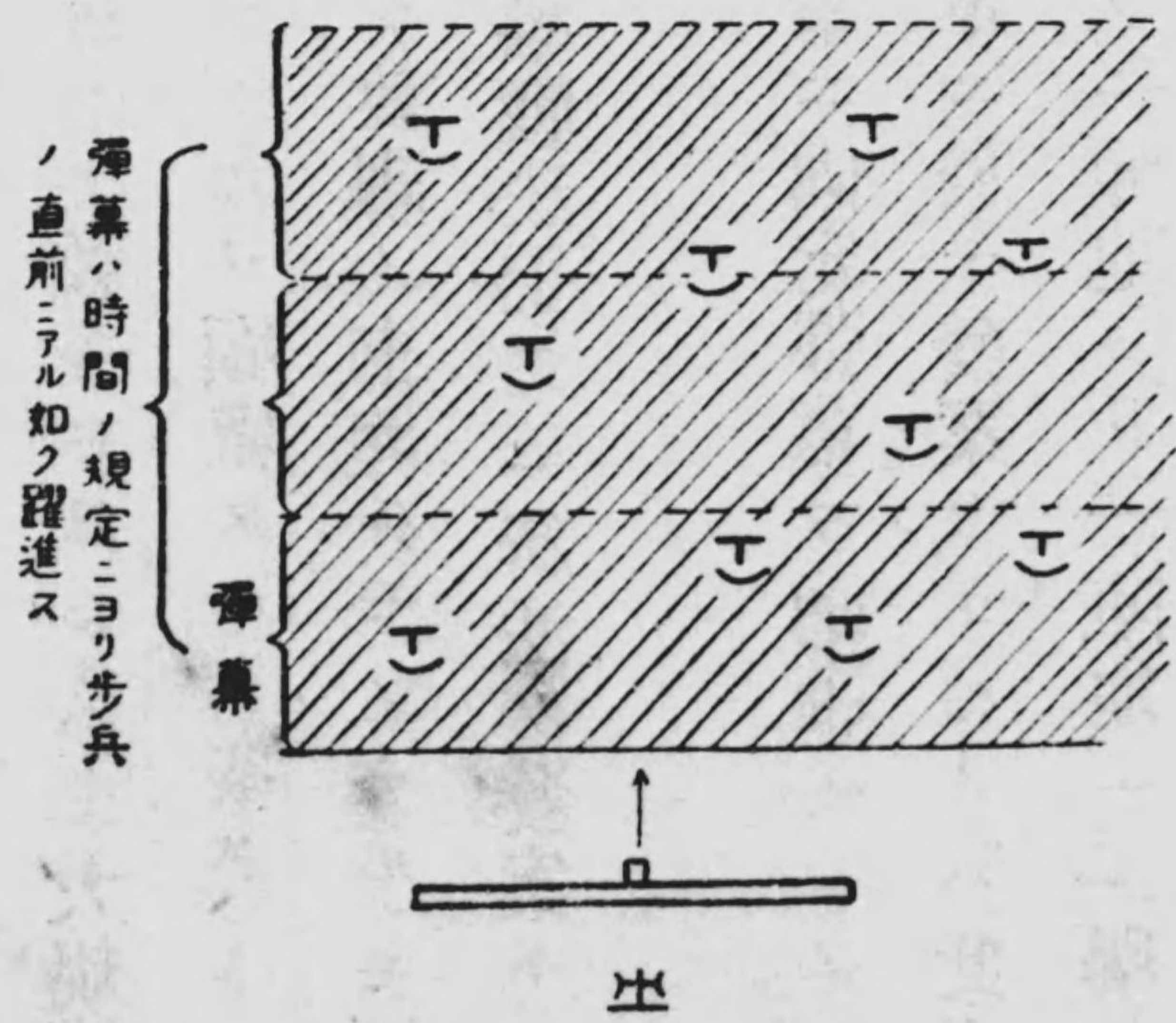
移動彈幕射擊ノ發案

挿圖第八

(A) 獨軍ノ彈幕射擊



(B) 佛軍ノ移動彈幕射擊



斯ノ如ク終始歩兵ノ前方ヲ彈幕ヲ以テ掩ハシムルハ蓋シ防者カ前圖(A)ノ如ク
 整然タル一線上ニアラスシテ頗ル不規ニ位置シ殊ニ每戰其威力ヲ逞ウスル防
 者機關銃ハ(A)ノ如キ固定彈幕射擊ヲ受クル場合ニハ彈幕地帶ヲ放レテ附近
 ニアル砲彈孔内ニ巢ヒ攻者ノ前進ニ際シ不意ニ現出シ至大ナル損害ヲ與フルヲ
 以テナリ即チ防者ノ頑強ニシテ積極的ナル精神力偶々此種對抗手段ヲ取ラシ
 ムルニ至リタルモノナリ而シテ此射彈幕ノ戰法ハ一見怯懦ニ過クル感アルモ
 戰前突擊前ニ行ヒシ砲兵ノ制壓射擊ノ一變形タルニ外ナラサルナリ此方法ハ
 十六年夏季以來最初ハ甚タ小規模ニ行ハレシカ漸次其正面ヲ大ニシテ行フヤ
 益々其價值大ナルヲ認メラルルニ至レリ即チ十六年八月三日「マンヂヤン」將
 軍ノ行ヒシ「ツッオーモン」堡壘ノ奪回攻撃ニ於テハ二千米ノ正面ニ實施シ一
 千八百名ノ捕虜ヲ得、十月二十四日ニハ七吉米ノ正面ニ於テ六千ノ捕虜ヲ、十
 二月十五日ニハ三吉米ノ正面ニテ一萬二千ノ捕虜ヲ得ルニ至レリ此方法ハ獨
 軍カ「ベルダン」會戰初期ニ實施シタル逐次攻撃ノ方法ト異ナリ攻撃ノ經過迅

移動彈幕
 射擊ノ試
 驗的戰例

速ナルノ特徴ヲ有スルハ獨軍俘虜數ノ大ナルニ徴シテモ判斷シ得ヘク攻者歩兵ノ損害モ亦甚タ少シ斯ノ如キハ歩砲連繫カ最モ圓滑ニ行ハレタル場合ニ生スル現象ニシテ此方法ハ正ニ歩砲連繫ノ最モ方式的ナル一新工夫ト謂ハサルヘカラス是ニ於テカ十一月四日巴威里皇太子ハ「ツウオーモン」敗北ノ際ニ所見トシテ述ヘテ曰ク『佛軍ノ攻勢上ニ於ケル新方法ノ原則ヲ知ラサルヘカラス此方法ハ周到ナル準備砲撃ト諸兵種及諸技術手段ノ甚タ親密ナル連絡ニ存ス……………云々』ト此創意ノ如何ニ效果アリシヤヲ知ルヲ得ヘシ從テ從來停頓セシ佛軍戰術界ニ於テハ此新戰法ノ發案ニヨリ茲ニ一活氣ヲ得此方法ハ爾後陣地戰ニ於テ唯一無二ノ良戰法ナリトセラルルニ至リタリ然レトモ對者亦之ニ備フル所アルヘキヲ以テ爾後ノ會戰ニ於テハ佛軍ニ於テ豫期スル如キ大ナル成果ヲ擧ケ得サルノミナラス過度ニ之ニ心醉シタル爲却テ大ナル失敗ヲ招クニ至レリ（之ニ關シテハ後述ス）

以上ノ如ク移動彈幕射撃ノ創意ニヨリ戰前ヨリ殘サレタル歩砲連繫ノ問題ハ

茲ニ一段落ヲ告ケタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ以下是迄ニ至ル歩砲兩兵種間ノ連絡方法ノ變遷ニ就テ述フルノ要アリ

平時演習ノ價值

戰前ニ於テハ獨、佛兩軍共ニ歩、砲兩兵種ノ連絡ニ關シテハ相應ニ研究シ且演練モ亦盡サレタル所ナリ即チ戰前ノ演習ニ於テハ種々ナル信號法或ハ砲兵ヨリ派遣スル連絡者ニヨリ連絡スル方法ヲ採用セリ是等ノ方法ハ諸演習ニ於テハ相當ニ可良ナル成績ヲ擧ケ得タリ是レ演習ニ於テハ對者ノ火器效果ヲ十分ニ想像シ得サリシト當時砲兵ト步兵トハ比較的近距离ナリシニヨル然ルニ大戰勃發スルヤ此演習ノ經驗ハ何等ノ價值ナカリシコトヲ發見スルニ至レリ其原因ノ主ナルモノハ對者ノ火力カ意外ニ大ニシテ此種ノ連絡手段ヲ許サザリシコト是ナリ、即チ平時研究演練セシ如キ電話ニヨル方法ハ電話網敵砲彈ノ爲メニ切斷セララルルヤ所謂「頼ミノ綱切レテ」歩砲ハ各孤立シテ戰鬪スルノ已ムナキニ至レリ是ニ於テ電話線ヲ地下ニ埋没シテ此害ヲ避ケントシタルモ攻撃地區ニ短時間ニ之ヲ地下ニ埋没セントスルコトハ到底不可能ナルコト勿論

ナリ加之友軍砲兵ト歩兵ノ距離ハ戰前ノ豫想ニ反シ甚タ遠隔セル爲メト爆煙塵、煙等ニ遮ラレタル爲メトニヨリ平素規定セル各種ノ視號通信其用ヲナササリキ十五年度ニ行ハレタル「アラス」及「ジャンパーニユ」ノ兩會戰ハ共ニ如上連絡ノ杜絶カ會戰失敗ノ重要ナル一原因ヲナシタルナリ

以上ニ依テ見得ル如ク縱令其方法カ適當ナルモ敵ノ火器ヲ輕視シテナサレタル多クノ研究及演練ハ實戰場裏ニ於テハ價值甚タ少キノミナラス却テ多クノ害ヲ殘スコトアルハ吾人カ大ニ心スヘキコトニ屬ス

而シテ右ノ事實ニヨリ改善セラレタルモノハ先ニ述ヘタル獨軍ノ歩砲連絡法ニシテ此方法ハ電話其他ノ信號ニヨリ兩者ノ連絡ヲ求メントスル從來ノ方法ト異リ時計ニヨリ兩者ノ運動ヲ規正シ間接ニ歩砲ノ連絡ヲ求メントスルニアリ此方式ニヨルモノハ歩砲ノ連繫法トシテ未タ完全ナルモノト認メ難シ何トナレハ此方式ニハ一大缺點アリ即チ歩砲兵殊ニ其運動ヲ機械的ナラシムルコト是ナリ故ニ此方法ノ進化シタル佛軍ノ移動彈幕射擊モ亦同一ノ缺點アルコ

彈幕射擊
ノ缺陷

戰法ノ急
襲

ト勿論ニシテ爾後ノ各會戰ニ於テ此缺陷ノ爲メニ佛軍ハ多クノ損失ヲ受ケ從テ此缺陷ヲ醫センカ爲メ移動彈幕射擊ノ方法モ亦大ニ變遷セリ

兩種彈幕射擊カ斯ノ如キ缺陷アルニモ拘ラス「ベルダン」戰ニ於テハ前述ノ如ク偉功ヲ奏シ得タルハ一ニ對者ニ「戰法ノ急襲」ヲナシタルカ爲メナリ即チ對者ノ豫想外ノ戰法ヲ以テ交戦シタル結果ナリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ戰法ヲ一定ノ型ニ入ルルノ不可ナルト同時ニ實戰ニ於テハ敵ノ戰法ヲ探知シ其利害ヲ闡明シテ適宜對抗手段ヲ未然ニ講スルノ緊要ナルヲ知ラン

第三章 「ソナム」會戰

(自十六年七月一日
至同年十月下旬)

獨軍カ前項ノ如ク「ベルダン」ヲ攻撃セシ末期英佛軍ハ「ソナム」河畔ニ攻勢ヲ取りタリ

此會戰ハ其本來ノ目的タル突破ニ成功セサリシモ戰鬪法上ニ於テ幾多ノ進歩變遷ヲナシタリ其最モ顯著ナルモノハ攻撃ニ於テハ歩兵戰術ノ一革新ヲ促シタルコト、砲兵戰ノ再生シタルコト、航空機ノ大ニ發達シタルコト等ニシテ防

禦ニ於テハ防禦戰法上ノ根本ニ一大變革ヲ促シタルコト等是ナリ以下逐次之ヲ述ヘントス

第一節 會戰前一般ノ情況

協同作戰
ノ困難

聯合國側ノ作戰實施ハ從來個々ニシテ統一ナカリシ爲メ從來ヨリ統制圓滿ナル同盟軍ノ意志ニ左右セラレ常ニ同盟軍ノ瞬速且大膽ナル諸企圖ニ對シ受動的ニ防禦スルノ已ムヲ得サル結果ヲ見タリ之カ爲メ聯合軍側ノ損害大ニシテ同盟軍ヲシテ易々トシテ内線作戰ノ利益ヲ獲得セシメタリ故ニ聯合軍側ニ於テハ其作戰ヲ統一スル必要ヲ感シ十五年十二月初旬「シャンチー」ニ於テ聯合國ノ軍事會議ヲ開設セリ此會議ニ於テモ英露其他ノ諸國ハ各其利害關係ヨリ打算シテ十六年總攻撃ヲ西方戰場以外ノ地區ニ導カンコトヲ主張セシカ「ジヨッフル」ハ主戰場ヲ西方戰場ニ選ビ爾他ノ各方面ハ之ト同時ニ攻勢ヲ開始シ同盟軍ヲシテ之ニ應スルニ困難ナラシムルコト必要ナリト説キ遂ニ英、露兩國ヲシテ此說ニ同意セシメタリ斯ノ如クシテ主要攻勢作戰方面ヲ英、佛兩軍ノ

「ソナム」
戰ノ發端

正面タル「ソナム」附近トシテ攻勢時機ヲ六月ト概定シ聯合國ハ非公式ニ「ジヨッフル」將軍ヲ以テ作戰全體ノ指導者タルヲ認容セリ是レ實ニ十六年ニ於ケル「ソナム」戰ノ發端ナリ而シテ二月十四日英、佛各軍總司令官タル「ヘイグ」及「ジヨッフル」將軍ハ相合シテ「ソナム」會戰ノ具體的方針ヲ定メタリ其方針ノ大要ハ

1. 英、佛共同シテ攻勢作戰ヲ實施スルコト
2. 佛軍ハ「ソナム」ノ兩岸地區ヲ、英軍ハ之ニ連繫シテ其北方地區ヲ前進スルコト
3. 攻撃開始ハ七月一日トスルコト
4. 此以前ニ獨軍攻勢ニ出タル場合ニハ各當該國ノ兵力ヲ以テ攻勢ヲ拒止スルコト但シ獨軍カ露軍ヲ攻撃スル場合ニ於テモ英佛軍ハ豫定ノ如ク「ソナム」ノ地區ニ於テ攻撃ヲ實施スルコト

「ソナム」
攻撃ノ方針

ヲ約セリ (十五年二月十八日「ジヨッフル」ヨリ送リタル書簡)

「フオッシュ」
軍ヲ

「ジヨッフル」將軍ハ右ノ如ク決定スルト共ニ右攻勢作戰ニ於ケル佛軍指揮官ヲ「フオッシュ」將軍ニ任命セリ

斯ノ如キ計畫ニヨリ攻撃準備ハ四箇月前即チ二月ヨリ開始セリ其主ナル作業ハ道路ノ擴張、鐵道ノ敷設、掩蔽部ノ増設等トス(佛軍ハ之ヲ獨軍ヨリ蔭蔽センカ爲メ盛ニ飛行機ヲ使用シ獨軍ノ上空偵察ヲ妨害ス)

斯ノ如ク英佛軍ハ銳意十六年ノ攻勢會戰ヲ準備セントシタル時獨軍ハ「ベルダン」ニ突如攻撃ヲ開始シ爲メニ佛軍總司令官ハ東方戰場其他ノ正面ノ攻勢開始ノ期ヲ早メ獨軍ヲ牽制センコトヲ考ヘ「ベルダン」方面ノ情況判明スルニ至ルヤ三月十二日聯合軍ノ代表者ヲ再ヒ「ジャンチー」ニ集メ伊軍及露軍ニ對シ獨軍ノ牽制攻撃ヲ開始スヘキヲ求ムルト共ニ依然「ソナム」方面ノ攻勢準備ヲ完全ナラシメンコトヲ計畫セリ佛軍カ「ベルダン」參戰部隊ヲ頻繁ニ交代セシメ根本的建制ノ破壊ヲ防止セントシタル所以ハ實ニ茲ニアリ

「ベルダン」戰ノ影響

然レトモ「ベルダン」ノ攻撃ハ甚タ執拗ナリシヲ以テ佛軍ノ攻撃準備ハ至大ノ障碍ヲ感スルニ至レリ即チ「ソナム」會戰ノ爲メニ準備セシ兵力ハ漸次減少シ四月下旬佛軍ハ四十二個師團ヲ「ベルダン」ニ吸收セラレタルヲ以テ「ソナム」會

戰ニ使用セラルヘキ豫定師團ハ四十個師團ヨリ三十個師團ニ減シ六月末ニハ「フォッシユ」將軍ハ二十六師團ヲ有スルニ過キササルニ至レリ是ニ於テ聯合軍ハ「ソナム」攻撃ノ計畫ヲ變更スルノ已ムナキニ至レリ

攻撃計畫ノ一變

即チ最初ノ計畫ハ佛軍ハ主要任務ニ方リ獨軍ヲ突破シ「ソナム」ノ後方ニ於テ決戰ヲ求メ英軍ハ之ニ策應シテ獨軍ヲ南方及西方ヨリ包圍セントスル計畫ナリシカ之ヲ一變シ英、佛兩軍ノ擔任任務ヲ反對ニシ逐次突破ニ導クヘキ方針ニ出ツルノ已ムナキニ至リタリ

附言

陣地戰ト先制權

此現象ハ陣地戰ノ一特徴ナリ陣地戰ニ於テハ幾多ノ諸準備殊ニ砲彈ノ集積ニ多大ノ時日(「ジャンパー」及「ソナム」)ヲ要スルヲ以テ獨軍カ「ベルダン」ニ攻撃セシニ對シ直ニ他正面ニ於ケル獨軍ノ薄弱部ニ對シ大規模ニ攻勢ニ轉スルコト運動戰ノ如ク容易ナラサルヲ知ラン故ニ高等統帥部トシテハ攻撃準備ニ關シ機先ヲ制スルコトニ著意スルコト必要ナリ若シ聯合

軍ニシテ獨軍ト同時ニ攻撃準備ヲ完了シアリタランニハ獨軍ノ「ベルダ
ン」攻撃ニ際シ直ニ「ソナム」方面ニ絶大ノ兵力ヲ以テ攻勢ヲ開始シ獨軍ヲ
西方戰場ヨリ驅逐スルコトモ亦難カラサリシニアラスヤト想像セララル

第二節 「ソナム」戰ニ於ケル獨軍(附圖第六及第七參照)

「ベルダン」戰間「ファルケンハイン」ハ「ソナム」方面ニ於ケル聯合軍ノ攻勢ヲ
終始顧慮セリ之カ爲メ「ベルダン」攻撃間ニ於テ「ソナム」方面ニハ常ニ數個ノ
機動師團ヲ配置セリ然レトモ佛軍カ「ベルダン」參戰師團ヲ終始交代セシメア
リシヲ以テ佛軍豫備師團ハ「ベルダン」ニ於テ殆ト消滅セシモノト判斷セシモ
ノノ如ク又「キッチナー」ノ編成セシ師團ハ續々西方戰場ニ現レタルモ英軍ニ
對シテハ其價値ヲ疑ヒタルモノノ如ク「辛ウシテ組織セル不完全ニ準備サレ
十分ナル幹部及經驗將校ヲ有セサル英軍カ來ルナランニハ堅固ナル築城ニ隱
レテ之ヲ待テハ足レリ」ト輕視セリ

抑、獨軍カ聯合軍ノ攻勢ヲ察知セシハ十六年二月頃ナリシカ以上ノ如キ判斷

ノ爲メ五月ニ至ル迄佛軍ノ英軍ニ協力スルヲ豫期セサリキ六月初旬ニ至リ攻
勢ノ徵候ハ益々顯著トナリ殊ニ「ソナム」河北ニ佛第二十軍團アルヲ知ルヤ佛
軍モ此攻勢ニ參加スヘキ確信ヲ得ルニ至レリト云フ(佛第二十軍團ハ團結鞏固ニシテ
攻撃兵團トシテ有名ナル兵團ナ
ルヲ以テ以上ノ判
斷ヲナシタルナリ)

獨軍ノ配 備 「ソナム」被攻撃正面ニアリシハ獨第二軍(司令官「フォンベロー」)ニシテ「ソナム」河北方

諸陣地ハ五個師團ヨリナル一個軍團、同河南方ハ四個師團、ヨリナル軍團アリ
近ク其後方ニ三個師團ノ豫備隊アリタリ第二軍司令官ハ「ソナム」會戰ヲ豫期
シ増援ヲ要求セシモ砲兵飛行機ノ増加ハ之ヲ許サレサリキ故ニ「ソナム」附近
ノ攻撃地區ニ當ル獨軍陣地ヲ攻撃直前ニ方リ後退セシムヘシトノ提議アリシ
カ此移動ハ鞏固ナル陣地ヲ棄テ堅固ノ度劣レル陣地ニ後退スルモノナルヲ以
テ一時決戰ヲ遷延スルノ外大ナル利益ナシトナシ「ソナム」附近ノ現陣地ニ於
テ防守スルニ決セリ

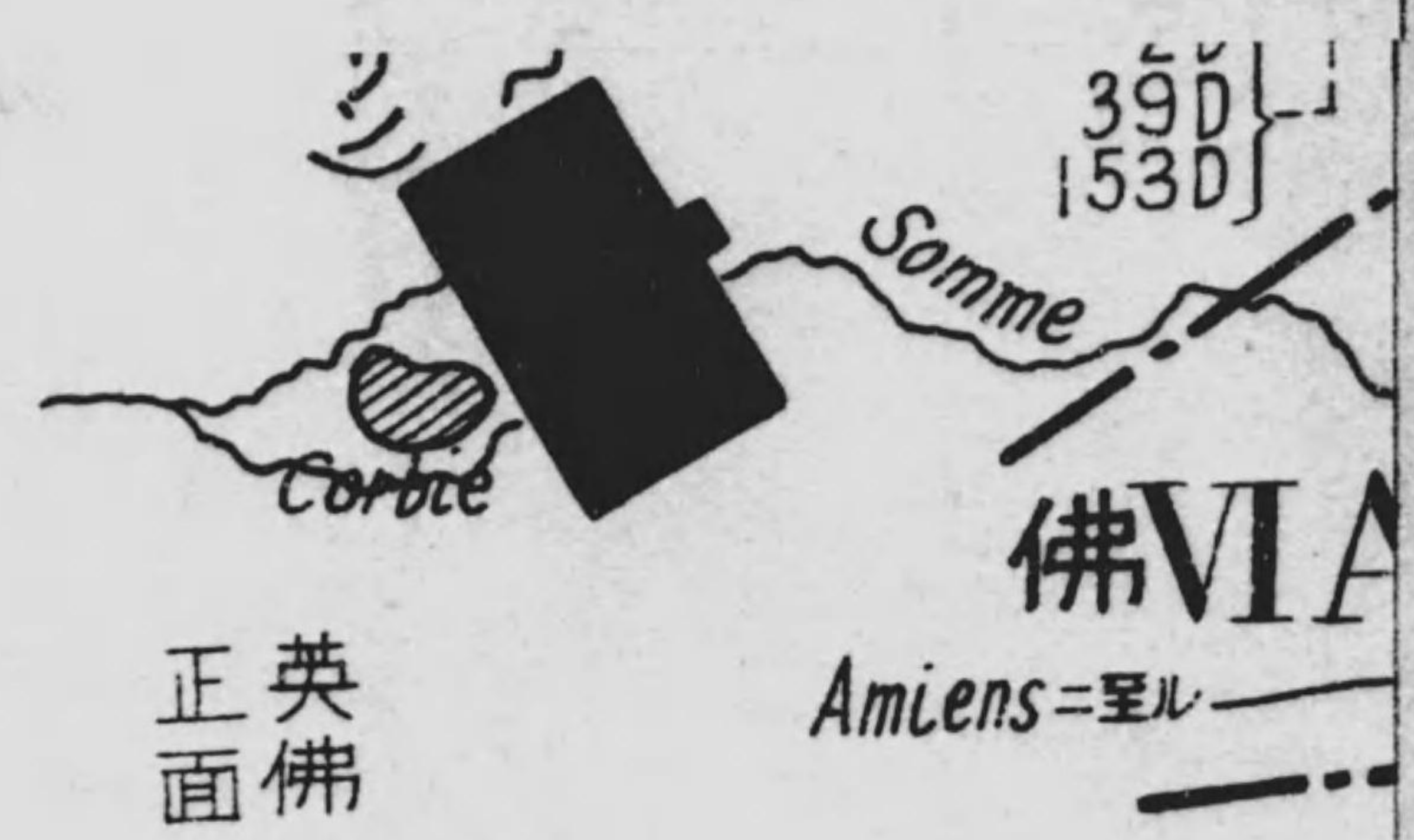
防禦陣地 獨軍防禦陣地ノ編成法ニ關シテハ前篇ニ述ヘタル所ノ原則ト何等異ルコトナ

シ即チ附圖第七ニ示ス如ク（附圖ハ英軍ノ攻撃セシ正面ニシテ「フリクジュール」ノ突角附近ヲ示ス此突角ハ「ソナム」河ト「アングル」河ノ分水界ヲナセル地區ニシテ獨軍ノ最モ堅固ニ設備セシ地區ナリ英佛軍ノ主攻撃軸ハ「フリクジュール」ノ西北方ニ吉米ニアル二條實線道路ニ沿フモノトセラレタルヲ以テ此地區ハ概シテ主攻撃ノ地區ニ當ル）第一陣地ハ三乃至五線ノ塹壕線ヨリナリ第二陣地ハ二乃至三線ヨリナル、第二陣地ハ最前線ヨリ三乃至五吉米ニアリテ第三陣地ハ「フレル」（圖ノ東）附近ニアリ第一陣地ト第二陣地トノ中間ニハ中間陣地アリ砲兵ノ主力ハ此中間陣地附近ニ重砲ハ第二陣地ノ後方ニアリ

本圖ニ現レアル如ク第一、第二陣地ハ共ニ連續陣地ニシテ塹壕網ノ濃淡カ十五年九月ノ「シャンパーニュ」ニ於ケル陣地（附圖第三）ノ如ク明瞭ナラサルコトハ注意スヘキ現象トス是レ攻者ノ火力ヲ分散セシメントスルニアルコト勿論ナリ

防禦戰闘方式

又此陣地編成ニ於テ發見シ得ル所ノモノハ最前線ト支援陣地トノ間ニハ交通壕甚タ多ク後方ニ至ルニ從ヒ交通壕ノ數甚タ少キコト是ナリ斯ノ如ク交通壕ノ數カ前方ニ濃密ニシテ塹壕線又前方ニ至ルニ從ヒ多キハ當時獨軍カ第一陣地帶特ニ第一陣地ノ第一線附近ニ於テ主ナル抵抗ヲナサンコトヲ企圖セシカ

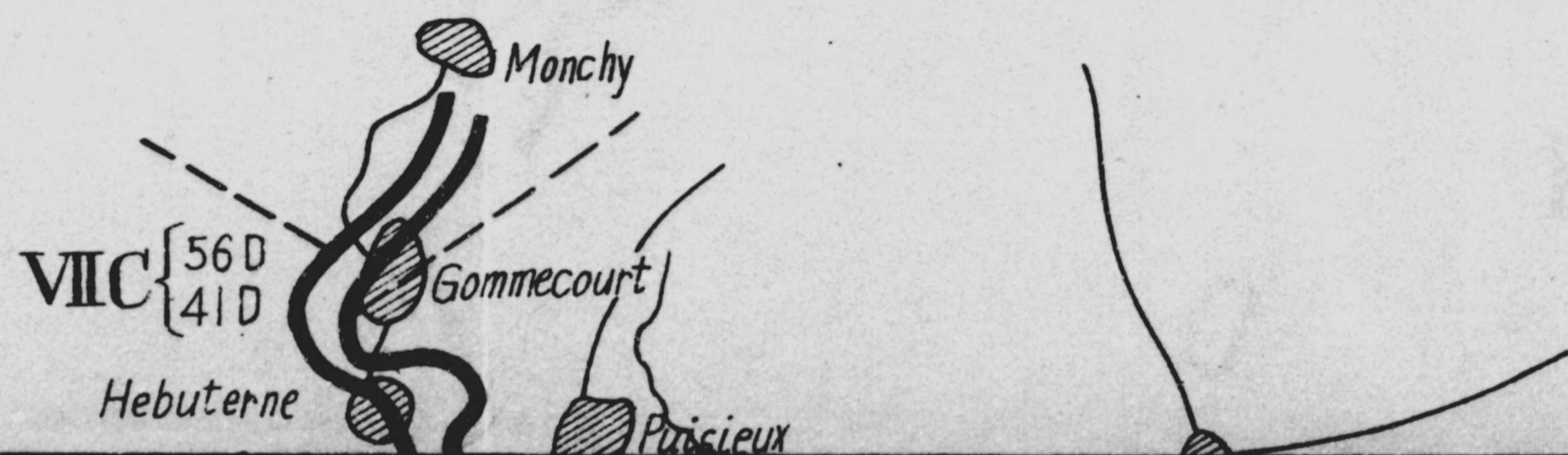


- 備考 { Lassignyハ Chauln
Arrasハ Monchy
- 註記 { G-----近衛
Col-----植民部
B-----巴威里

英佛兩軍共其騎兵ノ主力ヲ當攻撃正面ノ後方地區ニ集結シツツアリ

SOMME 方面英佛獨軍位置要圖

(七月一日朝總攻撃開始時=於ケル)



附圖第六



英IV A

(司令官サーヘンリー・ローリンソン)

英豫備軍

正英
面佛
ノ両
後軍
方共
地其
區騎
ニ兵
集ノ
結主
シ力
ツヲ
ツ當
アリ攻撃

備考 { LassignyハChaulnes / 南方二十五吉米ニ在リ
ArrasハMonchy / 東北十五吉米ニ在リ

註記 { G----- 近衛
Col----- 植民部隊
B----- 巴威里

地圖地陣軍獨區



爲メナリ即チ防者ハ第一線ノ前端ニテ敵ヲ拒止スルヲ主義トシ數線ニアル陣地ハ萬一ヲ顧慮セル豫備的陣地ナリ故ニ第一線ノ一部突破セラルルヤ防者ハ之ヲ回復スル爲メ注入ニ次クニ注入ヲ以テシ之ヲ保持センコトヲ計リシヲ以テ守者ハ多大ノ損害ヲ蒙レリ之カ爲メ「ソナム」戰後獨逸兵學界ニ於テ此方式ニ就キ多大ノ非難起レリ然レトモ第一陣地ニテ抵抗スル主義ハ當時迄ノ一般的常則トシテ疑ハサリシ所ナリ佛軍モ「ベルダン」ニ於テ第一陣地ニノミ特意ヲ注キテ構築シ且此處ニ兵力ノ大部分ヲ備ヘ獨軍ノ砲撃ニヨリ至大ナル損害ヲ受ケタルコト前述ノ如シ以上ノ如キ關係ニヨリ主抵抗戰ヲ依然第一線陣地ニ於テナスヘキヤ否ヤノ問題ヲ生シ其結果防禦戰法ニ一大變革ヲナシタルコト後章ニ述フルカ如シ以下稍々細部ニ互リ防禦ノ要領ヲ述ヘントス

各散兵壕及交通壕ノ前面約五十米ニハ深サ十乃至二十米ノ鐵條網ヲ以テ掩ヒ杭ハ殆ト全部鐵杭ナリ其陣地占領法ハ一中隊(銃數百五十乃至二百)約三百乃至五百米ヲ擔任シ其交代ハ聯隊又ハ大隊每ニ行フ守備兵力ハ晝間ハ少ク夜間ハ兵力

細部ノ防禦配備

ヲ増加スルヲ通常トセリ

野砲兵ハ通常第一陣地帯ノ後方ニアリテ攻者砲兵ノ破壊ヲ避ケンカ爲メ甚シク分散且遮蔽シ攻者ノ砲撃ニ應射スルコト稀ナリ然レトモ攻者歩兵カ突撃ヲ開始スルヤ一齊ニ立チテ阻塞射撃ヲ實施シ突撃部隊ヲ彈幕ヲ以テ掩ヒ其突撃ヲ挫折セシムルコト從前ノ如シ又第一線ノ後方ニハ軍、方面軍ノ豫備隊甚タ稀ニシテ某軍團ノ如キ僅ニ歩兵一個聯隊ノ豫備ヲ有シタルニ過キス故ニ増援部隊トシテハ靜穩正面ヨリ抽出シタルモノヲ以テ充ツルヲ通常トセリ而シテ周密ニ發達セル横方向ノ鐵道網ハ比較的短時日内ニ兵力ヲ轉送スルヲ得被脅威正面ニ充テ得タリ〔移送所要時間ハ屢々四十八時間内ナルコトアリ通常ノ場合ニ於テハ五十六時間如何ナル場合ニモ八十時間ヲ超エス〕英軍第一軍ノ調査以上述ヘタル如ク獨軍陣地ハ平行壕ヨリナリ其防禦ノ主義ハ第一線ヲ極力保持セントスルモノナリ故ニ其若干部分ヲ失フモ徹頭徹尾第一線散兵壕ヲ固守シ得ル如クス即チ如何ナル部分ニ破口ヲ生スルモ直ニ『囊』ヲ成形シ此『囊』ハ第一線陣地ノ側防火、交通壕上ニアル火線ヨリスル縱射及第二線ノ陣地ヨリスル直射ニ

逆襲

ヨリ包圍火ヲ施シ之ト殆ト同時ニ後方ニ控置セシ部隊ヲ以テ逆襲ヲ行ヒ突破セラレシ地點ヲ閉塞スル如ク編成セラレアルモノナリ

獨軍カ防禦戰鬪ニ於テ逆襲ヲ以テ最モ適當ナル歩兵ノ戰鬪手段トナセシコトニ就テハ前篇ニ之ヲ述ヘタリ佛軍亦「ベルダン」ニ於テ之ヲ模倣シタルモ十四年末及十五年ニ於テ獨軍カ行ヒタル如キ大ナル成功ヲ齎ササリキ（後述佛軍砲兵ノ砲兵破壊射撃ノ項參照）是レ佛軍カ逆襲ノ戰鬪法ニ慣熟セサリシコト其一原因ナランモ其主ナルモノハ他ニアリ故ニ以下逆襲ノ變遷ニ關スル若干ノ觀察ヲ試ミントス

線狀配置ト逆襲

十四年末逆襲大ニ奏功シ且其價值モ亦大ナリシハ攻、防兩者共ニ歩兵カ稀薄ナル線狀ノ隊形ヲ以テ戰鬪セシカ故ナリ是ニ於テ防者ノ危機ハ其單一線ナル防禦陣地一部ノ瓦解ニアリタルカ爲防者ハ最後ノ手段トシテ逆襲スルヲ要シタルナリ而シテ此逆襲ハ小部隊ヲ以テシテモ容易ニ成功セリ是レ攻者モ亦線狀ノ隊形ナリシヲ以テナリ唯此際防者トシテハ其奏功ノ要件トシテ即時ニ逆襲ヲ實施スルヲ要シタリ何トナレハ防禦一部ノ瓦解ハ迅速ニ全線ニ傳播シ破

口ハ擴大シ遂ニ小部隊ヲ以テ成功ヲ期シ難キニ至ルヲ以テナリ又逆襲部隊ハ少時ノ準備射撃ヲナシタル後突撃シテ能ク成功シ得タリ是レ攻者ハ防禦陣地ニ進入スル際ハ濃密ナル隊形トナリアリシヲ以テナリ

平行陣地
ト逆襲

然ルニ攻者カ漸次大規模ニ突破ヲ企圖スルヤ小部隊ノ逆襲ヲ以テシテハ成功ヲ期シ難ク防者砲兵モ逆襲實施前ニ射撃ヲ加フルヲ要スルニ至リタリ從テ逆襲ノ實施ハ從來ノ如ク單簡ナル能ハサルノミナラス防者カ數線ノ平行壕ヲ設ケテ突破ヲ制限セントスルニ至ルヤ逆襲ハ尙益々必要ニシテ實施愈々迅速ナルコトヲ緊要トスル傾向ヲ示セリ是レ攻者ハ突破セシ塹壕ニ其地步ヲ占メ之ヲ掩護物ニ利用シ逐次左右ニ侵蝕スルヲ以テナリ是ニ於テ必要トナリシハ各交通壕ニ火線ヲ設クル著意ナリ即チ防者ハ一部分ノ突破ヲ受ケタル場合平行壕ト斜行セル交通壕ニヨリ『囊』ヲ形成シ此『囊』ノ周圍ヨリ侵入セシ敵ニ集中火ヲ施サントスルニアリ殊ニ攻者カ急速ニ突進ヲ敢行セントスルカ如キ時ニ於テハ一層容易ニ其目的ヲ達スルヲ得タリ「シャンパーニュ」秋季戰ノ如

逆襲ノ困難

キハ即チ其適例ナリ然ルニ攻者砲兵カ步兵ノ前面ニ火幕ヲ作りテ掩護シ且歩砲ノ連繫甚タ確實ニシテ步兵ハ「シャンパーニュ」秋季戰ノ如ク輕々ニ前進スルコトナケレハ前述ノ如ク逆襲ヲ容易ニ敢行シ得サルコト勿論ナリ「ベルダン」ニ於ケル佛軍カ逆襲ノ成績良好ナラサリシ所以ノモノ亦實ニ茲ニアリ「ソナム」ニ於ケル獨軍ノ陣地ハ一箇ノ陣地ヲ極力保持スル主義ナルコト前述ノ如ク攻者步兵ノ攻撃法亦前述ノ如ク「シャンパーニュ」時代ヨリ甚シク慎重トナレルヲ以テ逆襲ノ實施ハ甚タ困難トナレルコト「ベルダン」ニ於ケル佛軍ノ如シ從テ逆襲戰法ニ又一段ノ變遷ヲ促セリ此件ニ就テハ更ニ後述スル所アラントス

歩兵兵力
ノ配備要領

七月一日ニ於ケル獨軍ノ歩兵兵力配備ノ要領ハ第一陣地及中間陣地ニ第一線聯隊ヲ配置シ各中隊ハ小隊ヲ縱長ニ配置シ第一及第二線散兵壕ヲ時トシテ第三線散兵壕ヲモ占領シ大隊豫備ハ第三線散兵壕ヲ、聯隊ノ豫備ハ中間陣地ニ配置スルヲ通常トセリ

第三節 攻勢會戰法ノ根本方針

佛軍ハ曩ニ實施シタル「ジャンパーニユ」秋季戰ノ結果ニ鑑ミ數日間ノ準備砲撃ヲ以テスル攻撃法即チ強襲戰法ニヨル主義ヲ確立スルニ至リタルカ其結論ヲ得タル數箇月後ニ於テ「ベルダン」戰惹起シ前述ノ如キ急襲的攻撃ヲ受ケタリ

岐路ニ立
チタル佛
軍

而シテ其急襲的成果ハ前述ノ如ク又甚大ナリシヲ以テ佛軍トシテハ再ヒ急襲主義ト強襲主義トノ岐路ニ立タシメラルルニ至レリ然レトモ聯合軍ハ獨軍ノ急襲戰法ニ倣ヒテ其攻撃ノ根本方針ヲ換フルコトナク却テ益々從來ノ強襲主義ヲ濃厚ナラシムルニ至リ爾後二年間此方針ニヨリ直進セリ以上ノ如ク佛軍カ反對ニ強襲主義ニ偏シタル所以ノ原因ヲ研究スルハ本研究上必要ナルコト勿論ニシテ吾人ニ戰爭ニ於ケル苦シキ印象カ如何ニ諸般ノ方針施設ニ影響ヲ及ホスモノナルカヲ知ラシムルニ足ルモノアリ

佛軍將卒カ「ベルダン」ニ於テ最モ痛切ニ感シタルコトハ其受ケタル急襲的成

愈々強襲
的トナリ
タル所以

果ノ大ナルコトヨリモ猛烈ナル獨軍ノ砲撃ヨリ受ケタル感想ナリトス（佛軍將校

ニシテ當時參戰シタルモノハ口ヲ揃ヘテ獨軍砲撃ノ猛烈ナリシコト言語ニ絶シ眞ニ地獄ナリシコトヲ言ハサルモノナカリキ）其結果佛軍統帥部ハ熾盛ナ

ル砲撃ハ斯ノ如ク敵ニ至大ナル精神的影響ヲ與フルモノナルヲ以テ攻勢會戰ニハ特ニ猛烈ニ砲兵火ヲ發揚シテ精神上ニ於テ敵ニ打擊ヲ與フルト共ニ一方ニ於テハ斯ノ如ク威力ヲ發揚スル敵ノ砲兵ヲ撲滅スルニアラサレハ突破ハ成功セストノ觀念ヲ強クシ強襲主義ノ信念ヲ却テ益々鞏固ニセリ

而シテ急襲主義ニ關シ惟ヘラク「ベルダン」ニ於テ獨軍カ急襲的攻撃ヲ實施シ得タルハ是レ地形ノ關係ニヨル特別ノ場合ナリト即チ曰ク「ベルダン」附近ハ蔭蔽地多ク砲兵ノ準備ヲ陰匿シ得ルモ他ノ地方ニアリテハ攻撃準備ノ爲メニスル砲兵ノ大準備ヲ祕スルコト不可能（「ベルダン」會戰ノ教訓並防禦戰ニ就テノ「教令」十六年四月五日佛軍總司令部發布）ナルヲ以テ敵ニ察知セラルルコトナク急襲ヲ行ハントスル主義ハ一般的ニ成立セス斯ノ如キ野戰的方法ハ「既往ノ經驗ニヨリ既ニ不可ナルコト明瞭ナリ何トナレハ砲兵ニヨリ破壊ノ實效現ハレタル部分ニハ歩兵ノ進撃容易ニ兵員ノ損害

モ亦寡少ナリ砲兵ノ破壊射撃及ハサルカ爲メニ一度敵ニ阻止セラレル時ハ其後如何ニ盡カスルモ大損害ヲ以テ不成功ニ終ル故ニ徹底的ニ且精密射撃ヲ以テ確實ニ敵陣地ヲ破壊シテ歩兵ノ前進ニ無碍ナラシメサルヘカラス」之カ爲メニハ「ジャンパーニ」戰ニ於テ結論ヲ得タル如ク強襲主義殊ニ「完全無缺ノ法」ニ依リ作戰ヲ指導セサルヘカラス又敵ノ「防禦力中最重ナル部分ヲ爲スハ敵砲兵」(十六年四月二十日北方軍集團長ノ祕密教令)ナリ故ニ砲兵ハ之ヲ破壊セサルヘカラス即チ砲兵戰ハ敢行スルヲ要ストノ結論ニ到達セリ

然ルニ砲兵ノ撲滅射撃ハ甚タ困難ニシテ「之ヲ破壊スルニハ長時日」ヲ要ス(敵砲兵ノ破壊ニ關シテハ後述ス)ルカ故ニ攻撃準備射撃ニ長時日ヲ要スルハ已ムヲ得サル所ナリト教示シ強襲主義ハ愈益徹底的トナリタリ

以上ハ「ソナム」戰ニ對スル佛軍ノ攻撃戰法ノ根本的大方針ニシテ獨軍カ急襲主義ナルニ反シ佛軍ハ益々強襲主義ニ偏シ交戦兩軍茲ニ各々異ル方針ニヨリ進ムニ至レリ佛軍ノ攻撃準備砲撃日數カ前會議ヨリ益々多クナリシ原因即チ

茲ニアリ

藥ノ利キ
過キ

聯合軍ハ以上ノ如キ方針ニヨリ「ソナム」戰ヲ實施セシカ其攻撃準備射撃ハ甚タ慎重ニ過キタルノミナラス攻撃實行方法ニ於テモ亦甚タ慎重ニ過キ極端ナル逐次攻撃法ヲ取ルニ至レリ之カ爲メ「ソナム」戰後佛人ハ之ヲ評シテ曰ク「藥カ利キ過キタリ」ト蓋シ斯ノ如ク「藥カ利キ過キタル」所以ノモノハ佛軍カ先ニ「ジャンパーニ」秋季戰ニ於テ歩兵ヲ「遮ニ無ニ」前進セシメ失敗ノ最大原因ヲ作リタルニ鑑ミタルカ爲メナルコト勿論ナリ然レトモ秋季戰後ニ於ケル佛軍總司令部ノ教令(述既)ニアル如ク「ジャンパーニ」戰終局後考定セラレタル攻撃進捗ノ方針ハ全然逐次攻撃ニヨル方法ニアラスシテ一舉突破法ト逐次攻撃法ノ中間案ナリシナリ

然ルニ四月二十日ノ「フォッシユ」將軍ノ「攻撃會戰法」ナル祕密教令ニヨル新攻撃法ハ全然逐次攻撃法ニ其形ヲ換ヘタリ是レ「ベルダン」ニ於ケル獨軍ノ攻撃法ノ影響ヲ受ケタルト「フォッシユ」將軍其人ノ性質ニ依リタルモノト思ハ

徹底的ナル
逐次攻撃

ル同教令ニヨレハ

『會戰間局部戦闘ノ有利ナルニ乗シ一部ノ輕進、度外ノ進行ヲ放任スルコトハ得策ナラス孤立部隊ノ敵陣地内ヘノ突進ハ突出部ヲ作り敵歩砲兵ノ集中協力ヲ容易ナラシメテ其維持ヲ難クシ遂ニハ攻撃正面中ニ攻撃力衰弱ノ部ヲ生スルコトトナル

之ニ反シ歩兵ハ砲兵ノ破壊セシ地帯全部ヲ悉ク奪取シ一舉ノ努力ニ依リ主要地點ノ守備歩兵殊ニ砲兵ヲ強奪セサルヘカラス換言スレハ攻略スヘキ地區内ニアルモノハ總テ之ヲ盡スヲ要ス』ト

以上ノ如ク「ソナム」戰ニ於ケル會戰法ハ其攻撃スヘキ目標ヲ限定シ砲兵ハ此目標迄ハ完全ニ破壊シ歩兵ハ砲兵ノ破壊セシ部分ノミ攻略シ逐次斯ノ如クシテ全陣地ヲ崩壊セシメントスルモノナリ

攻撃戰法
ノ變遷

之ヲ要スルニ佛軍ハ最初「ジャンパーニユ」冬季戰ニ於テ逐次攻撃ヲ實施セシカ漸次一舉突破ノ主義ニ變シ十五年度ニ於テハ「アラス」ニ於テ一舉突破ノ方

法ヲ實施シ其結果トシテ豫備隊ノ跟隨ヲ絶對要件トシ「遮ニ無ニ」敵ヲ攻撃スル方法ヲ以テ「ジャンパーニユ」ニ望ミシカ是レ亦不成功ノ原因トナリシヲ知ルヤ一舉突破戰法ト逐次攻撃ノ中間案ヲ採用スルコトトナリタリ

然ルニ「ベルダン」ニ於テ獨軍ノ攻撃ヲ受ケタル後ニ於テハ遂ニ再ヒ純然タル逐次攻撃法「ジャンパーニユ」冬季戰ノ逐次攻撃法ニ少シク形ヲ變ヘタルニ還元セシナリ

會戰ノ永
續

而シテ逐次攻撃ニヨリ突破ノ目的ヲ達成センカ爲メニハ漸次來援スル守者増加部隊ヲ擊破スルノ覺悟アルコト必要ニシテ會戰ハ勢ヒ永續ス是ニ於テ統帥部ハ會戰ノ永續スルコトヲ豫期シ終始衰フルコトナキ威力ヲ以テ連續攻撃ヲ指導スルノ必要ナルヲ認メ教令中ニ左ノ如ク述フル所アリタリ

『一度眞面目ニ開始セラレタル此種會戰ハ永續スル所ノ作戰トナルハ當然ナリ而シテ此作戰ノ指導ハ順序正シク且完全無缺ノ法ニヨリ指導進捗セシムヘク其行動ハ敵ヲ志氣上將又體力上ノ瓦解ニヨリ敵ノ抵抗力ヲ潰滅スル迄連續

強行セサルヘカラス』ト述ヘ「敵ノ諸設備ノ破壊ニ獨特ノ力アル砲兵ノ用途」ノ大ニ増大セルコトヲ教ヘ攻撃時期ノ區分ヲ砲彈ノ到達距離ヲ以テ奪取スヘキ目標線ト爲ス即チ一陣地毎ニ攻撃時期ヲ區分スルコトニ定メタリ

逐次攻撃
ニヨル突
破戦ノ利
害

之ヲ要スルニ「ソナム」戰ニ於ケル根本的攻撃目的ハ素ヨリ敵陣地ノ突破ニア
ルモ其方法ノ根本要義ハ砲兵力ヲ徹底的ニ利用シテ攻撃ヲ指導セントスル
モノナリ即チ攻撃準備砲撃ニ就テモ十分ノ時日ト彈量ヲ使用シ攻撃開始後ト
雖亦砲兵力ニ信賴シ所謂「砲兵ハ略奪シ歩兵ハ占領スル」主義ヲ最モ適確ニ
實施セントスルニアリ而シテ斯ノ如ク砲兵力ニ過度ニ信賴スル時ハ急襲的
成果ハ全然求メ難キノミナラス英佛軍カ實際行ヒシ如ク其攻撃ノ進捗遅々タ
ルヘキヲ以テ防者ノ戰術的缺陷ニ乘シテ突破ヲ完成セントスルニアラスシ
テ寧ロ防禦ノ諸要素ノ破壊即チ消耗ニヨリ敵ノ氣力ヲ挫折シ以テ突破ノ目的
ヲ達成セントスルニアリ從テ從來ノモノト其方法ニ於テ著シキ差異アルヲ
認ム即チ從來ノ突破作戰ノ一般要領ハ敵線中ノ一部ニ破綻ヲ生セシメ次テ敵

ヲシテ此破綻口ヲ閉塞スルノ違ナカラシメ遂ニ已ムナク陣地全般ヲ放棄セシ
メントスルヲ本旨トス換言セハ此方法ハ防者ノ戰術的對應策ニ打勝タントス
ルヲ本旨トス然ルニ「ソナム」戰ニ於テハ斯ノ如キ防者ノ戰術的對應策ニ打勝
タンコトヨリモ寧ロ防者ノ有形無形の抵抗力ヲ消耗セシメテ敵ヲシテ其抵抗
觀念ヲ放棄セシメ以テ之ヲ突破ニ導カントスルモノナリ故ニ「ソナム」戰ニ於
ケル突破作戰ノ要領ヲ一言ニシテ掩ヘハ突破ノ目的ヲ達成センカ爲メ消耗戰
ノ方法ヲ以テセントスルニ外ナラサルナリ

突破戦
ト
消耗戦

右ノ方法ハ一見正當ナルカ如キモ更ニ之ヲ慎重ニ考察スル時ニハ茲ニ一ノ矛
盾アルヲ發見ス
抑モ突破戦ハ長大ナル戦線中ノ一局部ヲ突破スルコトヲ意味ス故ニ「ソナム」
戰ノ如ク一局部ヲ攻撃シテ其局部ニ於テ防禦諸力ヲ所望ノ程度ニ消耗セシメ
防者ノ抵抗意志ヲ放棄セシメンカ爲メニハ爾他ノ正面―突破正面以外ノ大部
分―ノ兵力ヲ抑留スルニアラサレハ非常ナル長時日ト絶大ノ兵力ヲ要スルハ自

明ノ理ナリ故ニ某時日間ニ於テ此方針ニヨリ突破ヲ完成センカ爲メニハ爾他ノ正面ノ兵力ヲ抑留スルハ絕對要件トス否ラサレハ爾他正面ニアル兵力ハ逐次被突破口ニ集中シ對應策ヲ講スルニ反シ攻者ハ窮屈ナル突破口内ニテ戰闘スルヲ要シ其行動ハ漸次困難ヲ加ヘ消耗ノ目的ヲ達スルコト不可能ナルニ至レハナリ故ニ「ソナム」戰ノ如キ方法ヲ以テ突破ノ目的ヲ達成セントスルニ方リテハ某時日間爾他正面ノ兵力ヲ抑留スルニアラサレハ望ムヘキニアラサルナリ而シテ爾他正面ノ兵力ヲ某時日間抑留スル爲メニハ其正面ノ攻者亦各々攻撃ヲ實施スルニアラサレハ此目的ヲ達成シ難シ換言セハ此目的ヲ達成センカ爲メニハ全正面ヲ攻撃スルニ於テ始メテ可能ナリ斯ノ如クハ攻者カ一局部ヲ絶大ノ兵力ヲ以テ突破セントスルノ本旨ヲ没却スルニ至ルヘシ之ヲ要スルニ制限アル時日間ニ於テ『突破戰』ト『消耗戰』トノ要求ヲ兩立セシムルハ理論上不可能ナルコトヲ發見シ得ヘシ是レ前述ノ如ク根本主義ニ矛盾アリト指摘シタル所以ニシテ實ニ「ソナム」戰ニ於ケル會戰法ノ根本的缺陷茲ニ存ス

而シテ此矛盾ヲ調和シ英佛軍カ其本來ノ目的ヲ達センカ爲メニハ攻撃實施中何レカノ時機ニ於テ決戰的成果ヲ發揚スルノ著意ヲ緊要トス何トナレハ全然消耗戰ヲ以テ突破ヲ完成センカ爲メニハ非常ナル長時日ヲ要シ而モ此間攻撃ノ手ヲ緩ムルコトナカラシムルヲ要スレハナリ而シテ某時機ニ於テ決戰的成果ヲ發揚スルニヨリ消耗セシ敵ノ弱點ニ乘シ突破ノ目的ヲ完成ス「ソナム」戰ノ會戰指導ニ於テ此點ニ關スル著意薄カリシヲ第二ノ缺陷ト稱スルヲ得ヘシ

第四節 攻擊戰法

第一款 敵砲兵ノ破壞ニ就テ

陣地戰開始以來最モ困難トセシ所ハ敵砲兵ノ破壞ニシテ突破不成功ノ原因ノ一ツ亦茲ニアリタリ

而シテ砲戰ニ關シテハ陣地戰初期ヨリ若干ノ變遷アリ故ニ以下之ニ關シ述フル所アラントス

陣地戰初期ニ於テハ砲兵ハ遮蔽不完全ニシテ而モ火光、爆煙、運動等ニヨリ對

砲兵戰ノ變遷

者ノ望見ヲ許シタルヲ以テ相應ノ損害ヲ與ヘ得タリ即チ砲兵ハ稜線ノ後方ニ三百米ニ僅ニ遮蔽シテ位置セルカ故ニ對者砲兵ノ集中射撃ニヨリ制壓セラレタリ

次テ砲兵ハ其安全ヲ顧慮シ漸次稜線ヲ遠サカルニ至リシヲ以テ對者ハ直接觀測シ得サルニ至リ殊ニ砲兵カ穹窿内ニ入ルヤ砲兵撲滅射撃ハ兩軍トモ困難トナルニ至レリ是ニ於テ獨軍ハ十五年頃ヨリ砲兵戰ヲ要求スル傾向少クナレリ而シテ「ベルダン」戰ニ於テハ獨軍ハ大口徑砲ヲ以テ敵砲兵ノ撲滅ヲ期シタルコト勿論ナルモ其效果ハ依然甚タ少カリキ

今其一例ヲ舉クレハ左ノ如シ(我從軍武官ノ報告)

十六年五月及六月ノ兩月ニ於ケル「ベルダン」方面ニ對スル獨軍攻撃ノ結果ヲ檢スルニ晝夜殆ト間斷ナキ砲撃ヲ行ヒ連續熱烈ナル歩兵ノ攻撃ヲ指向セリ其著シキモノヲ算スレハ其攻撃回數(時刻及地區ヲ異ニスルモノハ各一回トス)ニ箇月間ニ於テ百三十回ニ達ス此内苦戰ノ後全部若クハ大部ニ於テ獨軍攻撃ノ奏效シタ

ルモノ九回、全部若クハ大部ニ於テ攻撃不成功ニ終リシモノ實二百二十一回トス此不成功ノ場合ヲ佛軍應戰手段ニ從ヒ分類スレハ左ノ如シ

- 佛軍砲兵火ニ依リ不成功ニ終リシモノ 四一回
- 同 砲兵ノ阻塞射撃ニ依リ 一八回
- 同 砲兵ノ阻塞射撃、機關銃小銃火ニヨリ 三二回
- 同 機關銃、小銃、手榴彈ニ依リ 一七回
- 同 手榴彈、銃劍格闘ニ依リ 一回
- 同 銃劍格闘ニ依リ 一回
- 同 逆襲ニ依リ 一回

即チ右ノ如ク大部分ハ佛軍砲兵及機關銃ノ火力ニヨリ獨軍攻撃ヲ支阻シ得タルモノト看做スヲ得ヘシ

飛行機ノ發達ト砲兵 然ルニ十五年末ヨリ漸次飛行機ノ發達スルニ至リ上述ノ條件ヲ一變セリ即チ空中寫眞ハ對者砲兵陣地ヲ明示シ無線電信ノ使用ハ某程度ノ射撃修正ヲ行ヒ

得シムルニ至レリ然レトモ當時ニ於テ砲兵ト飛行機トノ連絡未タ十分ナラス
飛行機ハ軍ニ敵砲兵ヲ破壊セシヤ否ヤヲ告知シ得ルニ止マリ綿密ナル射撃修
正ハ未タ飛行機ニ要求スルコト困難ナリキ然ルニ「ベルダン」戰ニ於テ上述ノ
如ク大集中砲兵ノ砲火ニ見エタル佛軍ハ「結局敵砲ヲ撲滅スルニアラサレハ
勝利ヲ得難シ」トノ觀念ヲ生シ之カ必然ノ結果トシテ飛行機ノ發達ヲ促進シ
遂ニ總テ戰鬪ノ前提トシテ砲兵戰ヲ行フ舊戰法ヲ再生スルニ至レリ

即チ北方軍集團司令官「フオッシュ」將軍ノ「攻勢會戰法」ニ述ヘテ曰ク

「當初ニ於ケル砲兵戰鬪ノ結果ハ軍ニ敵ノ第一陣地攻撃ノ成否ニ關ルスノミナ
ラス尙攻勢會戰全般ノ發展ニモ影響ス」又攻撃準備ノ目的ハ敵陣地破壊ト敵
砲兵ノ撲滅ニアリト爲シ「砲兵ハ敵防禦力ノ最重要部ヲナス」ヲ以テ之ヲ破壊
スルハ緊要ナリト結論セリ之カ爲メニ曩ニ獨軍カ「ベルダン」戰ニ於テ大威力
砲兵ヲ用ヒタルカ爲メニ佛軍ハ苦痛ヲ嘗メシニ鑑ミ佛軍ニ於テモ大口徑砲ヲ増
設シ(三百)之ヲ軍ニ附シ軍團砲兵ト共ニ敵ノ砲兵ヲ撲滅スルニ使用セリ(英軍モ亦同様)

リナ

又敵砲兵ヲ撲滅スルニハ其所在ヲ知ルヲ第一要義ト爲シ先ニ述ヘシ情報勤務
ヲ組織的ナラシムルト共ニ空中觀測殊ニ飛行機觀測ニ大ナル期待ヲ爲セリ是レ
地上觀測ハ多クハ敵砲兵ニ對スル射撃觀測ニ適セス繫留氣球觀測ハ寧ろ概定射
撃觀測及一般監視ニ適當ニシテ遠距離ニ對スル精密射撃ニ適セサルヲ以テナ
リ

「ソナム」
戰ニ於ケル
飛行機

「ソナム」戰ニ於テハ右ノ如キ關係ヨリ飛行機大ニ賞用セラレ其成果モ亦大ナ
リキ

即チ第一日ニ獨軍繫留氣球十五個ヲ破壊シ續テ敵ノ優勢ト操縦術、空中射撃術
ノ優秀ナル技能ヲ以テ敵飛行機ヲ撃破シ先ツ空中觀測ノ自由ヲ獲得シ次テ莫
大ナル彈量ヲ以テ敵砲兵ノ破壊射撃ヲ實施シ其效果モ亦大ナリキ
左記ハ「ソナム」戰ニ於テ戰鬪セシ獨軍砲兵一大隊長ノ談話(獨逸通信員ノ通信ニヨル)ニシ
テ砲兵破壊射撃カ「ソナム」戰ニ於テ如何ニ面目ヲ一新セシカヲ窺フニ足ル

「我火炮ハ敵彈ノ命中若クハ砲身ノ膨脹ニヨリ逐次使用シ得サルニ至レリ而シテ各中隊ノ發射シタル彈數ハ攻撃ヲ受ケタル當初二千乃至三千發ニ達シタリ其情況左ノ如シ

第一中隊ハ村落ニ近ク接シテ遮蔽陣地ヲ占領セリ此中隊力敵ノ縱隊ニ向ヒ墻壁射撃ヲ開始スルヤ已ニ二門ノ砲身ハ膨脹シ使用シ得サルニ至リ又第四砲車ハ全彈命中シテ破壊セラレ後引續キ第三砲車モ亦全彈ノ命中ニ依リ破壊セラル是ニ於テ此中隊ノ射撃地區ハ之ヲ他ノ中隊ニ擔任セシメタリ第二中隊ハ午前二時三十分ヨリ十時三十分迄ノ間敵ノ重砲三中隊ヨリ約千二百五十發ノ射撃ヲ蒙リ各火炮ハ悉ク破壊セラレタリ

第三中隊ハ此時既ニ三門ヲ破壊セラレ一門ノ火炮ヲ有シタリシモ此一門ヲ以テ墻壁射撃ヲ施行セリ

第四中隊ハ朝來激シキ瓦斯攻撃ヲ受ケタルニ拘ラス墻壁射撃ヲ行ヒタリシカ忽チ中隊二門ノ砲車ハ破壊セラレ使用シ難キニ至リ次テ亦他ノ二門

破損セルモ尙射撃ヲ續行シ夕刻其使用スル彈藥ヲ射盡シタル後爆破ニヨリ砲身ヲ全部膨脹セシメテ之ヲ放棄セリト

然レトモ右ハ單ニ前會戰ニ比シ敵砲兵撲滅ノ成績比較的良好トナリタル例ニ過キスシテ砲兵撲滅ノ問題ハ全然解決シタルニアラサルナリ

第二款 佛軍砲兵ノ戰鬪區分

佛軍ハ「ジャンパーニユ」會戰後「同一地區内ニ行動ヲ要スル諸團隊ノ全部ヲ一指揮官ノ下ニ置クヲ緊要トス」ルコト、「一師團ノ攻撃地區内ニアル全砲兵ハ其師團固有ノモノト第二線師團ニ屬スルモノトヲ問ハス悉ク統一指揮ノ下ニ使用セラル」ヘキニ原則ヲ確立セルコト前篇ノ末尾ニ述ヘタルカ如シ

「ソナム」戰ニ參加セル軍團ハ三乃至四個師團ヨリ成リ四個師團ヨリ成ル軍團ハ第一線ニ二個師團ヲ出セリ故ニ第一線ニアル一個師團ノ地區内ニハ會戰初期ニ於テスラ既ニ二個師團分ノ砲兵及軍團砲兵ノ一部アリ加之「第一線師團ノ歩兵ト第二線師團ノ歩兵ト交代スルコトアルモ砲兵ハ交代スルコトナキ」ヲ

一師團地
區内ノ砲
兵數

以テ師團ノ交代頻繁トナルヤ一個師團地區内ノ砲兵ハ遂ニ夥シキ數ニ上ルハシ現ニ某師團ノ如キハ二百門ノ砲兵ヲ指揮セリト云フ

砲兵ノ指揮系統ノ利害

斯ノ如キ多數ノ砲兵ハ軍團ニ於テ統一指揮スヘキヤ師團ニ於テ統一指揮スヘキヤハ必然ニ起ル問題ニシテ前述「ベルダン」戰ノ如ク一砲兵大佐カ數個聯隊ヲ指揮シ軍團砲兵司令官タル將官カ數個大隊ヲ指揮スルカ如キ奇觀ナカラシメサルヘカラス

砲兵ヲシテ側射、斜射ヲ擅ニセシメ(佛軍ハ側射ハ正面射ニ比シ四倍乃至五倍ノ效力アルヲ發見セリ)其效力ヲ大ナラシメンカ爲メニハ大範圍即チ軍團ニ於テ統一指揮スルヲ有利トス然レトモ歩

砲兵兩種ノ連繫ヲ圓滑ナラシムル爲メニハ之ヲ師團ニ附スルヲ利益トス

砲兵ヲ配屬スルニ方リ右ノ如キ利害アルヲ以テ佛軍北方軍集團司令官「フオツシユ」將軍ハ教令ヲ以テ敵砲兵ヲ破壊スヘキ砲戰砲兵ハ有利ニ側射、斜射ヲ爲シ且情報勤務ノ統一ニ便ナラシムル爲メ軍團長ノ直轄トセリ

攻撃ト側射砲兵

而シテ陣地破壊砲兵ハ陣地ノ破壊ト爾後ノ步兵攻撃ニ密接ナル連繫ヲ有セシ

メンカ爲メ之ヲ師團長ノ隷下ニ入ラシム而シテ步兵ノ突撃ニ際シ側方師團ヨリ斜射、側射ヲ以テ步兵ノ前進ヲ援助セントスルハ一見有利ナルカ如キモ此方法ハ縱深アル陣地ヲ攻撃スルニ方リ攻撃歩兵ト密接ナル連繫ヲ保持スル所以ニアラサルニ著意シ教令ニ於テハ特ニ「歩兵力突撃ニ轉スルトキヨリ砲兵射撃ハ師團ノ攻撃地區毎ニ嚴ニ劃然區分スヘク他地區ヨリスル斜射、側射等ハ明白ニ禁ス」ト戒シム

陣地破壊砲兵トハ野砲(鐵條網ノ破壊ヲ主任務トス)ヲ主力トシ之ニ中口径榴彈砲(十二珊、十五珊、二十珊、二十二珊)

塹壕砲(五珊、八珊、十五珊、二十珊)及大威力ノ臼砲(二十七珊及之レ以上)ヲ加ヘタルモノナリ是等多

數且種類ノ異ル砲兵ノ統一指揮ハ容易ナラス且師團ハ逐次交代スルヲ以テ是等砲兵ヲ指揮スル師團攻撃地區砲兵指揮官ハ其地區内ニ於テ戰鬪スルコトヲ豫期セラルル砲兵聯隊長中適任ナル一砲兵聯隊長ヲ充テ之ヲ其地區ニ固定シテ砲兵ノ統一指揮ニ任セシメタリ

而シテ砲戰ハ主トシテ重砲ノ任スル所ニシテ是等砲兵ノ指揮官ハ軍團砲兵司

第三款 歩砲ノ協同

「ベルダン」戦ノ末期歩砲ノ協同動作上一進歩ヲ見タルコト前述ノ如キモ「ソム」戦ノ初期ニ於テハ未タ之ヲ利用スルノ域ニ發達シアラスシテ過渡期ニ屬セリ故ニ以下歩砲協同戦法上ノ一變換期ニアル「ソム」戦ニ於テ實施セシ要領ヲ單簡ニ説述セントス

歩砲ノ協同方法ノ沿革

「ジャンパー」ニユ會戰ニ於テハ佛軍ハ其攻撃歩兵ヲ支援スル砲兵ハ歩兵ノ請求ニヨリ二百或ハ四百米宛射程ヲ延伸セシカ同會戰ニ於テハ曩ニ述ヘタル如ク歩兵ト砲兵トノ通信連絡杜絶シ攻撃失敗ノ一原因ヲ爲シタルヲ以テ歩兵ノ請求ニヨリ砲火幕ノ躍進ヲ計ル方法ヲ廢シ歩兵ハ墻壁砲火ノ進行ニ伴ヒ前進スル方法ヲ採用セリ「ソム」戦ニ於ケル砲兵ト歩兵トノ連絡法ハ右ノ主義即チ砲兵火ハ歩兵ヲ誘導スル方法ヲ實施シ歩砲兩者間ノ連絡ヲ保持セントセリ

「ソム」戦ニ於ケル方法

此方法ハ「ベルダン」會戰中發案セラレシ移動射撃幕ニアラサルコト勿論ニシテ獨軍カ「ベルダン」戦ニ於テ用ヒシ方法即チ某地點ニ對スル固定彈幕射撃ヲ逐次移轉スル方法ナリキ即チ「砲兵ノ一部ハ攻撃部隊ノ發進スルヤ豫メ定メラレアル所ニ從ヒ第一線陣地ノ後方及第二線陣地上ニ射撃ヲ繼續ス即チ我歩兵ノ攻撃ヲ監視シツツ適時射程ヲ延長スルモノトス」ト（十五年一月十六日佛軍總司令部ノ教令）「フオッシュ」將軍ハ更ニ之ヲ敷衍シテ曰ク

「攻撃ハ又障壁射撃ニヨリ支援セラル即チ之ニ依リテ敵ノ行動地區ヲ制限スルノミナラス其後方部隊ノ運動ヲ妨害ス墻壁射撃ハ戰場内明確ナル若干線上ニ實施セラルヘシ例ヘハ第一、第二陣地間ノ中間陣地、村落森林ノ外縁道路……………等竝敵ノ第二陣地上是ナリ」（十六年四月二十日北方軍集團長「フオッシュ」ノ教令）

即チ砲兵ハ歩兵ノ情況ヲ監察シ適時其火幕ヲ次ノ豫定線ニ延伸シ歩兵ハ此掩護ニヨリ前進スル方法ニ依レリ砲兵ハ之カ爲メ右ノ各種目標ニ對シ「豫メ試射ヲ完了シ置キ」第一線ヲ射撃セシ砲兵ハ「歩兵ノ突撃開始ト共ニ次ノ線上

ニ射撃目標ヲ變換シ』逐次斯ノ如クシテ歩兵力必要ニヨリ火箭ヲ以テ射撃ノ續行ヲ要求セサル限り砲兵ノ連絡將校ノ報告ニ基キ射撃幕ヲ進メ歩兵ハ之ニ跟隨スルナリ

砲兵ノ連絡者前遣

附言

砲兵力第一線ニ連絡者ヲ出ス習慣ノ生シタルハ「ベルダン」戰ヲ始メトスルカ如シ此連絡者ヲ派遣セシコトハ歩砲連繫上甚大ナル效果アリシト云フ而シテ右ハ單ニ射撃ヲ適當ナラシムル爲メニ效果アリシノミナラス之ニヨリテ開戰以來生セシ兩兵種間ノ精神的疎隔ヲ著シク減少シ兩者間ノ誤解ヲ少カラシメタリ蓋シ「ジャンパーニユ」戰迄ハ歩兵ハ砲兵ノ損害少キヲ知レル爲メト砲兵ノ援助十分ナラサル爲メトニヨリ砲兵ハ無能ニシテ卑怯ナリト云ヒ砲兵ハ又斯ノ如ク援助セルニ拘ラス其目的ヲ達セサルハ歩兵力無能ナル故ナリト考ヘ兩兵種間ノ精神的脈絡ハ常ニ疎隔セリト云フ然ルニ砲兵力第一線塹壕ニ其連絡者ヲ出シタルカ爲メ兩兵種間ニ生

シタル溝渠ハ漸次除カルルニ至リ歩砲ノ連繫ハ甚タ圓滑ニ進捗スルニ至レリト云フ

第四款 歩兵小部隊ノ戰術

歩兵戰術變遷ノ經路

「ソナム」戰ハ歩兵戰術ニ於ケル一變換期ヲ形成セリ其直接ノ原因ハ佛軍力輕機關銃ヲ歩兵火力ノ主體ト爲セシニ存シ之カ爲メ遂ニ歩兵戰術ハ根本的ニ革新セララルノ機運ニ際會スルニ至レリ今茲ニ戰前ノ原則及「ソナム」戰迄ノ歩兵戰術ノ變化ヲ述ヘテ變遷ノ經路ヲ探ネントス

戰前ノ原則ノ由來

戰前ニ於ケル歩兵射撃戰術ハ『歩兵ノ最有效距離ハ中距離ニシテ其以内ニ於テハ效力却テ漸減スル』方則ヲ基礎トシテ成立セリ

此方則ハ歩兵力敵ニ接近スル時ハ精神的躲避漸次増加スヘシト云フ露土戰爭ノ教訓ヨリ生シタルモノナリ中距離即チ七、八百米ニテ射撃ノ效力ヲ發揚セントスルカ爲メニハ個人射撃ノ方法ニ依ル時ハ目測距離、照尺等一致シ難キヲ以テ集束彈道ニヨリ射彈ヲ目標ニ導クヲ可ナリトシ歩兵射撃ハ部隊射撃ヲ本則ト

セリ而シテ其一變形トシテ一齊射撃ノ方法ヲ用フル軍隊生マルルニ至レリ蓋シ步兵中隊長ノ一號令ニヨリ射撃ノ集散ヲ適當ナラシメントスルニアリ日露戰爭ハ右兩者ノ主義(日軍ハ前者露軍ハ後者)ニヨリ教育セラレタル步兵ノ戰鬪ヲ實現シタルモノニシテ大戰ニ於ケル獨佛兩軍步兵モ亦日露兩軍ト同様ノ差異ヲ以テ戰爭ヲ開始セリ(獨軍ハ日本式佛軍ハ露國式)

大戰當初

大戰ノ開始セララルヤ右原則ハ第一ニ其不可ナルコトヲ看破セラレタリ即チ步兵ノ最モ有效ニ活動スヘキ時機ハ戰前ノ原則ノ如ク敵前七、八百米ニアラスシテ實ニ敵前二、三百米トナレリ何トナレハ日露戰爭當時ニ比シ兩軍トモ砲兵ノ數ハ著シク増加セルノミナラス砲兵技術亦進歩セルヲ以テ歩兵力敵前三百米内外ニ至ル迄ハ砲兵主トシテ戰鬪ニ任スルヲ有利トシ且砲兵ハ歩兵ヲ超過シテ射撃ヲ爲シ得レハナリ從テ歩兵トシテハ戰前ノ如ク七、八百米ニ於テ最大ノ射撃效力ヲ發揮セシムル必要ナキノミナラス斯ノ如クセハ敵砲兵ヨリ損害ヲ受クルコト多キヲ以テナリ而シテ歩兵力眞ニ其獨特ノ戰鬪力ヲ發揮スヘキ

ハ砲兵力超過射撃ヲ以テ射撃シ得サル距離即チ三百米以内ナラサルヘカラス而シテ一方ニ於テハ對者ノ歩兵ハ地物及工事ヲ利用シ攻者歩兵力近接セサレハ其身體ヲ表ハササランコトヲ努ムルカ故ニ射撃效力ハ中距離ニ於テハ平時演習ノ如ク表ハレスシテ近距離ニ於テ其效力ヲ表ハシ得ルコトモ亦判明セリ從テ中距離ニ於テ效力ヲ發揚セシメントスル部隊射撃ノ原則ハ何レノ理論ヲ以テスルモ成立シ難キニ至レリ殊ニ陣地戰トナルニ於テ右ノ傾向ハ益々甚シク最早中隊ヲ以テスル部隊射撃ハ特別ノ場合トナリ漸次射撃單位ヲ低下スルヲ要スルノミナラス寧コ個人射撃ヲ採用スルヲ要スルニ至レリ殊ニ接戰ノ多クナルニ至ルヤ其傾向ハ極端トナリ步兵唯一ノ兵器ハ手榴彈ナリト稱セラレ小銃射撃ハ第二位的トナレリスノ如キ極端ナル變遷ハ陣地戰中ニ於ケル某一時期ノ特種現象ナルモ而モ之ヲ以テ集團的ニ射撃威力ヲ發揚セントスル方法ハ既ニ業ニ過去ノ遺物トナリシハ明ニ立證シ得ラルヘシ射撃單位ニ於テ

射撃單位
ノ低下突擊單位
ノ變遷

以上ノ變化ヲ見タルト同様ニ突擊單位ニ於テモ亦漸次低下セリ即チ十四年

末ニ於テハ既ニ突撃ハ步兵半小隊ノ一群ヲ以テ實施セララルルノ傾向ヲ呈セリ（歐洲戰爭叢書特號第一）
「陣地戰」一三頁參照

然レトモ右ハ小ナル鐵條網ノ破墻口ヲ通過セントスル必要ニヨリ迫ラレタルモノナルヲ以テ（十五年四月十日）已ムヲ得サル處置ナリト考ヘ未タ突撃單位ヲ低下スルニ至ラザリキ而シテ爾後ノ教令ニ於テハ明確ニ突撃單位ヲ低下スヘキコトヲ規定シタルモノヲ發見セサルモ實際ノ情況ニヨレハ突撃單位ハ漸次低下シツツアリタリ

突撃隊形

又防禦陣地カ初期一線ナリシト同様攻撃步兵ノ突撃隊形モ最初ハ濃密ニシテ一線ナリキ而シテ獨軍カ數線ノ陣地ヲ占領スルニ至リタルニ拘ラス十五年四月十六日ノ佛軍教令ニヨレハ一舉ニ敵線ヲ突破スルコトヲ夢ミ依然中隊ヲ濃密ナル一線ノ散兵ト爲スコトヲ規定セリ佛軍カ十五年九月「シャンパーニュ」戰ニ於テ大ナル損害ヲ受ケ部隊混亂ニ陥レルハ其一原因茲ニモ亦存シタルナリ故ニ佛軍ハ「シャンパーニュ」會戰後戰鬪隊形疎開ノ必要上ヨリ中隊ヲ二波

以上ノ縱長區分ニ配備スルコトヲ認ムルニ至レリ（十六年一月十日）獨軍ニ於テ濃

密ナル一線ノ散開隊形ヲ認メサルニ至リシハ佛軍ヨリモ早ク十五年四月十四

日ノ獨第三軍ノ策定セシ攻撃要領（歐洲戰爭叢書特號第一）ニヨレハ第一線中隊ハ

四乃至六層ノ波狀ヲ成形スルヲ可トスルコトヲ述ヘ「ベルダン」ニ於テハ三波

以上ノ突撃部隊ヲ以テ突進シ突撃單位ハ半小隊又ハ小隊ニ低下セリ

以上ノ如ク大戰以來步兵ハ射撃、突撃共ニ其指揮ノ單位ハ中隊ヨリ小隊又ハ其

以下ニ變化シ一方隊形又濃密ニシテ縱長區分少キモノヨリ漸次疎開シ縱長ヲ

大ナラシムルヲ要スルニ至リタリ

斯ノ如ク變化セシ所以ノモノハ複雜ナル塹壕内ノ戰鬪ニ方リテハ中隊ノ如キ大ナル部隊ハ適切ナル運用指揮困難ナルト對者ノ砲兵火力カ増大セシ結果ナリ而シテ十六年ニ至ルヤ右ノ趨勢ハ益々明瞭ニ表ハレ佛軍ニ於テモ明ニ戰鬪單位ヲ低下スルコトヲ認ムルコトトナレリ其直接ノ動機トナリシモノハ步兵ノ分業化特ニ輕機關銃採用其原因タリ

指揮單位
ノ低下ノ
傾向

步兵ノ分業化

獨、佛兩軍共ニ陣地戰開始以來步兵兵器トシテ最モ重要視サレタルモノハ手榴彈ナリ然レトモ手榴彈ハ到達距離短小ナルヲ以テ之ヲ遠距離ニ到達セシムル爲メ對陣間獨、佛兩軍歩兵ハ戰鬪閑散時ニ於テ各種ノ投擲具ヲ發明セリ其一トシテ生レタルモノハ擲彈銃ナリ然ルニ佛軍ニ於テハ之ヲ以テ足レリトセス平射ノ武器トシテ小銃ニ優ルモノヲ必要ナリトシ十六年ニ至リ更ニ輕機關銃ヲ採用シ歩兵ヲ裝備スルニ至レリ是ニ於テ從來銃ト銃劍ヲ唯一ノ武器トセシ歩兵ハ遂ニ四種ノ武器ヲ以テ裝備セララルルニ至レリ今其景況ヲ表示スレハ左ノ如シ

武器名

開戰當初

十六年

銃劍附著小銃	殆ント全員携帶ス	一個中隊ニ <small>小銃分隊八個計百〇八名</small>
手榴彈	ナシ	一個中隊ニ擲彈兵三十二人
擲彈銃	ナシ	一個中隊ニ擲彈銃十六
輕機關銃	ナシ	一個中隊ニ八

重機關銃
三七耗加農

四個中隊ニ二銃
ナシ

三個中隊ニ八銃
各大隊 二門

附言

三七耗加農ハ現今ノ我國ニテ使用スル平射歩兵砲ト同様ノ目的ニテ造ラレシモノナリ陣地戰開始以來獨軍機關銃ノ爲メニ苦痛ヲ嘗メタル佛軍ハ小口徑火砲ヲ以テ之ヲ破壞スル必要ヲ感シ十五年九月戰ニハ海軍砲ヲ改造シタルモノヲ使用セシモ其運動性少キト遮蔽困難ナル爲メ賞用セラレサリシヲ以テ新ニ此砲ヲ採用スルニ至レルナリ

而シテ右各種新兵器中最モ重要ナルモノトナリシハ輕機關銃ナリ而シテ此銃竝多數ノ重機關銃ノ採用ニヨリ歩兵戰術ハ根本的革新ヲ促シタリ其第一回ノ試驗トナリシハ則チ本「ソナム」會戰トス

輕機關銃ノ採用

抑モ輕機關銃ノ使用ハ「ソナム」戰ニ始マリシニアラスシテ日露戰爭ニ於テ露軍力之ヲ使用シタルヲ嚆矢トスルモ眞ニ其必要ヲ悟リ大ニ利用シタルハ「ソナム」

ム「戰トス（歐洲戰場ニ於テ使用セシハ此以前ナルモ大規模ニ用ヒタルハ本會戰ヲ以テ嚆矢トス）是レ佛軍ハ特ニ人口少キ關係上人員ノ消耗ハ戰爭ノ勝敗ニ重大ナル關係アリ加之對者砲兵ノ損害ヲ避クル爲メニ前述ノ如ク歩兵ヲ疎開スルヲ要シタリ故ニ少キ人員ヲ以テ大ナル能率ヲ發揚スルノ要求ハ戰爭ノ永續スルニ及ヒ漸次大トナリタリ現ニ重機關銃力兩軍ニ於テ漸次増大セシハ正ニ此結果ナリ然ルニ重機關銃ハ重量過大ナルヲ以テ防禦ノ際ハ過重ノ不利ヲ蒙ルコト少キモ攻撃ニ於テハ少カラサル不便アリ是ニ於テ當然起ルヘキ問題ハ輕量ナル機關銃ノ採用トス而シテ此意味ニ於テ輕機關銃ハ生レタルモ未タ十分之ヲ賞用スルニ至ラザリキ然ルニ十六年ニ至リ始メテ佛軍ニ於テ採用セラルルニ至リシハ理由ナカルヘカラス抑モ從來輕機關銃ノ賞用セラレザリシ原因ハ彈藥ヲ浪費スルコトノ虞アリシト中距離以上ニ於ケル射擊精度不十分ナリシニ存ス然ルニ前述ノ如ク歩兵火器ノ效力ヲ發揚スヘキ距離ハ戰前ニ考ヘアリシ如ク中距離以上ナラスシテ近距離ナルヘキコト竝彈藥ノ浪費モ亦從テ問題トナラサルコトヲ發見セラルルニ至リシノ

ミナラス成ルヘク人員ヲ少クセントスル要求又漸次増大セシヲ以テ輕機關銃ハ漸クニシテ其價值ヲ認メラルルニ至リタルナリ獨、佛兩軍ハ開戰以來各種々ノ兵器ヲ案出シ其進歩相等シキニ拘ラス輕機關銃力攻撃軍タル佛軍ニ於テ初メテ大ニ利用セラルルニ至リタルハ右ノ關係ニヨル斯ノ如クシテ佛軍ハ十六年二月十三日「輕機關銃ノ用法ニ關スル教令」ヲ發布シ其使用ヲ指示シ且歩兵一中隊ニ八銃ノ輕機關銃ヲ配屬セリ

輕機關銃
初期ノ使
用法

然レトモ輕機關銃力現今ノ如ク戰鬪群ノ中心兵器トナリタルハ「ソナム」會戰間ニシテ前記二月十三日ノ教令ニ於テハ輕機關銃ノ使用法ヲ重機關銃ノ使用法ニ準據セリ即チ輕機關銃ハ突擊ニ任スル第一波及斬壕ノ掃蕩ニ任スル第二波ニ附スルコトナク第三、第四波ニ附シ（若シ中隊カ二線ノ波トナル時ニハ第二線ニアル中隊内ニ編入ス）第一波停止スルニ至ルヤ奪取陣地確保ノ爲メニ第一線ニ進出シテ支點ヲ形成シ攻撃部隊再ヒ前進ヲ起スニ方リテハ其前方地區ヲ火制シ其前進ヲ掩護スル等歩兵中隊ニ對スル重機關銃ノ關係ト同シ以上ノ如ク歩兵中隊内ニ小銃以外ノ火器ヲ

小隊ハ基本單位

加ヘタルカ爲メ從來步兵中隊長ノ一號令ニヨリ機械的ニ戰鬪スルモノト看做サレタル步兵小部隊ハ茲ニ其戰鬪法ヲ異ニスルヲ要スルニ至レリ即チ佛軍歩兵小隊ハ前述ノ動機ト相異ナル原因―歩兵ノ分業化―ニヨリ射撃、突撃共ニ明ニ一基本單位タルヲ認ムルニ至レリ即チ佛軍ハ十六年一月八日『小部隊ノ攻撃戰鬪ニ關スル注意書』ヲ發布シ小部隊ヲ以テ突撃單位ナルト共ニ増援單位ナルコトヲ認メ且本注意書ヲ以テ小部隊ノ演練ニ特ニ意ヲ注キ教育スヘキヲ要求セリ是ニ於テ戰鬪單位ヲ中隊トシ中隊以下ノ部隊ハ單ニ機械的ニ使用スルヲ本則トセシ因襲的戰法ハ陣地戰ナル特種現象ニヨリ改變ノ兆ヲ現シアリタルカ一度輕機關銃ノ採用セラルルヤ現實的ニ其必要ヲ促シ步兵小部隊ノ戰鬪的價值漸次増大シ遂ニ戰鬪群戰法ナル新原則ヲ生ムノ動機ヲナスニ至レリ獨軍ニ於テモ『ソナム』戰後步兵小隊以下ノ戰鬪的價值ノ大ナルヲ認メ輕機關銃ノ採用ト共ニ步兵戰術ハ茲ニ一新傾向ヲ呈シ兩軍歩兵ノ戰術ハ爾後此新傾向ニヨリ併行シテ發達セリ

第五節 第二陣地ノ攻撃

「ソナム」戰ハ「ジャンパー」ニ「ユ」戰ト異リ英佛軍ハ第二陣地ヲモ突破シ得タリ即チ英佛軍トシテハ第二陣地突破ニ成功セシ最初ノ會戰ニシテ爾後ノ攻勢會戰ノ爲良好ナル標準ヲ提供セリ加之獨軍ノ第二陣地ハ附圖第七ニアル如ク第一陣地ニ比シ甚タ單簡ニシテ實際ニ於テハ守兵ノ配備モ亦少カリシヲ以テ本會戰ハ主ナル守兵力第一陣地ニアル場合ニ於テ之ヲ突破シタル戰例ノ最後ノモノニシテ一方又獨軍カ如何ニ之ヲ防禦シタルヤニ關シ多クノ教訓アリ故ニ以下佛軍ノ第二陣地攻撃ノ爲メ採リタル方法ニ就テ若干ノ研究ヲ爲サントス「フオッシュ」將軍ハ「ジャンパー」ニ「ユ」會戰ノ成績ニ鑑ミ第二陣地攻撃ニ關シ詳細ナル指示ヲ爲セリ其主義ハ徹底的ナル逐次攻撃ニシテ大戰間ニ於テ最モ慎重ナル攻撃法ノ戰例タリ其要旨左ノ如シ

軍團及師團ノ任務
軍團又ハ獨立師團ヲ重疊スル時ハ之カ交代ノ爲メ第二陣地攻撃開始ニ長時日ノ死節時ヲ生スルヲ「ジャンパー」ニ「ユ」以テ軍團ニハ累次重疊セル陣地ヲ突破スヘ

攻撃ノ制限

キ任務ヲ與ヘ其軍團内ノ師團ハ一陣地攻略毎ニ交代セシムルコトト爲シタリ但シ軍團内ノ全砲兵ハ全陣地ヲ通シテ攻撃準備及攻撃實行ニ當ラシム而シテ第一線師團力所望ノ如ク第一陣地ヲ攻略スルニアラサレハ第二陣地ヲ攻撃セシメス其儘第二陣地ノ突撃距離迄接近シ『若シ第二陣地上ニ敵兵力占領シアラサルコトヲ認メシ時ハ戦闘線ハ更ニ之ヲ占領スルコト勿論ナルモ夫レ以上ノ前進ハ新命令ニヨリ之ヲ規正スヘキ』モノナリトセリ

第二陣地ノ攻撃準備

斯ノ如クシテ第一線師團敵第二陣地前ニ到着セハ

- (1) 攻略セル土地ヲ堅固ニ占領シ
- (2) 迅速ニ現状ヲ明ニシ
- (3) 遲滞ナク第二陣地攻撃ノ準備ヲ爲ス
- (4) 以上ノ如クスルト同時ニ上級指揮官ニ報告ス

此攻略陣地ノ占領ヲ確保スル爲メノ陣地ハ三線ト爲シ第一線ハ即チ突撃陣地トナル此占領ニ方リテハ野戦砲兵ノ一部ハ攻略セル陣地内ニ進ミ第一線陣地

第二線師團ノ交代要領

ノ守備ヲ支援スルコト勿論ナリ此際攻略セシ地區内ニ殘存セル敵ノ據點等ハ一切掃蕩ス其方法ハ「シャンパーニユ」會戰時ノ教訓ニヨリ直接其正面ヨリ攻撃スルコトナク包圍ニヨリ孤立無援ノ位置ニ立タシメ陷落セシムルコトヲ圖ル此間第二陣地攻撃ニ任スル第二線師團長ハ著々第二陣地攻撃ノ計畫ヲナス此計畫ニ於テ最モ必要ナルハ砲兵ノ陣地變換ナリ第二陣地攻撃ノ爲メノ主ナル砲兵陣地及其附屬諸設備ハ第一陣地攻撃前其突撃陣地及其内方ニ設ケ陣地變換ノ實施ハ單ニ砲車ノ誘導ト觀測所ノ編成ヲ以テ足レル如ク

ス
第一陣地ノ攻撃順當ニ進捗シ步兵其攻略ヲ完ウスルヤ第二陣地攻撃ノ爲メ定メラレタル諸團隊ノ各部署ニ就クハ戦闘開始ノ順序ニ準ス即チ砲兵ヲ先ニシ步兵之ニ次ク而シテ其陣地變換ノ豫定ハ野戦砲兵ハ第一陣地攻撃當夜ヨリ重砲兵ノ一部ト塹壕砲ハ其翌日ノ夜迄ニ新位置ニ就キ各々其翌日ヨリ射撃ヲ開始シ得ル姿勢ニアラシメ重砲兵ノ全部ノ移轉ハ成シ得ル限り短時日ニ完了

スル如ク努力ス(重砲兵ハ多クハ攻城砲ナリシヲ以テ運動力甚タ少シ大威力重砲兵ニ於テ特ニ然リ)斯ノ如ク師團砲兵ノ陣地變換部署規正セララルルヤ第二線師團長ハ第一線師團長ノ許ニ至リ共ニ師團交代ニ關シ詳細ノ件ヲ決定ス

而シテ歩兵ノ交代ノ實施ハ第一線師團カ完全ニ攻略地ノ占領ヲ確定シ得ルト共ニ著手シ砲兵カ第二陣地ノ新攻撃準備ヲ爲セル間ニ實施ス第二線師團ハ交代著手ト共ニ攻撃地區ノ整備作業ヲ連續實施シ攻撃準備完成ト共ニ第二陣地ノ攻撃ヲ開始ス

之ヲ要スルニ右第二陣地ノ攻撃ニ對スル指示ハ十五年度ノ諸會戰ニ於ケルモノニ比スレハ甚タ詳細ニシテ適確ナリ然レトモ其規定スル所過度ニ詳細ニ過キ著シク軍隊ノ獨斷ヲ無視シタル點ハ佛人自ラ評シタル如ク『藥カ利キ過キ』タル感特ニ深く而シテ更ニ此攻撃方法ハ一般ノ情況ニ合セシヤ否ヤヲ考察スル時ハ明ニ大ナル缺陷アルハ縷述ノ要ナシ從テ以上ノ攻撃方法ニ關スル規定ハ唯情況ヲ顧慮外ニ置キタル場合ニ於ケル制限目標ノ攻撃法ノ一範例タルニ

過キサルノモト認ムルヲ得ヘシ

第六節 攻撃兵力及攻撃經過ノ概要

佛軍ノ攻撃兵力

當初攻撃ニ任セシ佛軍ハ第一線軍團三個(十一師團ニシテ其第一線ニ五個師團)ニシテ第二線ニ八別ニ五個師團ヲ有セリ

其砲兵ノ比率ハ前會戰ニ比シ甚タ大ニシテ野砲五百四十門、重砲兵ハ加農及榴彈砲ヲ加ヘテ四百九十二門アリ此外大威力重砲兵六十四門ヲ有セリ(野砲ハ每三十砲ハ每三十九米ニ一門ノ比ナリ)

英軍ノ攻撃兵力

英軍ハ最初ノ計畫ニ於テハ十七個師團ヲ參加セシムヘキ計畫ナリシカ「ベルダン」戰ノ關係上漸次其兵力ヲ増大シ六月末ニハ二十六個師團ニ達シ其内初期ノ攻撃ニ於テ第一線トナリシハ十一個師團トス

攻撃準備砲撃ハ六月二十五日ヨリ開始セリ但シ獨軍ノ記事ニヨレハ佛軍ノ試射ハ二十二日ヨリ開始セルカ如シ而シテ英佛軍ノ砲撃地區ハ單ニ「ソナム」ノ正面ノミニ止ムルコトナク「シャンパーニュ」方面及「イーブル」方面ニモ相應

スル如ク努力ス(重砲兵ハ多クハ攻城砲ナリシヲ以テ運動)斯ノ如ク師團砲兵ノ陣地變換部署規正セラルルヤ第二線師團長ハ第一線師團長ノ許ニ至リ共ニ師團交代ニ關シ詳細ノ件ヲ決定ス

而シテ歩兵ノ交代ノ實施ハ第一線師團力完全ニ攻略地ノ占領ヲ確定シ得ルト共ニ著手シ砲兵力第二陣地ノ新攻撃準備ヲ爲セル間ニ實施ス第二線師團ハ交代著手ト共ニ攻撃地區ノ整備作業ヲ連續實施シ攻撃準備完成ト共ニ第二陣地ノ攻撃ヲ開始ス

之ヲ要スルニ右第二陣地ノ攻撃ニ對スル指示ハ十五年度ノ諸會戰ニ於ケルモノニ比スレハ甚タ詳細ニシテ適確ナリ然レトモ其規定スル所過度ニ詳細ニ過キ著シク軍隊ノ獨斷ヲ無視シタル點ハ佛人自ラ評シタル如ク『藥カ利キ過キ』タル感特ニ深ク而シテ更ニ此攻撃方法ハ一般ノ情況ニ合セシヤ否ヤヲ考察スル時ハ明ニ大ナル缺陷アルハ縷述ノ要ナシ從テ以上ノ攻撃方法ニ關スル規定ハ唯情況ヲ顧慮外ニ置キタル場合ニ於ケル制限目標ノ攻撃法ノ一範例タルニ

過キサルノモト認ムルヲ得ヘシ

第六節 攻撃兵力及攻撃經過ノ概要

佛軍ノ攻撃兵力 當初攻撃ニ任セシ佛軍ハ第一線軍團三個(十一師團ニシテ其第一線ニ五個師團)ニシテ第二線ニハ別ニ五個師團ヲ有セリ

其砲兵ノ比率ハ前會戰ニ比シ甚タ大ニシテ野砲五百四十門、重砲兵ハ加農及榴彈砲ヲ加ヘテ四百九十二門アリ此外大威力重砲兵六十四門ヲ有セリ(野砲ハ每三十三米ニ一門、重砲ハ每三十九米ニ一門ノ比ナリ)

英軍ノ攻撃兵力 英軍ハ最初ノ計畫ニ於テハ十七個師團ヲ参加セシムヘキ計畫ナリシカ「ベルダ」戰ノ關係上漸次其兵力ヲ増大シ六月末ニハ二十六個師團ニ達シ其内初期ノ

攻撃ニ於テ第一線トナリシハ十一個師團トス

攻撃準備砲撃ハ六月二十五日より開始セリ但シ獨軍ノ記事ニヨレハ佛軍ノ試射ハ二十二日より開始セルカ如シ而シテ英佛軍ノ砲撃地區ハ單ニ「ソナム」ノ正面ノミニ止ムルコトナク「シャンパーニュ」方面及「イーブル」方面ニモ相應

ニ大ナル砲撃ヲ實施セリ

「ソナム」方面攻勢地區ニ對スル砲撃ハ前述ノ如キ多數ノ火砲ヲ以テ佛軍力會テ經驗シタルコトナキ程猛烈ナリキ即チ「シャンパーニュ」秋季戰ニ於テハ前述ノ如ク從前ニナキ程度ニ熾盛ナル砲撃ヲ實施セシカ「ソナム」戰ハ更ニ之ニ倍加セリ即チ前者ニ於テハ每吉米四百吉瓦ノ彈藥ヲ投シタルニ「ソナム」ニ於テハ佛軍ハ九百吉瓦ノ彈藥ヲ消費セリ以テ其熾烈ナルヲ知ルヘシ

攻撃前進開始

右ノ如キ莫大ナル砲彈ヲ以テ陣地ヲ破壊シタル後七月一日早朝ヨリ更ニ猛烈ナル砲撃ヲ開始シ午前七時半步兵ノ攻撃ヲ開始セリ

英軍ハ「ソナム」河北ヨリ「アングル」河北方ニ亙ル一二十五吉米ノ正面ニ向ヒ攻撃セシカ第一日ニ於テ成功セシハ獨軍陣地ノ最突出部タル「フリクール」(附圖第六、第七)ニシテ他ノ正面殊ニ「アングル」河以北ノ地區ハ一度獨軍陣地ニ進入セシ

英軍ノ攻撃方針一變

モ二日獨軍ノ逆襲ニ會ヒ擊退セラル是ニ於テ英軍總司令官「ヘイグ」將軍ハ攻撃方針ヲ一變シ專ラ前記「フリクール」ノ正面ヲ攻撃セリ

即チ本來鉞形ニ「アングル」河兩岸ヨリ攻撃スヘキ方針ヲ捨テ「アングル」河南方地區ヨリノミ攻撃セリ

英軍ハ爾後此方針ニ基キ「フリクール」方面ヨリ主力ヲ以テ逐次攻撃ヲ進メ五日間ノ攻撃ニヨリ漸ク正面十吉米、最深部深サ約千五百米ノ獨軍陣地ヲ奪取シ獨軍中間陣地前ニ達セリ

佛軍ニ於テハ攻撃第一日「ソナム」河北方地區ニ於テ獨軍第一陣地ノ一部(正面約五百吉米)ヲ奪取シ爾後二日間ノ準備後五日再ヒ殘存セル陣地ヲ奪取セリ「ソナム」河北方ニ於テ斯ノ如ク攻撃遅々タルニ反シ「ソナム」河南方ノ地區ニ於テハ第一日正面約七吉米ノ獨軍第一陣地ヲ奪取シ七月二日獨軍中間陣地約三吉米ヲ占領シ七月三日ニ於テハ最深部六吉米ヲ突破シ正面十二吉米、最深部六吉米ノ三角形地區ヲ奪取セリ即チ「ソナム」南岸ニ於テハ七月三日既ニ獨軍第二陣地ノ一部ヲ占領セリ

攻撃第五日ノ成績

要スルニ攻撃第五日迄ニ於テハ附圖第八ニ示ス如ク「ソナム」河南方ノ低地ニ

於テ佛軍ハ楔狀的ニ進入シテ獨軍第二陣地ノ一部ヲ占領セシニ拘ラス同河北方主攻撃方面ニ於テハ攻撃ノ進捗不良ニシテ獨軍中間陣地前ニ達シ得タル正面ハ僅ニ二吉米ニ過キス故ニ五日ヨリ七日迄更ニ攻撃準備ヲ爲シ第一陣地ノ殘餘ヲ攻撃シ七月十三日漸ク深サ一吉米ノ獨軍陣地ヲ奪取シ第二陣地前ニ達シ得タリ然レトモ其正面僅ニ四吉米ナリ

成績ノ比較

右ノ景況ハ既述「シャンパーニュ」會戰ト比較シテ觀察スル時ハ甚タ興味アリ即チ「シャンパーニュ」ニ於テハ第一日獨軍陣地ノ第一線ヲ突破シ第二日ニハ概ネ第二陣地ニ達シアリタルニ拘ラス「ソナム」戰ニ於テハ其主攻撃地區ニ於テ攻撃第十三日ニ漸ク第二陣地前ニ達シタルナリ而シテ「ソナム」戰ニ於テハ「シャンパーニュ」戰ト異リ獨軍ハ「ベルダン」攻撃ニ熱中セシ爲メ増援部隊ノ派遣其意ノ如クナラサリシニ拘ラス尙以上ノ如ク遅々タリシナリ故ニ「ソナム」戰ニ於テ英佛軍若シ「シャンパーニュ」戰ノ如キ迅速ナル攻撃ヲ實施セハ之ヨリ以前ニ獨軍第二陣地ヲモ突破シ得タルヘキヲ想像セラル即チ「ソナム」戰ニ

於ケル佛軍ノ攻撃法カ戰術上ニ於テハ進歩セルモノ甚タ多カリシモ其突破方法カ一般ノ情況ニ合セサルモノナルコトヲ認メ得ルナラン

獨軍兵力増加

以上ノ如ク英佛軍カ一陣地ヨリ一陣地ニ逐次攻撃準備ヲ改メテ徐ロニ攻撃セル間獨軍ハ逐次増援部隊ヲ得テ之ニ對抗スルヲ得タリ即チ七月五日ニハ五十三個大隊ヲ増加シ七月十一日ニハ總兵力十六個師團トナリ十七日ニハ二十個師團ヲ算スルニ至レリ

獨軍ハ以上ノ如クシテ到著セシ増加部隊ヲ以テ局部的ニ逆襲ヲ實施セリ然レトモ本來被攻撃正面廣大ナルニ比シ獨軍豫備隊ノ來著少カリシカ爲メ此來著部隊ヲ逐次使用スルノ已ムナカリシト英佛軍ノ攻撃慎重ナリシ爲メトニヨリ其逆襲ハ效果少カリシノミナラス指揮ノ紊亂、混雜、地形ノ不明等ニ原因シテ獨軍ハ無用ノ損害ヲ蒙ルコト甚タ多カリキ

獨第一軍司令官「フォン、ペロウ」將軍ハ之ニ關シ述ヘテ曰ク

「著々到着スル第一ノ増援隊ハ僅ニ最危險ナル破口ヲ補綴スルニ足レルノ

ミ増援トシテ來レル新師團ハ其下車スルト共ニ逐次混亂中ニ投入セララルルカ又ハ前線ニ於テ全然消耗セル部隊ヲ交代スル爲メ前進セシメラレタリ之カ結果トシテ屢々我陣地ヲ喪失セリ』

殊ニ戰線ノ一部カ突破セラレタル爲メ「ソナム」兩岸地區ノ如キハ戰線中ニ一大凹形ヲ生セリ此凹形ノ戰線ヲ守備スルニハ多大ノ兵力ヲ注入スルヲ要シタル爲メ増援部隊ヲ全然受動的ニ使用スルノ餘儀ナキニ至リタリ

以上ハ「ソナム」戰ノ初期ニ於ケル會戰經過ノ概況ニシテ獨軍ハ増加兵力少キ爲メ之カ防禦ニ大ナル苦痛ヲ嘗メシカ英佛軍ノ攻撃進捗緩慢ナリシ爲メ僅少ノ土地ヲ喪ヒタルニ止マリ獨軍ハ一危機ヲ脱シタリ

第二次攻 英佛軍爾後ノ攻撃ニ於テハ更ニ突破口ヲ擴大シテ十分廣大ナル正面ヲ以テ第二陣地ヲ攻撃スルヲ要スルハ會戰一般方針ノ示ス所ナリ然ルニモ拘ラス英佛軍ハ此狹小ナル正面一楔形ニ突入セル正面一ヨリ引續キ第二陣地ヲ攻撃セリ即チ七月十二日ヨリ獨第二陣地ニ對シ攻撃準備砲撃ヲ實施シ十四日ヨリ十七

日迄ノ間攻撃ヲ強行シ正面四吉米強ノ獨軍陣地ヲ奪取セリ然ルニ翌十八日獨軍ノ抵抗軍ハ此點ニ對シ一大恢復攻撃ヲ實施シタルカ爲メ遂ニ再ヒ奪還セラレ爾後數週間ニ互リ慘烈ナル爭奪戰ヲ惹起セリ而シテ九月三日英佛軍ハ第二陣地ニア

ル獨軍比隣據點ヲ奪取スルヤ漸クニシテ此突角部ノ爭奪戰ヲ終リ九月九日頃獨舊第二陣地正面十二吉米ヲ占領スルヲ得タリ

即チ七月十七日英佛軍ハ一度獨第二陣地ノ一局部ヲ奪取セシモ爾後行ハレタル獨軍大規模ノ逆襲ニヨリ奪還セラレ茲ニ正面數吉米ノ土地ヲ兩軍爭奪ノ焦點ト化セシメ一箇月半ノ後漸ク其安定ヲ得タルナリ

獨軍ヲ斯ノ如ク第二陣地ノ戰鬪ニ甚タ頑強ナリシハ佛軍カ前述ノ如ク攻撃緩慢ナリシ間續々増援部隊ヲ得タルニヨル即チ七月十九日ニハ約二十八個師團ヲ算シ其砲兵又著シク増加シ英軍正面約十六吉米ノ正面ニ於ケル砲數千門ヲ超過シ獨軍ハ之ヲ第一、第二軍ニ分チ戰術區分ヲ確立シ整然タル防禦戰鬪ヲ爲スニ至リシカ爲メナリ

此間「ソナム」南岸ニアル佛軍ハ最初ヨリ作戰セシ第六軍ト其右翼ニ隣接セル第十軍トニヨリ東南方ニ對シ攻撃ヲ實施セシモ是亦大ナル犠牲ヲ拂ヒ漸ク獨軍陣地ノ一小局部ヲ奪取セシニ止マレリ

第三次ノ攻撃
次テ九月十五日英佛軍ハ再ヒ獨軍舊第三陣地ノ攻撃ヲ開始セリ

其攻撃準備砲撃ハ九月十二日ヨリ始メ歩兵ノ攻撃前進ハ十五日午前六時過ヨリ開始セリ此時英軍ハ始メテ「タンク」ヲ使用シ獨軍ニ對シ多大ノ驚愕ヲ與ヘタリ而シテ其成果比較的大ナルモノアリ十五、十六日ノ兩日ニ於テ正面八吉米、深サ二吉米ヲ占領セリ斯クテ再ヒ攻撃準備ヲ整ヘタル後九月二十五日ヨリ約二十時間ノ準備砲撃後攻撃ヲ實施シ正面約四吉米ノ獨軍新陣地線ヲ奪取セリ以上ノ如ク英佛軍ノ攻撃ハ甚タ執拗ナルノミナラス其攻撃法漸次急襲的トナリシニ反シ獨軍陣地ハ急遽構築セシ陣地ナリシカハ獨軍ハ其戦線ノ突破ヲ恐レタルコト甚シク當時參謀次長トナリシ「ルーデン、ドルフ」ハ其回想録ニ左ノ如ク告白セリ

獨軍ノ窮乏

「ソナム」北方地區ニ於テハ二十五日ニ至リ本會戰中最モ烈シキ最初ノ戰鬪アリ……………

「カンブレ」ニ於テ編成セル抽出兵團及西方戰場ニ投セントシテ造ラレタル豫備新編成兵團ハ最早不足セリ師團及新編成諸部隊ハ逐次急速ニ「ソナム」戰場ニ増加セラレ其戦線ニ永ク停止スルニ至レリ爲メニ休養時期及閑散ノ正面ニ於ケル訓練益々缺乏スルニ至リ軍隊ハ疲勞其極ニ達シ萬事皆休セリ」ト以テ獨軍力困窮其極ニ達セシヤヲ知ルニ足ラン

「ソナム」戰ノ終熄

以上ノ如ク獨軍ハ非常ナル窮乏ニ陥リシヲ以テ英佛軍ノ所期スル目的ヲ達成スルハ實ニ此時機ニ存シタリ而シテ英佛軍ハ十月ニ入りテモ再三再四攻撃ヲ實施セシカ時既ニ天候不良ノ季節ニ入りシノミナラス本來決戰的著意ヨリ出タルモノニアラサルヲ以テ徹底的ニ打撃ヲ與フルヲ得スシテ遂ニ戰鬪漸次交綏シ「ソナム」會戰ハ遂ニ決戰時機ヲ見ルコトナク十一月中旬終熄セリ之ヲ要スルニ右「ソナム」會戰ハ最初大規模ノ攻撃準備ヲ爲シタルニ拘ラス當

初攻撃進捗甚シク遅々タリシカ爲メ好機ヲ逸スルコト大ナリキ然レトモ第二陣地占領後一般ノ形勢ハ英佛軍側大ニ有利トナリタリト雖最初ノ攻撃計畫ニ於テ英佛軍ハ決戦時機ニ備フル準備ナカリシ爲メ獨軍ヲシテ漸ク窮境ヨリ脱セシメタリ換言セハ英佛軍ハ先ニ述ヘタル如ク徒ニ土地ノ獲得ニ汲々トシテ決戦ヲ交フルノ計畫及準備ナカリシカ爲メニ再ヒ塹壕陣地ニ於テ相見ユルノ餘儀ナキニ至リタリ

第七節 獨軍ノ防禦戰闘法ノ推移

「ソナム」戦開始當初ノ防禦陣地及防禦戰闘法ハ前ニ述ヘタル如ク最前線固守主義ニシテ陣地ノ一部奪取セラルルヤ直ニ逆襲ヲ以テ之ヲ奪回セントスル方法ナリキ然ルニ英佛軍ノ攻撃法カ從來ト趣ヲ異ニセシ爲メ右ノ方法ハ適當ナラサルコトヲ發見セリ即チ獨第一軍司令官「ペロー」將軍ハ「ソナム」戦ノ經驗」中ニ述ヘテ曰ク「敵ハ我陣地ヲ砲彈ノ漏斗孔ト化シテ防備ヲ薄弱ニシタル上強力ナル砲兵ノ準備射撃ノ後歩兵攻撃ヲ行ハシム而シテ敵歩兵ノ進路ヲ開ク砲

防禦戰
期ノ一變轉

彈幕ハ我支援部隊ノ陣地ノ前方ニ張ラレ又敵ノ攻撃目標以外ニ張ラルル障壁射撃幕ハ之ヨリ後方ニアル我豫備隊ノ來著ヲ妨ク故ニ歩兵戰闘ハ大部分第一線部隊固有ノ力ノミニ依リ行ハレタリ」即チ佛軍砲兵火力ノ爲メニ守兵ノ縦長ニ於ケル連鎖ハ遮斷セラレタルヲ以テ之ヲ奪回センカ爲メノ逆襲動作ハ甚々困難トナリ加之此砲撃ノ爲メ第一線ト後方トノ電話連絡杜絶シ爲メニ「歩兵ハ至難ノ情況ニ於テ戰闘シアルニ拘ラス數時間乃至數日間全ク其固有ノ力ニテ戰闘スル情況ニ放棄セラレタリ又他ノ一方ニ於テハ之ニ反シ後方ニ於テ實際ノ戰況ニ通セサル爲メ第一線ニ不必要ニ多數ノ豫備隊ヲ注入セリ之カ爲メ無用ノ損害ヲ惹起セリ」ト之カ爲メ獨軍カ從來得意トセル逆襲ヲ以テ陣地ヲ恢復スル防禦戰法ハ會戰當初既ニ新攻撃法ニ對應シ難キヲ發見セラレタリ即チ防者カ從前ノ會戰ノ如ク兵力ヲ縦長ニ配置シ運動力ヲ以テ陣地ヲ恢復セントスル新主義ハ茲ニ一頓挫ヲ來シ何等カノ改正ヲ加フヘキ必要ニ迫ラレタリ

而シテ單ニ後方ヨリノ増援逆襲ノ困難ヲ緩和センカ爲メニハ最初ヨリ必要ナル兵力ヲ第一線ニ備ヘ其位置ヲ固守セシムレハ可ナルカ如シ然レトモ第一線ニ最初ヨリ必要ナル兵力ヲ配置スル時ハ『未タ敵ノ突撃ヲ受ケサルニ先チ最前線部隊ハ大損害ヲ受ケ自力ヲ以テ敵ノ突撃ヲ撃退シ得ルコト甚タ不確實トナルニ至ル』ヘキ不利アリ(獨軍第四軍團長「フォン・アルニム」將軍ノ手記)

防者ノ進退兩難

是ニ於テ防者ハ進退兩難ニ陥リタリシカ「フォン・アルニム」將軍ハ次ノ如クセリ『敵ノ重大ナル砲火ノ許ニ於テハ最前線ハ假令敵ノ攻撃ヲ豫期スル場合ニ於テモ唯信賴シ得ヘキ僅少ノ守兵ト少數ノ機關銃ノミヲ以テ之ヲ守備シ爾餘ハ成ルヘク後方ニ控置シ以テ爲シ得ル限り強力ナル逆襲ヲ實施スルニ供セリ而シテ斯ノ如ク僅少ノ守兵ヲ以テセル最前線若シ敵ノ攻撃ヲ受ケ危急ヲ告クルニ至レハ其直後ニ小集團ニ分チ控置セラレタル歩兵及機關銃ヨリ成ル支援隊ハ後方ヨリノ命令ヲ待ツコトナク敵兵進撃ノ瞬間ニ於テ最前線ニ赴援セシム』『此方法ヲ以テセル防禦ハ殆ト常ニ成功シ敵ヲ撃退シテ之ニ大損害ヲ

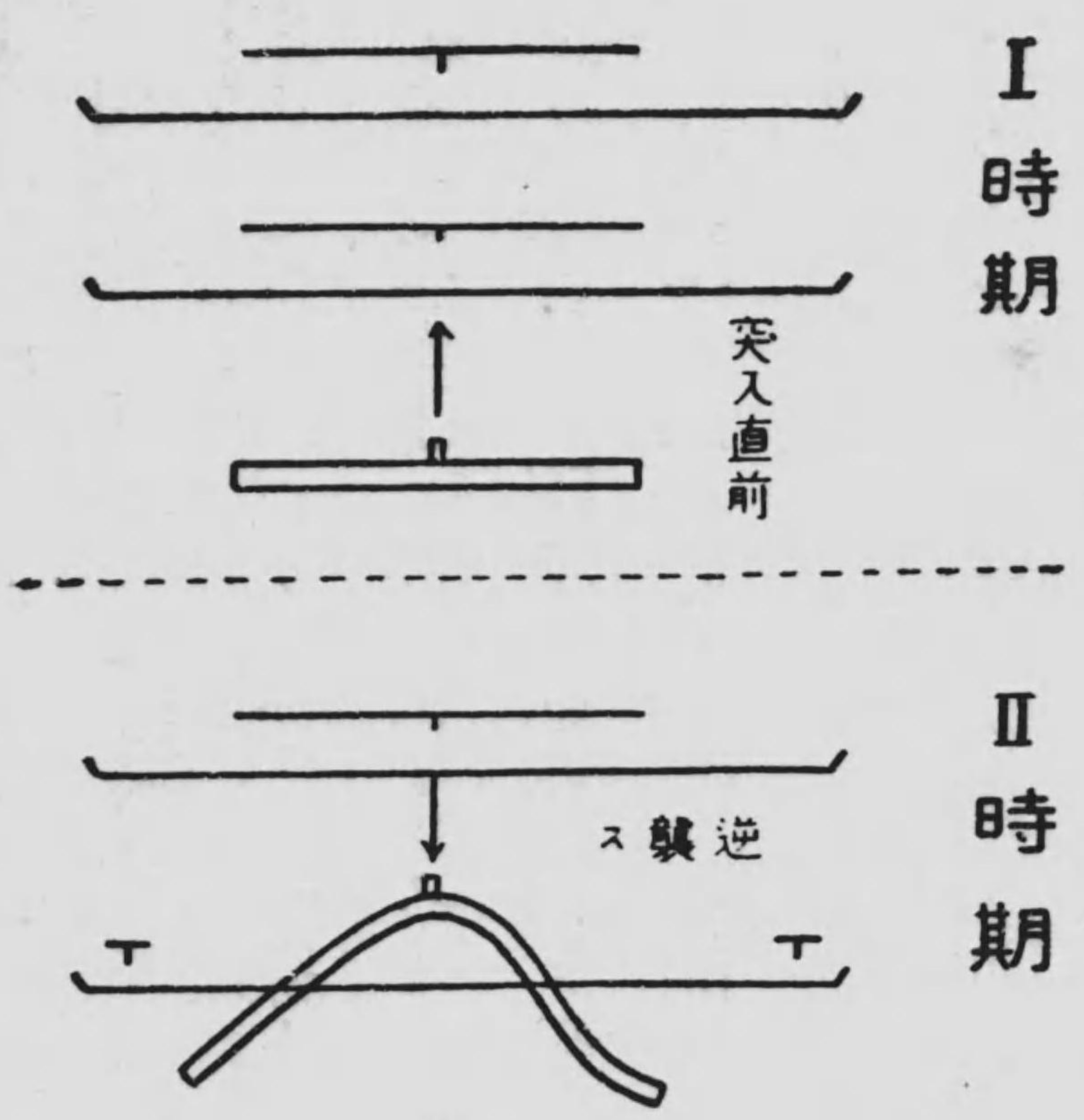
與フルヲ得タリ』(同上)

防禦ノ新方法

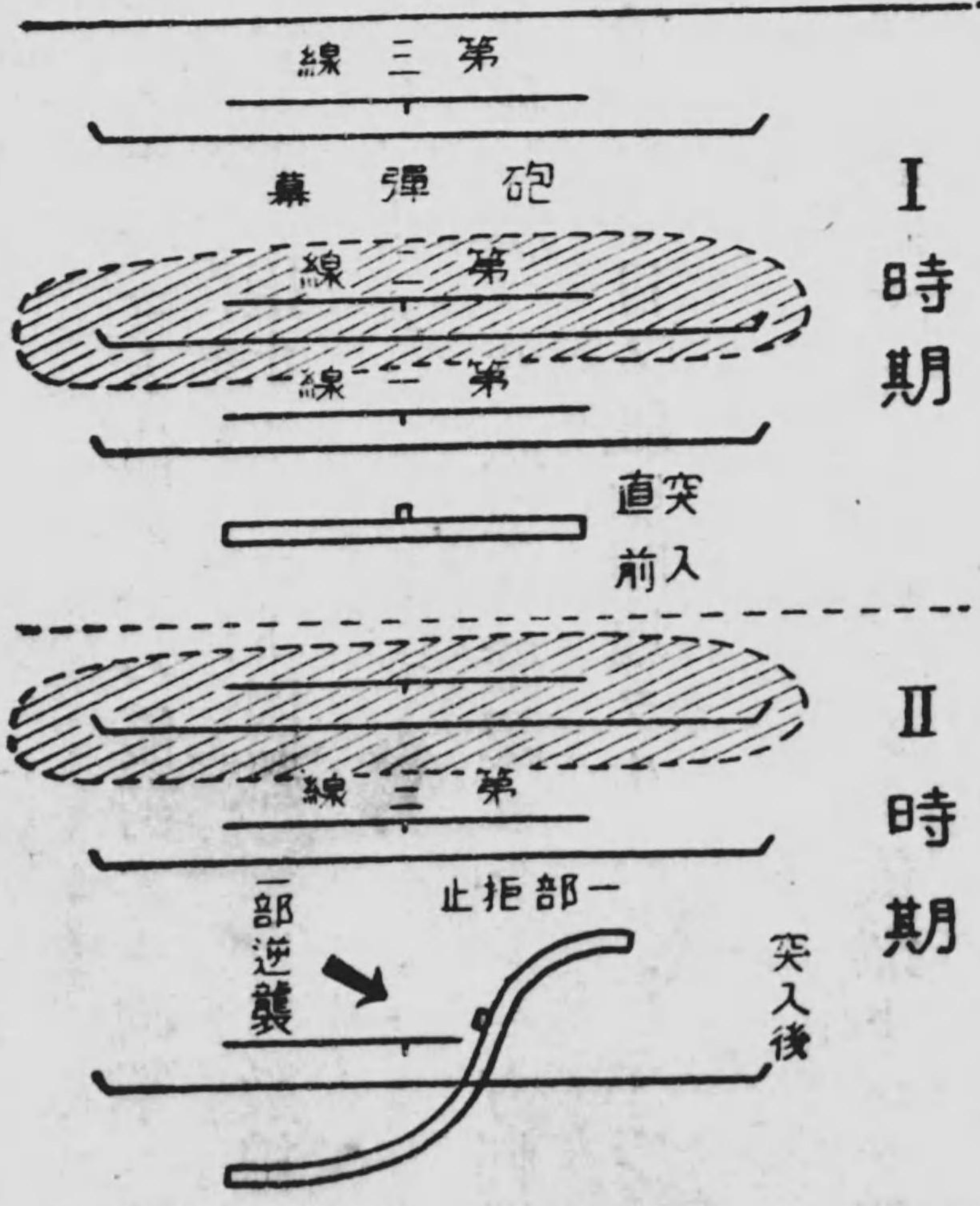
然レトモ此方法ハ實際ニ於テ甚タ困難ナルヘシト何ナレハ支援散兵壕ニ位置セル支援隊モ亦敵砲彈下ニアルヲ以テ砲彈幕ニ直接附隨シ來ル敵ニ先チ第一線ヲ救援セントスルハ理想ニ過キスシテ可能性ハ甚タ少ナリト謂ハサルヘカラス之ニ反シ十六年八月二十四日第一軍司令官ニ報告セシ「スタイン」兵團長ノ復命書ハ此點ニ關シ明答セリ曰ク『第一線散兵壕ハ單ニ敵ノ小部隊ニ對シ之ヲ撃退シ得ルニ足ル兵力ヲ配置シ(二乃至三名)過度ニ強大ナラシメス第二線散兵壕ハ一部ヲ以テ其散兵壕ヲ守備スル兵力ニ充テ他ノ一部ヲ以テ第一線散兵壕ノ援助ニ充ツル如ク兵力ヲ配置スル』ヲ可トスルコトヲ復命セリ之ヲ要スルニ右兩案ヲ見ルニ共ニ最前線ヲ稀薄ニスル點ニ於テ一新傾向アルヲ見ル而シテ前者ノ案ハ依然從來ノ如ク逆襲ニヨリ最前線ヲ恢復スルヲ主義トシ後者ハ保持スヘキ防禦線ヲ一線ニ極限スルコトナク一地帯タラシメントスル點ニ於テ從前ト大ニ異ル所アリ即チ從來ハ第二線以下ノ守兵ハ第一線ヲ増加ス

ルカ又ハ逆襲センカ爲メニ梯置セシモノナリシカ今ヤ極度ニ第一線ヲ固守セ
 ンカ爲メニ之ニ兵力ヲ注入スルコトナク第一線第二線必要ノ場合ニ於テハ第
 三線ヲモ結合シテ陣地ヲ固守セントスルモノアルニ至レルナリ此防禦法ハ一
 見逐次防禦ノ感アルモ否ラサルナリ何トナレハ縦長ニ配置セル守者カ進入ス
 ル攻者ニ對シ同時ニ抵抗スルヲ以テナリ
 之ヲ約言セハ守兵ハ數線ノ散兵壕ニ位置シ後方ノモノハ前方ノモノヲ支援セ
 ントスルモ此支援動作ハ攻者ノ掩護砲彈幕ニ阻止セラレ時機動モスレハ後ル
 ルヲ通常トス是ニ於テ結局第二線以下ノ陣地ニアル守兵モ先ツ其位置ヲ固守
 シテ敵歩兵ノ進入ヲ局限シ然ル後逆襲ヲ敢行スルノ順序トナリタリ而シテ斯
 ノ如ク變化シタル所以ノモノハ前述ノ如キ攻者ノ砲彈幕ノ關係ナリ之ヲ試ミ
 ニ圖示スレハ左ノ如シ

從前
 準備砲擊終リ攻者突撃ニ移ル際ハ
 第一、第二線ノ防者トモ塹壕上ニ
 アリ得タルヲ以テ攻者縱令進入ス
 ルモ第二線ニテ逆襲スルヲ得



本會戰
 準備砲擊終リ攻者突撃ニ移ル際ニ於
 テ第二線以下ノ陣地上ニハ攻者ノ砲
 彈幕アルカ爲メ第一線ノ守兵ノミ漸
 ク塹壕上ニ現出シ得ルノミ從テ攻者
 第一線陣地内ニ進入シタル時ニハ第
 二線ノ陣地守兵ハ辛ウシテ塹壕上ニ
 現出シ得ルノミ從テ一部ハ先ツ敵ヲ
 拒止シタル後逆襲セサルヘカラス



以上ノ新傾向ハ二個ノ新原則ヲ示セリ即チ

其一ハ數線ノ陣地ハ一地帶タルヘキモノナルコト他ノ一ハ優勢ナル砲撃ニ伴ヒ來ル攻者ニ對シテハ軍ニ一線上ニ於テ敵ヲ拒止スルコト困難ニシテ數線ヨリナル一地帶上ニ於テ拒止スルヲ要スルコト、
而シテ此方法ハ彈幕射撃戰術ノ發達ニ從ヒ益々其必要ヲ確認セラレ一方輕機關銃ノ採用ハ愈々此方法ノ可能性ヲ増大シ今日ノ細胞陣地ヲ生スルニ至ラシメタリ

因襲的戰
法ヨリ蟬
脫

但シ「ソナム」戰ニ於テハ右ノ如ク明瞭ニ意識セルモノ稀ニシテ依然トシテ單一線上即チ第一線陣地ニテ敵ヲ拒止センコトヲ企圖セシモノ少カラス先ニ述ヘタル第四軍團長「フォン、アルニム」ノ如キ第一軍司令官「ペロー」ノ如キ即チ是ナリ故ニ右ハ「スタイン」兵團長ノ獨創的意見ニシテ攻者ノ優勢ナル砲撃ニ對シ之ニ適應シタル新方法タリ而シテ此方法ハ數百年來因襲的ニ傳ハリタル防禦概念——一線上ニテ防禦——ヨリ蟬脫スル方法ニシテ正ニ卓見ナリト謂ハサ

戰法上ノ
奇襲

ルヘカラス從テ此方法ヲ實施センカ爲メニハ防禦戰法上ニ於テ各種ノ變革アルハ勿論ニシテ茲ニ防禦戰法ハ別ニ一新軌道ニ進展スルコトトナリタリ之ヲ要スルニ右ノ如キ變遷ハ攻者ノ攻撃法カ從前ト異リタルカ爲メ生シタルナリ而シテ獨軍ハ英佛軍ノ新攻撃法ニ對應スル方法ヲ豫メ講スルコトナク從來ノ方法ヲ金科玉條ノ如クシテ襲用セシ爲メ多大ノ不利ヲ見タルコト前各項ニ述ヘタリ以テ時世ノ趨勢ヲ觀察シ豫メ之ニ對應スル策ヲ講スルノ必要ナルコトヲ知ルヘシ而シテ從來ノ諸戰爭ニ於テハ一戰爭期間兩軍ノ戰法ハ固定的ナリシカ前述ノ如ク陣地戰間ニ於テハ戰法ヲ新ニセル攻者常ニ奇利ヲ博シ之ヲ察知セサル防者常ニ意外ナル損害ヲ見タル事實ハ吾人ノ注意シテ觀察スヘキ點ニシテ單ニ戰術的ニ奇襲スルノ外戰法上ノ奇襲ノ必要ナルヲ知ラン而シテ「ソナム」戰ニ於テハ前述ノ著意ノ緊要ナルヲ教訓セル他ノ一事項アリ其ハ守兵力砲彈落下地帶ヨリ退避シタル後行ヲ逆襲ノ不可ナリシコト是ナリ即チ獨軍歩兵ハ從來攻者ノ砲彈幕陣地上ニ來ルヤ後方若クハ側方ニ難ヲ避ケ砲

擊終ルヤ之ト同時ニ進入スル敵歩兵ニ對シ逆襲シテ陣地ヲ回復スルヲ常則トシ此方法ハ損害モ少ク大ニ實用セラレタル所ナリ(此方法ハ十五年七月「ルバンド」ガ「ツブ」ノ戰闘ニ際シ同軍團長カ報告セシ意見ニヨリ常套的戰法トナリタルコト前篇ニ述ヘタル如シ)

然ルニ此方法ハ攻者カ一陣地上ニノミ掩護砲火ヲ集中スル場合ニ於テノミ實

施シ得ルモノニシテ「ソナム」戰ニ於テ英佛軍カ行ヒシ如キ攻撃法(砲彈幕ヲ以テ歩兵

ノ前方、側方ヲ掩護スル方法ヲ云フ)ニヨル時ハ遂ニ逆襲ノ時機ナキハ明ナリ然ルニ「ソナム」戰初

期ニ於テハ獨軍歩兵ハ從前ノ方式ニ從ヒ後方ニ退避セシ爲メ此運動ハ結局陣

地ヲ放棄スルト同一ノ結果トナレリ

「フォン、ビュロー」カ其「ソナム」戰ニ於テ第一軍ノ得タル教訓」中ニ述ヘテ

曰ク『會戰中敵ノ猛火ヲ受クル地域ハ極メテ廣大ナルヲ以テ此間横方向ニ移

動スルハ何等益ナシ一陣地ヲ撤退シテ後退スルハ前者ニ比シ更ニ危険ナルモ

ノトス敵ノ猛火ハ假令狹小ナル正面ニ限定セラルル時ニ於テモ常ニ後方ニ縱

深ヲ有スル如ク指示セラレ從テ第一線ノ後方ニアル諸隊モ前方ト同様規則的

ニ砲撃セラル若シ我第一線戰鬪部隊退却中此敵火ノ地帯中ニ運動スル時ハ迅速ニ士氣ヲ沮喪セシメラル經驗ニ依レハ斯ノ如キ部隊ニハ決シテ逆襲ヲ要求シ難シ其結果タルヤ常ニ撤退セル陣地ノ喪失トナリ且隣接部隊ヲ困難ナル情況ノ下ニ置クニ至ル』ト加之此種陣地任意撤退ノ風習ハ其弊大ナルモノアルヲ想像シ得即チ士氣沮喪セル守兵ヲシテ退却ノ好辭柄ヲ作ラシムルヲ以テナ

「ソナム」河南岸地區ノ獨軍防禦カ初期韌軟性ヲ缺キタルハ之カ爲メナランカ「ファルケンハイン」ハ之ニ關シテ述ヘテ曰ク『局部的司令官カ佛軍ノ成功ニ

陣地ノ死恐怖シテ獨軍カ尙保持セル第二陣地ノ一部(「ソナム」南岸ノ諸陣地ヲ云フ)ヲ撤退シテ實際ニ於テモ分離セル諸軍隊ヲ後方ノ線上ニ退却セシメントシタル時形勢ハ重大トナレリ故ニ會戰ノ初期數週間敵ハ「ソナム」北岸ヲ容易ニ攻撃スルヲ得タリ之カ爲メ我軍隊(即チ「ソナム」北岸ニアルモノ)ハ非常ナル損害ヲ蒙リ敵ノ前進ハ大ニ容易トナルニ至レリ』

是ニ於テ「ファルケンハイム」ハ七月三日訓示シテ曰ク「就中肝要ナルハ我現在ノ諸陣地ヲ死守シ且之ヲ改善スルニ在リ予ハ諸塹壕ヲ任意ニ撤退スルコトヲ嚴禁セントス我諸兵卒ハ強硬ナル抵抗ヲ爲スノ意志ヲ肝銘スルヲ要ス」又獨近衛軍團長ハ十六年九月八日各隊長ニ訓示ヲ與ヘ其冒頭ニ曰ク「我軍ハ總テ『我軍ノ保持セル地區ヲ如何ニシテモ維持セサルヘカラス一小地區ト雖軍司令官ノ許可ナク故意ニ之ヲ放棄スヘカラス』ト

守兵ハ前方ニ潛進

以上ノ如ク獨軍ハ會戰間訓示シテ敵砲彈ニ對シ側方及後方ニ退避スルヲ禁シタリト雖一陣地ヲ死守シテ重大ナル損害ヲ受クルハ耐ヘ難キ事ナリ是ニ於テ獨軍ハ守兵ニ其陣地ヲ放レテ前方ニ進出スルヲ獎勵スルニ至リ「我第一線ニ送ラルル敵ノ猛火ヲ一時免ルル爲メ獨斷ニ富ミ迅速ナル逆襲ヲ行フ如ク教育セラレタル軍隊ハ遲疑スルコトナク前方ニ潛進ス此運動ハ小群毎ニ躍進シテ壕前ニアル砲彈漏斗孔ニ至ルモノトス」ト云ヘリ以テ獨軍カ敵ノ強大ナル壓迫ニ對シ軍ニ之ニ忍從スルコトナク飽ク迄モ之ニ反抗セントスルノ意氣ノ旺盛ナ

ルヲ知ルヘシ蓋シ當時英佛軍ノ彈幕射撃カ固定的ナリシカ爲メ彈幕地帶ト之ニ追隨スル攻者歩兵トノ間ニ若干ノ空隙アリシニ乘セントスルニアリ而シテ獨軍歩兵カ斯ノ如キ方法ヲ以テ頑強ニ抵抗スル爲メ攻者ノ彈幕射撃戰術ハ一層周密ニ且密度濃厚トナレリ(之ニ關シテハ後述ス)

會戰初期ニ於ケル獨軍ハ其防禦兵力ノ少キト以上ノ如キ弊アリシ爲メ陣地ハ逐次奪取セラレタルモ上記「ファルケンハイム」ノ訓示等ニヨリ陣地ノ放棄ヲ嚴ニ禁シタルト増援部隊ノ來著ニ從ヒ一般ニ沈著性ヲ増大シ陣地モ亦逐次改善セラレタルカ爲メ獨軍ハ甚タ鞏軟ナル抵抗ヲ爲スニ至レリ即チ英軍カ七月十七日獨軍第二陣地ノ一部ヲ突破シタル後十八日ヨリ七週間ニ亙リ獨軍カ實施シタル抵抗戰ノ如キ其一例ナリ今其概要ヲ述フレハ左ノ如シ

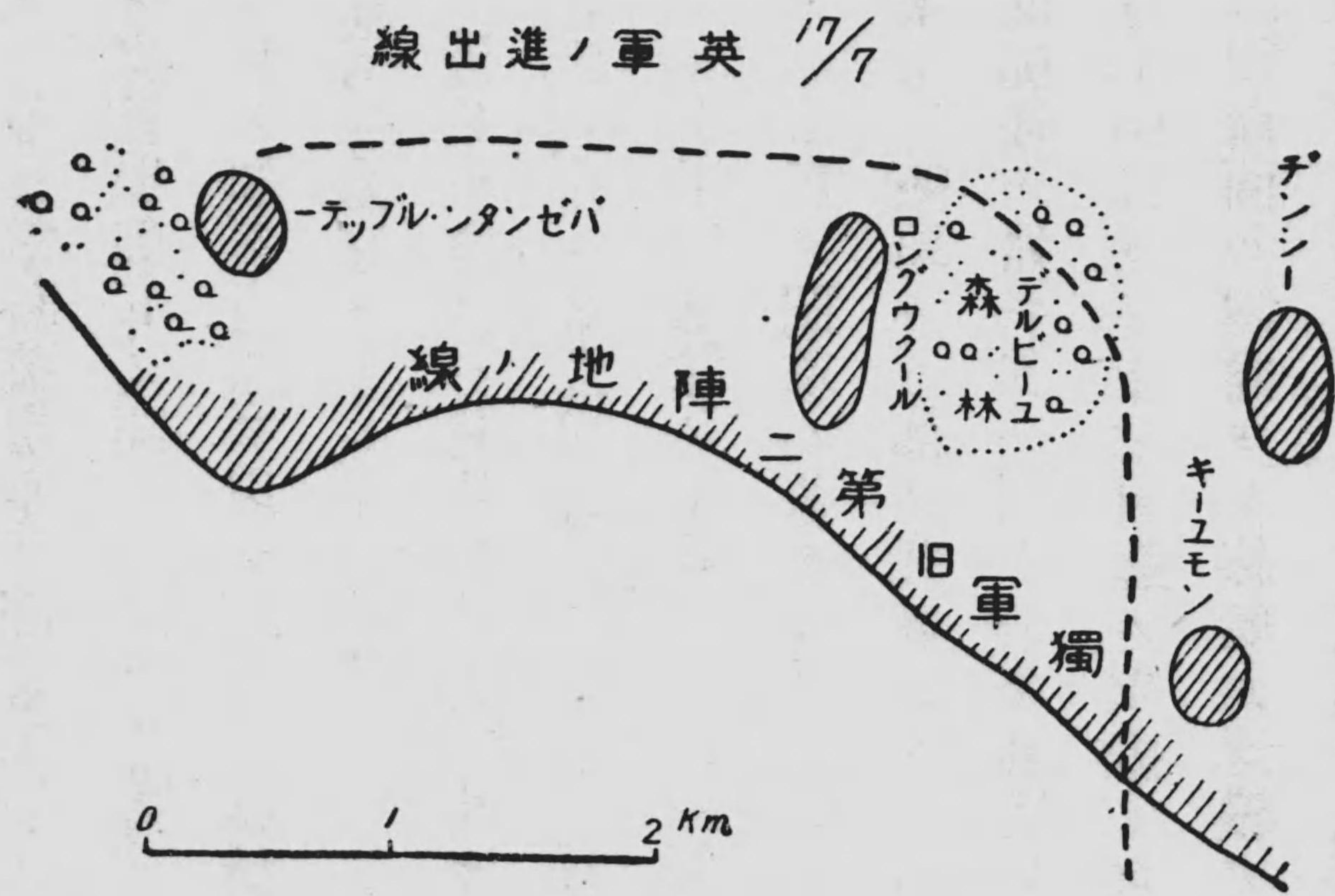
英軍ハ七月十四日ヨリ十七日迄ノ攻撃ニ於テ左圖ノ如ク第二陣地ヲ奪取セシカ十八日以後前面及側面ヨリ終始大規模ナル逆襲ヲ受ケ「デルビュー」森林ハ九月三日迄爭奪ノ巷トナリタリ英軍カ九月三日「ギューモン」ヲ占領シ九月九

頑強ナル
防戰

日「ヂンシイ」ヲ攻略スルヤ
漸ク七月十七日ノ線ヲ回復
セリ

附言

獨軍カ「デルビーユ」森
林ニ於テ上述ノ如キ靱
軟ナル抵抗ヲ爲シ得タ
ルハ英軍カ豫メ其ノ側
翼ニアル「ギューモン」
ヲ攻略セサリシカ爲メ
ナリ英軍カ此ノ如ク隣
接翼ノ據點ヲ攻略セス
シテ前挿圖ノ如ク楔狀



聯合作戦ノ困難地境
作戦ノ要點ニ近キ

形ニ突入セシハ戰術上ノ一錯誤ナルコト素ヨリ論スルノ要ナシ然レトモ
九月三日迄七週間以上此據點ヲ奪取セサリシ原因ハ他ニアリ即チ「ギュー
モン」東側地區カ英佛軍ノ作戦地境ナリシカ爲メ英佛兩軍ノ戰鬪統一ヲ
缺キタル結果ト認メラル此件ニ關シ英軍「レピングトン」大佐ハ其著書ニ
於テ「英國軍人ハ誠意ヲ有スルモ英佛兩軍司令部カ其意見ヲ異ニセリ」ト
述ヘ暗ニ兩軍作戦ノ不統一ナルヲ告白セリ是ニ於テ「ジョッフ」將軍ハ
兩軍ノ右傾向ヲ矯メンカ爲メ八月二十五日「ヘイグ」將軍ニ書ヲ送り「英諸
軍カ佛諸軍ト同一ノ大努力ヲ爲スノ必要及同時ニ此努力ヲ爲スノ必要」
ヲ立説シ九月三日ノ總攻撃ヲ實施スルニ至リタルナリ故ニ右戦例ハ聯合
作戦ノ如何ニ困難ナルカヲ知り得ルト共ニ作戦地境ニ近キ要點カ攻撃進
捗ニ如何ニ大ナル關係ヲ有スルカヲ知ル一戦例トモナルナリ
之ヲ要スルニ獨逸軍ハ從來小規模ノ逆襲ヲ以テ陣地ヲ恢復スルヲ唯一ノ防禦
戦法ト爲セシモ前記ノ如キ英佛軍カ至大ナル火力ヲ發揚スルヲ以テ陣地ニ大

大規模ノ
逆襲

ナル空隙部ヲ生シテ敵ノ占領スル所トナルコト多カリキ是ニ於テ「ソナム」戰ニ於テハ獨軍ハ小規模ノ逆襲ヲ以テ陣地ヲ恢復セントスルハ不可能トナリ大規模ノ逆襲即チ恢復攻撃大ニ賞用セララルルニ至レリ十六年八月二十三日獨軍第一軍司令官「ベロー」ハ一教令ヲ以テ逆襲ト恢復攻撃ニ關シ教フル所アリ即チ

『逆襲ハ次ノ如キ場合ニ於テノミ成功セリ

a. 第一線ニアル下級指揮官ノ勇敢ナル決心ニヨリ始マリ敵ノ未タ占領地區ヲ堅固ニセサル間迅速ニ行フ場合

b. 計畫的ニ準備セル後行フ場合(恢復)「ト

恢復攻撃ノ方法
而シテ其方法ヲ述ヘテ曰ク

『逆襲ハ下級指揮官ノ獨斷ヲ以テ行フ之カ爲メ、豫備隊援隊等ヲ各第一線ニ接近セシム

最有利ナルハ側方ヨリ豫備隊ヲ前進セシムルニアリ砲兵ハ歩兵ノ逆襲ニ際

シ逆襲目標ノ前方ニ墻壁射撃ヲ行ヒ敵ノ後方部隊カ前進シテ格闘戰ニ加入スルヲ妨害ス

恢復攻撃

恢復攻撃ハ逆襲機ヲ失シタル場合ニ於テ大規模ニ行フ逆襲動作ナリ故ニ此指導ニハ高級指揮官之ヲ掌リ砲兵ハ攻撃ニ於ケル如ク準備射撃ヲ爲シタル後實施スルモノトス之カ爲メ恢復攻撃ノ決心ノ基礎トスヘキモノヲ舉クレハ左ノ如シ

a. 彼我ノ情況ノ詳細

b. 攻撃目標ノ確定

c. 恢復攻撃ヲ行フニ要スル兵力ノ計算

d. 戰鬪部隊自身カ供給シ得ヘキ歩兵兵力及高級指揮官ノ準備スヘキ歩兵ノ増援兵力

e. 攻撃準備ニ使用スヘキ砲兵ノ數及要スレハ隣接軍ヨリ協力スヘキ砲兵

ノ増援並軍豫備ヨリ増加スルヲ要スル砲兵數等但シ此場合ノ砲兵ノ數ハ敵砲兵ニ對スル制壓砲兵、攻撃目標ヲ射撃スル砲兵、敵軍塹壕及攻撃目標ノ兩側ニ對シ射撃ヲ指向スル砲兵等ニ分チ各別ニ計算ス

f. 火焰放射器迫撃砲及工兵中隊所要數

g. 攻撃ニ要スル彈藥ノ計算（十六年八月二十三
日獨第一軍ノ教令）

恢復攻撃ノ利益

之ヲ要スルニ右恢復攻撃ノ方法ハ全然攻撃一般ノ要領ニ準據スルモノニシテ前記戰例亦此要領ニ據リタルモノトス而シテ恢復攻撃ニ任スル部隊ハ第二線ニアル諸兵種ヨリナル豫備隊ナリ此豫備部隊力會戰間第一線ニ増援シテ第一線守備隊ト共ニ敵ノ攻撃ヲ防止スルヲ有利トスルヤ將又右ノ如ク恢復攻撃ヲ爲スヲ有利トスルヤハ興味アル問題ニシテ戰鬪ノ經驗ニヨレハ後者ヲ有利トスルコト獨第一軍司令官ノ左記記述ノ如シ

『此恢復攻撃カヨク準備セラレタル時ハ敵ノ猛火ノ下ニ於テ受動的ノ態勢ヲ保持スルニ比シ其損害ヲ減少スルノミナラス彈藥ヲ消費スルコト却テ少

シ是レ全然受身ノ姿勢ニアリテハ部隊ノ自信減少シ從テ不要ナル阻塞射撃ヲ行フコト頗ル多ケレハナリ』ト

右ハ「ベルダン」戰ニ於テ曩ニ「マンジャン」將軍カ述ヘタル意見（前章參照）ト一致セリ之ヲ以テ見ルニ從來ノ如ク防者カ止ツテ防禦スルハ現今ノ趨勢ニ適應セサルヲ知ラン詳言セハ防禦ハ火力ト運動力ヲ適當ニ協調スルニアラサレハ不可ナルコトヲ知ルヲ得ヘク此事實ハ歐洲大戰ニ於テ明ニセラレタル戰鬪原則中ノ顯著ナル一ナリ

防禦兵力部署

指揮ノ機關ノ固定

次に研究スヘキハ防禦ニ於ケル兵力ノ部署法トス此點ニ就テハ佛軍カ曩ニ「ベルダン」戰ニ於テ得タルト同一ノ教訓ヲ得遂ニ佛軍カ「ソナム」戰ニ實施シツツアルト略々同様ノ方法ヲ實施セリ即チ防禦會戰ニ於テハ戰場ニ於ケル指揮關係ヲ常續的ニ定ムルノ必要ナルヲ發見セシコト是ナリ換言セハ防者ハ敵ノ大攻勢ノ準備アルヲ發見スルヤ同一ノ軍司令官及軍團長ヲシテ會戰間一定地區ノ戰鬪指揮ヲ常續セシムルヲ有利トスルコト是ナリ蓋シ「ソナム」會戰初期

ニ於テハ獨軍ハ増加部隊ノ來著ニ件ヒ戰鬪地區及指揮系統ヲ絶エス變更スルノ已ムナキニ至リタル爲メ指揮上ニ少カラサル混亂ヲ生シ從テ無益ニ多大ノ損害ヲ生セリ而シテ此損害大ナル直接ノ結果トシテ漸次土地ヲ喪失セル爲メ各司令部ヲ漸次後退スルヲ要シ從テ半永久的ニ設置セシ通信組織ヲ破壊シ指揮益々困難ニ陥リ其不利ハ愈々増大セリ

故ニ啻ニ地區ニ一定ノ軍團長ヲ置クノミナラス各軍團及師團ノ地區ニハ地區ニ固定セル參謀(一名ハ補給、一名ハ地區ノ防禦等)ヲ置キ且工兵及交通兵ノ將校數名ヲ固定シ軍團司令部ニハ固定ノ航空隊長、對航空機防禦隊長及無線電信隊長ヲモ有セシメタリ但シ師團長ヲ一地區ニ固定スルコトハ佛軍同様之ヲ爲ササリキ蓋シ「會戰間ニハ部下軍隊ノ實情ニ精通シアル指揮官ヲ有スルコト極メテ必要ニシテ高級指揮官ハ部下隊長ノ人物ヲ知り其眞價及特性ヲ知ルコトニヨリ之ヲ適當ナル箇所ニ使用スルノ決心ヲ取り得ヘシ此原則ハ特ニ戰鬪單位タル師團ニ適用」スルヲ適當トスルカ故ナリ「故ニ師團ノ交代ニ際シテハ師團長ハ其師團

ト共ニ交代スルヲ要ス」トセリ (第一軍ノ「ソナム」戰ヨリ得タル經驗)

附言

「ベルダン」戰ニ於テ佛軍ノ實施セシ要領ハ地區ヲA、B、C、等ノ數地區ニ分チ各地區ニハ一定ノ軍團長ヲ置キ之ヲA、B、C、集團長ト命名シ師團長ハ師團ト共ニ交代セリ

右ハ陣地戰ノ如キ性質ノ戰鬪狀態ニアル時ニ於テハ眞ニ至當ナル部署法ニシテ合理的ナル一原則ト認ムヘキ事項ナリトス

第八節 航空隊ノ顯著ナル發達

ソナム」戰ハ航空機ノ發達上亦一進歩ヲ劃セル會戰ナリ前期諸會戰ニ於テモ航空機ハ大ニ活動セシモ機數ノ多カラサルト技術ノ進歩未タ全カラサリシ爲メ飛行機ハ軍ニ偵察用トシテ價值ヲ認メラレシニ止マリ砲兵ノ觀測其他ノ用役ニハ未タ十分ト謂ヒ難カリシカ「ソナム」戰ニ於テ會戰初期獨軍ノ飛行機數甚タ少カリシ爲メ佛軍飛行機ハ絶對ノ優勢ヲ以テ十分ニ活動スルヲ得其結果

獨歩的ニ研究實驗スルヲ得セシメ而モ技術ノ進歩亦著シカリシカ爲メ該部隊ハ異常ナル進歩ヲ爲シ航空隊ハ軍ノ爲メニ緊要ナル一兵種ヲ爲スニ至レリ

初期ニ於ケル航空兩軍ノ攻防勢カ

即チ英佛軍航空機ハ會戰初期其優勢ナルニ乘シ獨軍『砲兵ヲ全然制壓セリ……』即チ獨軍砲兵ハ其歩兵ノ最モ危険ナル瞬間ニ於テ或ハ敵砲兵ヲ制壓シ或ハ攻撃ノ爲メ待機陣地ニ在ル敵歩兵ニ對シ殲滅的射撃ヲ指向シ以テ友軍歩兵ヲ援助スルノ行動ヲ獲得スルヲ得セシメサリキ獨軍砲兵ハ人員材料ニ多大ノ損害ヲ受ケ爲メニ敵砲兵ハ其完全ナル空中觀測ト相俟チテ我砲兵ニ妨害セラルルコトナク射撃ヲ行ヘリ攻撃間獨軍歩砲兵ハ又敵飛行機ノ攻撃ヲ受ケ（英佛軍飛行機ハ本會戰ニ於テ機關銃ヲ以テ地上ノ戰鬪ニ參與セリ獨軍歩兵ハ之ニ對シ何等爲ス所ヲ知ラサリシト云フ）之カ志氣上ニ及ホセル不良ナル影響ハ爭フヘカラサルモノアリキ最初ニ於ケル獨軍飛行機ノ優勢ナラサリシ原因ノ一ハ實ニ其數上ノ懸隔大ナルニアリテ一對十ノ比ヲナセリ其外獨軍對航空機砲ハ其數僅少ニシテ加フルニ敵ノ射撃ニ依リ材料ニ大ナル損害ヲ受ケ且過度ノ射撃ノ爲メ砲身ノ損廢ヲ來シタリ又對航空機防禦用通信網ヲ缺キタ

ルカ爲メ敵飛行機到着ノ報告ハ常ニ其機ヲ失シタリ又獨軍戰鬪用飛行機中隊ハ甚シク後方ニ位置セシヲ以テ其到着ハ甚タ遲滯セリ（獨軍第一軍ノ得タル教訓）右ノ情況ハ九月ニ入ルモ尙之ヲ回復シ得サリシカ如シ我從軍武官ノ視察ニ依レハ左ノ如シ

『九月十日ヨリ九月十六日ニ至ル一週間ノ統計ニヨルモ獨軍飛行機ノ英軍戰線ヲ横斷セルモノハ僅ニ十四機ニ過キス之ニ反シ英軍飛行機ノ獨軍戰線ヲ超エタルモノハ其延數實ニ二千乃至三千ニ達セリト謂フ故ニ英軍飛行機ハ獨軍内部ノ情況ヲ詳細ニ偵察シ寫眞ニヨリ報告シ且盛ニ地上攻撃及後方諸設備ノ爆撃ヲ行ヒタリ英軍飛行機ハ斯ノ如ク優勢ナリシカハ英軍砲兵ハ到ル處ノ谷地凹地ニ何等ノ遮蔽ナキ陣地ヲ占領セルモ獨軍砲兵ヨリ受クル損害ナク獨軍ノ砲兵ハ全ク之ニ相反セリ』

即チ獨軍ハ會戰初期右ノ如キ貧弱ナル航空隊ヲ以テ戰鬪セルニ反シ英佛軍ハ甚シク優勢ナル航空隊ヲ以テ殆ト獨軍ノ妨害ヲ受クルコトナク獨歩的ニ活躍

セリ

獨軍カ漸次航空兵力殊ニ戰鬪用飛行機ヲ増加スルヤ制空權恢復ノ爲メ多大ナル效果アリシコト勿論ナリ

劣勢ナル
航空隊ノ
使用

然レトモ獨軍航空勢力ハ常ニ英佛軍ニ劣リシカハ制空權回復ハ甚タ困難ニシテ漸クニシテ戰況切迫セル時機ニ航空兵力ヲ集中シテ一時的ニ制空權ヲ奪取スルコトニヨリ満足セリ又從來獨軍ハ飛行隊ヲ以テ空中ニ防禦幕ヲ作りシカ本會戰間之ヲ禁シ適時攻勢的ニ使用セリ蓋シ斯ノ如キ方法ハ單ニ航空兵力ヲ分散スルニ過キサリシヲ以テナリ

又航空隊對航空機砲及空中防禦通信所間ノ連絡ヲ確保シ航空情報勤務ヲ圓滑ナラシメ機ヲ失スルコトナク攻者飛行機ヲ驅逐スルノ制漸クニシテ確立セリ以上ノ如クシテ會戰末期ニ於テハ獨軍飛行隊ハ漸ク佛軍飛行隊ニ對抗スルコトヲ得其效果ノ甚大ナルコトモ亦認メラレタリ

獨軍ニ於テハ以上ノ如キ悲境ニアリシカ英佛軍ハ之ニ反シ會戰初期ヨリ絶對

優勢ヲ保持センカ爲メニ此間ニ於ケル英佛軍航空隊ノ發達進步ハ特ニ顯著ニシテ今日ノ發達ハ概ネ此期間ニ醸生セラレタルモノナリ

第九節 英佛軍ノ攻撃ニ關スル觀察

十六年ニ於ケル西方戰場作戰ノ跡ヲ觀ルニ同盟軍側ト聯合軍側トニ於テ戰略上ニ於テモ戰術上ニ於テモ其景況甚タ相似タルモノアリ即チ獨軍ハ聯合軍ノ攻撃企圖アルヲ察知シ機先ヲ制センカ爲メ不十分ナル兵力ヲ以テ「ベルダン」ヲ攻撃シテ聯合軍ノ兵力ヲ牽制シ聯合軍ハ又「ベルダン」ニ於ケル戰況ヲ緩和スル爲メ是亦不十分ノ兵力ヲ以テ「ソナム」ニ攻勢ヲ爲シタルコト上述ノ如シ然レトモ大局上ニ於テハ共ニ大ナル成果ヲ擧ケ得サリシカ「ソナム」戰ハ獨軍カ「ベルダン」ニ其主力ヲ注入セル時ナルヲ以テ英佛軍ノ爲メニハ攻撃ニ最有利ナル機會ニアリシモノト謂ハサルヘカラス然ルニ遂ニ突破ノ目的ヲ達成シ得サリシハ攻撃ノ根本方針カ誤レルコトニ歸セサルヘカラス抑モ本「ソナム」會戰ノ攻撃準備ニハ四箇月間ヲ費セシヲ以テ敵ニ其企圖ヲ十

英佛軍攻
勢ノ好機

獨軍カ漸次航空兵力殊ニ戰鬪用飛行機ヲ増加スルヤ制空權恢復ノ爲メ多大ナル效果アリシコト勿論ナリ

劣勢ナル
航空隊ノ
使用

然レトモ獨軍航空勢力ハ常ニ英佛軍ニ劣リシカハ制空權回復ハ甚タ困難ニシテ漸クニシテ戰況切迫セル時機ニ航空兵力ヲ集中シテ一時的ニ制空權ヲ奪取スルコトニヨリ満足セリ又從來獨軍ハ飛行隊ヲ以テ空中ニ防禦幕ヲ作りシカ本會戰間之ヲ禁シ適時攻勢的ニ使用セリ蓋シ斯ノ如キ方法ハ單ニ航空兵力ヲ分散スルニ過キサリシヲ以テナリ

又航空隊對航空機砲及空中防禦通信所間ノ連絡ヲ確保シ航空情報勤務ヲ圓滑ナラシメ機ヲ失スルコトナク攻者飛行機ヲ驅逐スルノ制漸クニシテ確立セリ以上ノ如クシテ會戰末期ニ於テハ獨軍飛行隊ハ漸ク佛軍飛行隊ニ對抗スルコトヲ得其效果ノ甚大ナルコトモ亦認めラレタリ

獨軍ニ於テハ以上ノ如キ悲境ニアリシカ英佛軍ハ之ニ反シ會戰初期ヨリ絶對

優勢ヲ保持センカ爲メニ此間ニ於ケル英佛軍航空隊ノ發達進歩ハ特ニ顯著ニシテ今日ノ發達ハ概ネ此期間ニ醸生セラレタルモノナリ

第九節 英佛軍ノ攻撃ニ關スル觀察

十六年ニ於ケル西方戰場作戰ノ跡ヲ觀ルニ同盟軍側ト聯合軍側トニ於テ戰略上ニ於テモ戰術上ニ於テモ其景況甚タ相似タルモノアリ即チ獨軍ハ聯合軍ノ攻撃企圖アルヲ察知シ機先ヲ制センカ爲メ不十分ナル兵力ヲ以テ「ベルダン」ヲ攻撃シテ聯合軍ノ兵力ヲ牽制シ聯合軍ハ又「ベルダン」ニ於ケル戰況ヲ緩和スル爲メニ是亦不十分ノ兵力ヲ以テ「ソナム」ニ攻勢ヲ爲シタルコト上述ノ如シ然レトモ大局上ニ於テハ共ニ大ナル成果ヲ擧ケ得サリシカ「ソナム」戰ハ獨軍カ「ベルダン」ニ其主力ヲ注入セル時ナルヲ以テ英佛軍ノ爲メニハ攻撃ニ最有利ナル機會ニアリシモノト謂ハサルヘカラス然ルニ遂ニ突破ノ目的ヲ達成シ得サリシハ攻撃ノ根本方針カ誤レルコトニ歸セサルヘカラス抑モ本「ソナム」會戰ノ攻撃準備ニハ四箇月間ヲ費セシヲ以テ敵ニ其企圖ヲ十

英佛軍攻
勢ノ好機

分ニ察知セラレアルニ拘ラス初期獨軍ニ與ヘタル脅威ハ甚大ニシテ急襲的成
 果ヲ擧ケ得タルコト前述ノ如ク特ニ會戰初期ニ於ケル「ソナム」南岸地區ニ於
 ケル獨軍ノ狼狽狀態ノ如キ其顯著ナルモノナリ然ルニモ拘ラス獨軍ヲシテ
 能ク此難境ニ立ち攻撃ニ耐ヘ得シメタル所以ノモノハ佛軍ノ攻撃力「敵ノ
 陣地ヲ占領スルハ事實上歩兵ニアラスシテ砲兵ナル」主義（十六年九月佛砲兵旅團
 長及聯隊長會議ニ於テ
 「ムーション」
 大佐述ヘシ言）ニ墮シタリシカ爲メナリ而シテ此主義ニヨリ其戦法上ニ最モ明瞭
 ニ現レタル事實ニアリ其一ハ攻撃目標ヲ極度ニ限定シ歩兵ノ活潑ナル獨斷心
 ヲ全然拘制シタルコトニシテ他ノ一ハ過度ニ大ナル砲兵ヲ要求シタルカ爲メ
 攻撃正面過狹トナリシコト是ナリ「ソナム」會戰間右第一原因ノ爲甚タ有利ナ
 ル好機ヲ逸シタルモノト目セララル適例ヲ述フレハ左ノ如シ

其一ハ會戰初期ニ於ケル植民第一軍團ノ戰例是ナリ植民地第一軍團ハ同第
 二(左)第三師團(右)ヲ第一線、他ノ二個師團ヲ第二線トシ「ソナム」河南岸地區
 ヲ攻撃ス第二、第三師團ハ敵ノ第一陣地ヲ攻撃目標トシテ僅ニ二時間ニシテ之

過度ニ限
 定セシ攻
 撃ノ不利
 ナル戰例

ヲ奪取シタルヲ以テ豫メ受ケタル教令アルニ拘ラス許可ヲ得テ直ニ敵ノ中間
 陣地線ニ攻撃ヲ開始シ第一日夕中間地區ノ第一線陣地ヲ占領シタリ（當日ノ第三
 師團ノ損害
 僅ニ二百
 五十名）

第二日第三師團ハ更ニ攻撃前進ヲ起シ同日午後九時中間陣地ノ全部ヲ占領ス
第三師團ノ死傷
 約二百五十名）

第三日第二陣地ノ攻撃ハ更ニ容易ニ進捗シ午後四時ニハ第三師團ハ第二陣地ヲ
 全部占領ス（死傷約
 百名）兩翼ノ師團モ亦略々同様ニ進捗セリ

爾後植民地第一軍團ハ其前面ニ全ク敵ノ工事ナク極メテ少數ノ敵殘兵アルノ
 ミナルヲ以テ此好機ヲ利用セント欲セシモ會戰前ノ教令及當日ノ命令ニヨリ
 其後ノ前進ヲ禁セラレ一般ニ切齒シテ此好機ノ喪失スルヲ患ヒシカ已ムナク
 其位置ニ工事シテ停止セリ

其後更ニ慎重ナル前進ヲ實施スル爲メ七月五日迄ニ重砲ノ躍進ヲ實施シ七月
 六日ヨリ砲撃ヲ開始シ歩兵ノ攻撃ハ九日ヨリ實施セリ然ルニ此間獨軍砲兵増

加シ其砲數彼我相伯仲スルニ至リタルノミナラス敵歩兵モ亦其勢力ヲ回復シタルカ爲メ七月九日ノ攻撃ニ於テハ僅ニ敵ノ新第一線ノ一部ヲ奪取シタルノミニシテ爾後攻撃ハ更ニ進捗セス

以上ノ如ク初期甚タ好成績ナリシヲ以テ歩兵ノ攻撃前進ヲ拘制セサリシナラシニハ此方面ハ十分ニ突破シ得ラルヘキハ想像ニ難カラサルナリ故ニ參戰將校ハ一般ニ左ノ感想ヲ懷キタルモノノ如シ

1. 砲兵ノ準備十分ニシテ且攻撃間其支援適當ナルトキハ二年有餘ヲ費シテ築キタル陣地モ之カ占領意外ニ容易ナリ

2. 若シ「ソナム」戰ニ於テ『攻撃目標ヲ近距離ニ限定シ之カ占領後其位置ニ停止セシメタルカ如キ』戰法ヲ採ルコトナク當初ニ於ケル有利ナル情況ヲ直ニ利用シタランニハ確ニ敵ヲ突破シ得タラン

右ノ戰例ハ曩ニ述ヘタル「ファルケンハイン」ノ言ニアリシ獨軍ノ一危機ヲ爲セシ時機ヲ生シタルナリ然レトモ佛軍カ上述ノ如ク好機會ヲ逸シタル爲メ遂

ニ再ヒ之ヲ捕フル能ハサリキ

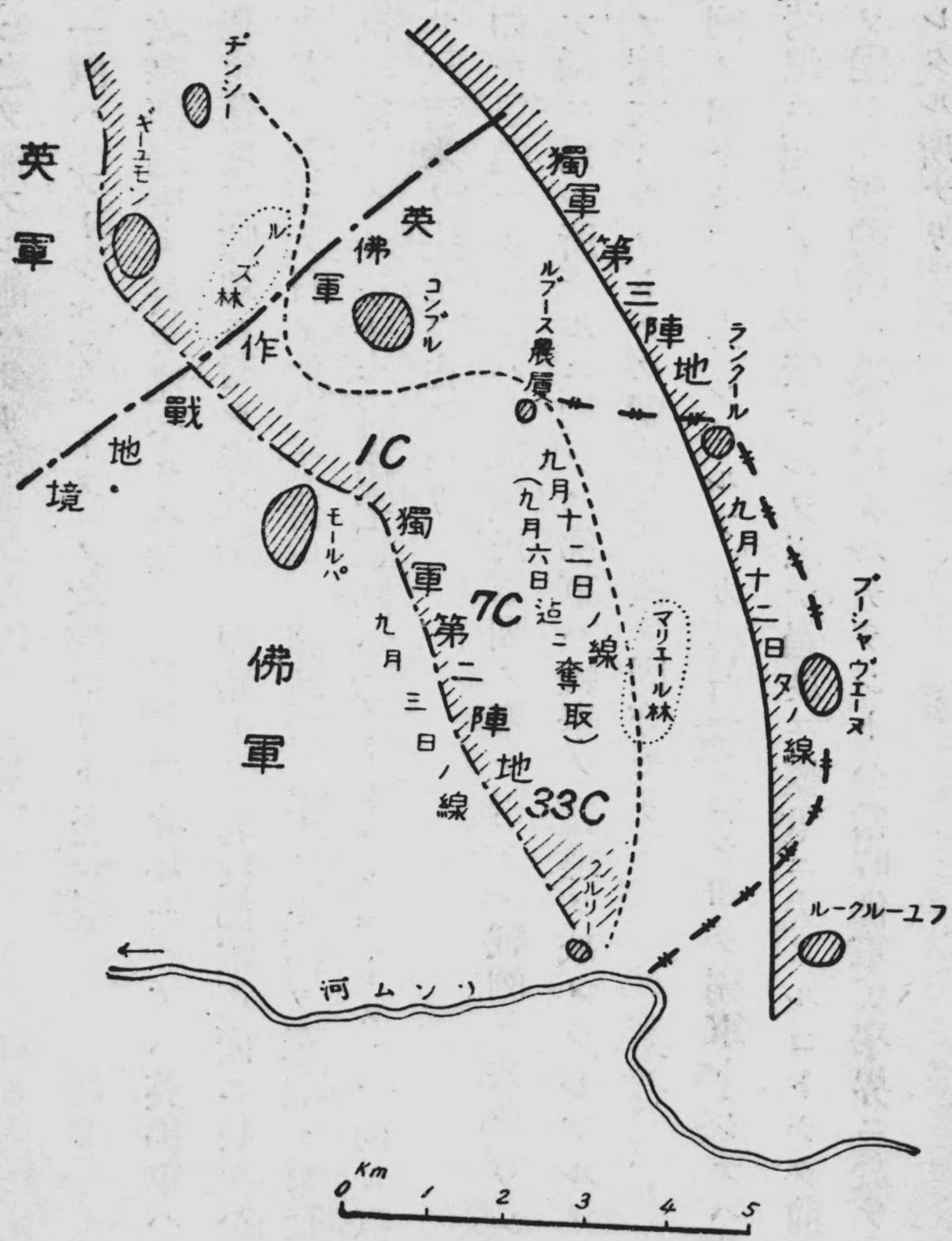
例 同第二戰 他ノ一例ハ「ブーシャヴェーヌ」ノ攻撃ナリトス(挿圖 參照)

曩ニ攻撃經過中ニ於テ述ヘタル如ク「ソナム」北岸ニ於テハ英佛軍ハ九月三日ヨリ獨軍舊第二陣地ニ對シ總攻撃ヲ開始セリ其内佛軍正面ニ於テハ佛第七軍團ハ九月三乃至六日ノ間獨軍舊第二陣地六吉米ノ正面ヲ奪取シ爾後十二日迄其位置ニ停止シ次テ十二日第七軍團ハ「ブーシャヴェーヌ」ニ向ヒ攻撃シ一舉ニ深サ三吉米ヲ完全ニ占領セリ

右ノ如キ迅速ナル前進ハ前述植民軍團ノ擧ケ得タル戰例ト共ニ「ソナム」戰中ニ於テ稀ニ見ル所ナルニ拘ラス佛軍ハ輕擧ノ猛進ヲ戒メラレアルヲ以テ續テ突破ヲ擴大スルコトナク爾後其位置ヲ固守セリ

此戰例ノ如キモ「ルーデンドルフ」カ告白(既述)セシ如ク獨軍トシテハ甚タ危險ナル情況ニ瀕シアリシ際ナルヲ以テ過度ニ慎重ニ失スルコトナク前進セハ陣地戰ヲ變シテ運動戰ニ導キ得タルナラントハ當時佛軍兵學界ニ於テ一般ニ評セラレタル所ナリ

圖要取奪ノ「ヌーエヴァシーブ」



逐次攻撃ノ非難

佛軍北方軍集團司令官ハ「シャンパーニュ」會戰ニ於テ受ケタル苦キ經驗ニ懲リ過度ニ慎重ナル前進法ヲ定メタルコト既述ノ如クナリシカ右ノ如ク好機ヲ逸シタルヲ知ルヤ「フオッシュ」將軍ニ對スル非難大ニ舉リ加之「ベルダン」ニテ初メテ使用セル遊動射彈幕カ甚タ有效ナルヲ知ルヤ（「ソナム」戰末期ニ於テモ之ヲ用ヒタリ）十六年ニ於テ定メシ攻撃戰法ノ根本方針ヲ一擲シ一舉突破ノ戰法ヲ可トスルノ議論擡頭スルニ至レリ

攻撃砲兵ノ配屬數

英佛軍ハ本會戰ニ於テ甚タ多數ノ砲兵ヲ使用シ「シャンパーニュ」ニ比シニ倍以上ノ彈量ヲ以テ獨軍陣地ヲ破壊セルコト既ニ述ヘタルカ如シ「ソナム」會戰ハ前述ノ如ク「砲兵ハ略奪シ步兵ハ占領スル」主義ヲ徹底的ニ實施セシ爲メ斯ノ如ク多數ノ砲兵ヲ用ヒタルコト勿論ナルモ此判決ニ先ンシ斯ノ如ク多數ノ砲兵ヲ以テ破壊セハ爾後攻者ノ前進及爾後ノ攻撃準備ニ如何ナル障碍ヲ及ホスヤニ就テハ顧慮スルノ遑ナカリシカ如シ然ルニ之ヲ實施シタル後ニ於テ參戰者ノ誰シモ感シタルコトハ餘リニ砲彈孔ノ多キカ爲メニ砲兵ノ躍進、彈藥ノ

「過キタル猶及ハサルカ如シ」